

基本計画書

基		本		計		画					
事	項	記				入	欄	備	考		
計		画				の		区		分	
フ		リ				ガ		ナ			
設		置				者					
フ		リ				ガ		ナ			
大		学				の		名		称	
大		学				本		部		の	
大		学				の		目		的	
新設学部等の目的		本学は、5学科構成により大学の目的を遂行している。平成28年4月より観光学科を含む7学科に再編成し以下の入学定員及び収容定員に変更する。 【生活デザイン学科】 生活デザイン学科は、「生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的として、現総合生活学科の生活デザインコースを基に平成28年4月に設置する。入学定員及び収容定員については、従来の学科への入学者のコース希望者の実績等を基に入学定員50人、収容定員100人にする。 【調理・製菓学科】 調理・製菓学科は、「食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的として、現総合生活学科の食物コースを基に設置する。入学定員については、従来の学科への入学者のコース希望者の実績等を基に入学定員120人、収容定員240人にする。 【栄養学科】 栄養学科は、「栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を養成する」ことを目的として、現総合生活学科の栄養コースを基に設置する。入学定員及び収容定員については、従来の学科への入学者のコース希望者の実績等を基に入学定員120人、収容定員240人にする。 【幼児教育学科】 幼児教育学科は、近年入学志願者が増加の傾向にあり、近隣地域を中心とする高校からの指定校枠の新規依頼や追加の要望及び幼児教育コースを設置している併設の大阪成蹊女子高校からの入学志願者が増加している状況にある。また、近隣の教育委員会等からは、幼稚園教員、保育士の養成に関し、入学定員増員の要望書が多数届いており、本学では、教育の質を保証できる範囲で地域の要請にできる限り対応することとし、同学科の入学定員を300人、収容定員600人にする。 【グローバルコミュニケーション学科】 グローバルコミュニケーション学科は、近年の募集状況を勘案し入学定員50人を30人、収容定員100人を60人にする。 【経営会計学科】 経営会計学科は、近年の募集状況を勘案し入学定員60人を50人、収容定員120人を100人にする。									
		新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		総合生活学科		2年	0人 (220)	—年次人	0人 (440)	短期大学士 (生活デザイン) (食物) (栄養)	第1年次 昭和26年4月	大阪府大阪市東淀川区 相川3丁目10番62号	※平成27年4月設置 届出予定
		生活デザイン学科		2	50 (0)	—	100 (0)	短期大学士 (生活デザイン)	平成28年4月 第1年次		
		調理・製菓学科		2	120 (0)	—	240 (0)	短期大学士 (調理・製菓)	平成28年4月 第1年次		
栄養学科		2	120 (0)	—	240 (0)	短期大学士 (栄養)	平成28年4月 第1年次				
幼児教育学科		2	300 (240)	—	600 (480)	短期大学士 (幼児教育)	平成28年4月 第1年次				
観光学科		2	90	—	180	短期大学士 (観光)	昭和42年4月 第1年次				
グローバルコミュニケーション学科		2	30 (50)	—	60 (100)	短期大学士 (グローバルコミュニケーション)	平成28年4月 第1年次				
経営会計学科		2	50 (60)	—	100 (120)	短期大学士 (経営会計)	平成28年4月 第1年次				
計			760 (660)	—	1520 (1320)						

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）			大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科（50）（平成27年4月届出予定） 調理・製菓学科（120）（平成27年4月届出予定） 栄養学科（120）（平成27年4月届出予定） 幼児教育学科（60） グローバルコミュニケーション学科（△20） 経営会計学科（△10） 総合生活学科（廃止）（△220） ※平成28年4月学生募集停止 大阪成蹊大学 マネジメント学部 スポーツマネジメント学科（90）（平成27年4月届出予定） マネジメント学科（△90）（平成28年4月） びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 スポーツ学科〔定員増〕（80）（平成27年3月認可申請）							
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
—			— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位			
教員組織の概要	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼任教員	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設		人	人	人	人	人	人	人	
			2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	25 (25)	
			2 (2)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	31 (31)	
			3 (3)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	20 (20)	
			5 (5)	9 (9)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	62 (62)	
			5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	18 (18)	
			3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	22 (22)	
			2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	18 (18)	
			計	22 (22)	16 (16)	20 (20)	0 (0)	58 (58)	0 (0)	196 (196)
	既設分	なし	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	
			— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	
			計	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)
合 計			22 (22)	16 (16)	20 (20)	0 (0)	58 (58)	0 (0)	196 (196)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		29 (29)		17 (17)		46 (46)			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		30 (30)		17 (17)		47 (47)			
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	201.52 ㎡	25,780.55 ㎡		55,805.91 ㎡		81,787.98 ㎡			
	運 動 場 用 地	0 ㎡	73,520.01 ㎡		79,482.00 ㎡		153,002.01 ㎡			
	小 計	201.52 ㎡	99,300.56 ㎡		135,287.91 ㎡		234,789.99 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	594.52 ㎡		4,564.28 ㎡		5,158.80 ㎡			
	合 計	201.52 ㎡	99,895.08 ㎡		139,852.19 ㎡		239,948.79 ㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
		4,348.39 ㎡	20,532.04 ㎡		12,415.47 ㎡		37,295.90 ㎡			
		(4,348.39 ㎡)	(20,532.04 ㎡)		(12,415.47 ㎡)		(37,295.90 ㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	14 室	26 室	126 室		8 室 (補助職員-人)		0 室 (補助職員-人)			
			大学全体							

専任教員研究室			新設学部等の名称				室数			大学全体	
			大学全体				34室				
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体（大阪成蹊大学との共用）
	大学全体		291,391〔33,631〕 (291,391〔33,631〕)		2,540〔390〕 (2,540〔390〕)		257〔257〕 (257〔257〕)	3,093 (3,093)	3,449 (3,449)	34 (34)	
	計		291,391〔33,631〕 (291,391〔33,631〕)		2,540〔390〕 (2,540〔390〕)		257〔257〕 (257〔257〕)	3,093 (3,093)	3,449 (3,449)	34 (34)	
図書館			面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体
			1,757.74 m ²		180			303,561			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体
			2,357.27 m ²		該当なし			該当なし			
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナルの整備費（運用コストを含む）を含む	
		教員1人当り研究費等		240千円	240千円	―千円	―千円	―千円	―千円		
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	―千円	―千円	―千円	―千円		
		図書購入費	1,500千円	1,500千円	1,500千円	―千円	―千円	―千円	―千円		
		設備購入費	8,000千円	8,000千円	8,000千円	―千円	―千円	―千円	―千円		
	学生 1人 当り 納付 金	学科名	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		生活デザイン学科	1,270千円	1,020千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		調理・製菓学科	1,270千円	1,020千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		栄養学科	1,270千円	1,020千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		幼児教育学科	1,270千円	1,020千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		観光学科	1,210千円	960千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		グローバルコミュニケーション学科	1,210千円	960千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
		経営会計学科	1,210千円	960千円	―千円	―千円	―千円	―千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学等経常費補助金収入等をもって充当する。							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		大阪成蹊大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	マネジメント学部 マネジメント学科		年	人	人	人		倍	平成15 年度	大阪府大阪市東淀 川区相川3丁目10番 62号	
	芸術学部 造形芸術学科		4	180	3年次 －	820	学士(経営学)	0.94			
	情報デザイン学科		4	177	3年次 －	277	学士(芸術)	1.07			
	環境デザイン学科		－	－	－	－	－	－			
	教育学部 教育学科		4	120	3年次 10	220	学士(教育学)	1.10	平成26 年度	平成27年度から入 学定員増（20） （26年4月届出済 み）	

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	びわこ成蹊スポーツ大学							平成27年度からスポーツ学科を設置（280） 平成27年4月学生募集停止 生涯スポーツ学科（△124） 競技スポーツ学科（△156） （平成26年9月届出済み）
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	
	スポーツ学研究科	年 2	人 10	人 -	人 20	修士(スポーツ学)	0.95	平成24年度	
	スポーツ学部			-				平成15年度	
	スポーツ学科	4	280	3年次 -	280	学士(スポーツ学)	1.25		
	生涯スポーツ学科		-		-		-		滋賀県大津市 北比良1204番地
	競技スポーツ学科		-		-		-		
	大 学 の 名 称	大阪成蹊短期大学							大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	
	総合生活学科	年 2	人 220	年次 人 -	人 440	短期大学士 (生活デザイン) (食物) (栄養)	1.24	昭和26年度	
	幼児教育学科	2	240	-	480	短期大学士 (幼児教育)	1.05	昭和31年度	
	観光学科	2	90	-	180	短期大学士 (観光)	1.05	昭和42年度	
	グローバルコミュニケーション学科	2	50	-	100	短期大学士 (グローバルコミュニケーション)	0.80	平成15年度	
	経営会計学科	2	60	-	120	短期大学士 (経営会計)	0.92	平成15年度	
附属施設の概要		該当なし							

① 都道府県内における位置関係の図面

大阪府

大阪成蹊短期大学

大阪市東淀川区相川3-10-62

茨木校地

大阪府茨木市彩都あさぎ



滋賀県

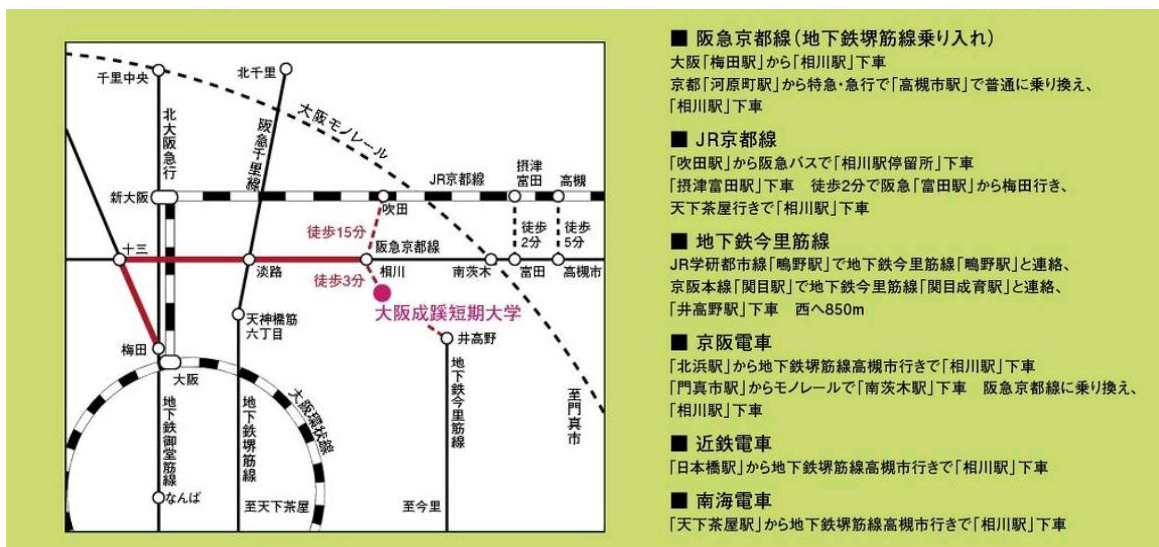
セミナーハウス
滋賀県大津市和邇北浜天川519



② 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面 大阪成蹊短期大学



- 阪急相川駅より東へ 200m。
- 地下鉄今里筋線井高野駅から西へ 850m。
- JR 京都線吹田駅下車。阪急バス(31-86 系統)乗車。阪急相川下車。東へ 250m。



③ 校舎、運動場等の配置図



大 阪 成 蹊 短 期 大 学 学 則

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 本学は大阪成蹊短期大学と称する。

(目的)

第 2 条 本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性を育てるとともに、専門的な学芸教授と実際の専門職業教育に重きを置く大学教育を施し、優秀な社会人を育成することを目的とする。

(自己点検・評価)

第 3 条 本学は教育水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

(学科、学科の目的及び学生定員)

第 4 条 本学において次の学科を置く。

生活デザイン学科

調理・製菓学科

栄養学科

幼児教育学科

観光学科

グローバルコミュニケーション学科

経営会計学科

2 前項の学科における教育研究目的は次の各号に掲げる通りとする。

(1) 生活デザイン学科

生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(2) 調理・製菓学科

食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(3) 栄養学科

栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(4) 幼児教育学科

幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する。

(5) 観光学科

観光ビジネスを理解し、21 世紀の観光・ツーリズムの推進を担う、ホスピタリティ・サービス精神、コミュニケーション力、実務力を身につけた人材を育成する。

(6) グローバルコミュニケーション学科

言語表現、絵画、映像、身体パフォーマンスなどを学び、クリエイティブな発想力、コミュニケーション力、表現力を持った社会人としてグローバルに活躍できる人材を育成する。

(7) 経営会計学科

ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな人材を育成する。

3 前項の各学科の学生定員は次の通りとする。

学 科	入学定員	収容定員
生 活 デ ザ イ ン 学 科	5 0	1 0 0
調 理 ・ 製 菓 学 科	1 2 0	2 4 0
栄 養 学 科	1 2 0	2 4 0
幼 児 教 育 学 科	3 0 0	6 0 0
観 光 学 科	9 0	1 8 0
グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	3 0	6 0
経 営 会 計 学 科	5 0	1 0 0
合 計	7 6 0	1, 5 2 0

第 2 章 教 職 員 組 織

(教職員)

第 5 条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。職員の定員は別に定める。ただし、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合は、准教授、講師、助教又は助手を置かないことができる。

2 本学に、前項のほか、副学長、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

(職務)

第 6 条 学長は本学を代表し校務を掌り、所属教職員を統括する。教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。講師は教授及び准教授に準ずる職務に従事する。

2 その他の事務職員等の職務については、別に定める。

第 3 章 教 授 会

(教授会)

第 7 条 本学に教授会を置く。教授会は学長、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。教授会は学長がこれを招集し、その議長となる。学長に支障あるときは、その指名により他の教授がこれに代わる。教授会が必要に応じ専任の教授、准教授、講師及び助教以外の職員を陪席させることがある。

(教授会の審議事項)

第 8 条 教授会は、学長が次に掲げる教育研究に関する事項について決定を行うにあたり審議し意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業に関すること。
- (2) 学生の学位の授与に関すること。
- (3) その他本学の教育研究に関する重要な事項
- 2 教授会の審議事項を専門的に審議するため、専門委員会等を置くことができる。
- 3 教授会の運営に関する事項は別に定める。

第 4 章 入 学、退 学、休 学、復 学、転 学、除 籍、復 籍

(入学資格)

第 9 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程

を修了した者

- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であつて、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

（入学の出願）

第10条 本学に入学を志願する者は所定の手続きを行わなければならない。

2 入学志願の手続きは別に定める。

（入学者の選考）

第11条 入学志願者は別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続き）

第12条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は所定の入学手続きを行わなければならない。

2 入学の手続きは別に定める。

（入学の時期）

第13条 本学入学の時期は毎年4月又は10月とする。

（休学及び退学）

第14条 病気その他やむを得ない事由により、退学又は休学しようとする者は保証人の連署をもって願い出て、学長の許可を受けなければならない。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。

（休学の期間）

第15条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは学長は1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学の期間は通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は第24条に定める在学年限に算入しない。

（復学）

第16条 休学期間中にその理由が消滅した場合には、保証人の連署をもって願い出て、学長の許可を得て復学することができる。

（再入学及び転入学）

第17条 本学に再入学又は転入学を志願する者があるときは、欠員の有る場合に限り、選考の上、教授会の審議を経て、学長は相当年次に入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の審議を経て学長が決定する。

（転学）

第18条 本学から他の大学に転学しようとする者は事由を具し、願い出て学長の許可を受けなければならない。

（除籍）

第19条 次の各号の一に該当する者は、教授会の審議を経て学長が除籍する。

- (1) 授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 休学期間終了までに復学、休学延長、退学のいずれの手続きも取らない者
- (3) 第24条に定める在学年限を超える者
- (4) 第15条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (5) 2年以上にわたって行方不明の者

（復籍）

第20条 前条（1）により除籍となった者が復籍を希望する場合は、学長の許可を得て復籍することができる。

第 5 章 学期及び休業日

(学年及び学期)

第21条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

3 前項の規定にかかわらず、学長は学期ごとの授業の開始日及び終了日について、変更することができる。

(1年間の授業期間)

第22条 1年間の授業日数は定期試験等の日数を含め35週にわたるものとする。

(休業日)

第23条 本学の休業日を下記の通り定める。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 本学園記念日 4月20日

(4) 春期休業日 3月1日から3月31日まで

(5) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

(6) 冬期休業日 12月25日から1月7日まで

2 必要がある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び学習の評価、課程修了認定に関する事項

(修業年限)

第24条 本学の修業年限は2年とし、4年を超えて在学することはできない。

(卒業)

第25条 本学に2年以上在学し、本学の定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

(学位)

第26条 前条の規定により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

(試験)

第27条 試験は学期末又は学年末にその履修した科目について、筆答、口述、論文、実技等によって行う。

(単位の授与)

第28条 各授業科目の学習の評価は秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格と認め、所定の単位を与える。

第7章 教育課程及び履修方法

(教育課程の編成方針)

第29条 本学は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 本学の授業科目を分けて、共通科目、学科科目、自由科目、他大学における履修科目とし、必修科目及び選択科目に分ける。

3 授業科目及び単位数並びに履修の方法については、履修に関する規程に定める。

(教育課程、司書教諭課程及び司書課程)

第30条 前条に定めるもののほか、教職、教科又は教職、司書教諭及び司書に関する科目を置く。

(単位)

第31条 各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義については15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については15時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については30時間又は40時間の授業をもって1単位とする。

(履修単位)

第32条 各学科においては履修に関する規程にしたがって、共通科目12単位以上、学科科目・自由科目50単位以上合計62単位以上を修得しなければならない。

2 一学期に履修科目として登録することができる単位数の限度を定める。

(本学の履修とみなす学修)

第32条の2 本学において教育上有益と認めるときは、次の各号の一に規定する修得単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(1) 学生が本学に入学する前に短期大学又は大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位

(2) 他の短期大学又は大学との協議により、学生が他の短期大学等で履修した単位

(3) 本学が認めた外国の短期大学又は大学への留学により得た学習成果

(4) 学生が行なう短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(入学前の学修を含む。)により修得した単位

2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(本学の履修とみなす学修の単位数)

第32条の3 第32条の2の規定により、第32条の2の第1号、第2号、第4号をあわせて30単位、第32条の2の第2号、第3号、第4号をあわせて30単位、第32条の2の第1号、第2号、第3号、第4号をあわせて45単位を超えない範囲で単位の認定を行うものとする。

(教育職員免許状)

第33条 教育職員免許状を取得しようとする者は、第32条の規定によるほか教育職員免許法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

2 教育職員免許状取得に関する細則は別に定める。

(司書教諭課程修了証書)

第34条 司書教諭課程修了証書を取得しようとする者は、第32条並びに第33条各項の規定によるほか、学校図書館法及び学校図書館司書教諭講習規程に規定された単位を修得しなければならない。

2 司書教諭課程修了証書に関する細則は別に定める。

(栄養士免許証)

第35条 栄養士免許証を取得しようとする者は、第32条の規定によるほか栄養士法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

2 栄養士免許証取得に関する規程は別に定める。

(調理師免許証)

第36条 調理師免許証を取得しようとする者は、第32条の規定によるほか調理師法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

2 調理師免許証取得に関する規程は別に定める。

(保育士証)

第37条 保育士証を取得しようとする者は、第32条の規定によるほか児童福祉法施行規則第39条の2第1項第3号に規定された単位を修得しなければならない。

2 保育士証取得に関する規程は別に定める。

(司書課程修了証書)

第38条 司書課程修了証書を取得しようとする者は、第32条の規定によるほか図書館法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

2 司書課程修了証書取得に関する規程は別に定める。

(取得できる資格)

第39条 各学科において取得できる資格は次の通りである。

学 科	免 許 状 等 の 種 類	
	免 許 状 等	免許教科
生活デザイン学科	中学校教諭二種免許状	家 庭
	司書教諭課程修了証書	
調 理 ・ 製 菓 学 科	調理師免許証	

栄 養 学 科	栄養士免許証	
	栄養教諭二種免許状	
幼 児 教 育 学 科	幼稚園教諭二種免許状	
	保育士証	
グローバルコミュニケーション学科	中学校教諭二種免許状	国 語
	司書教諭課程修了証書	
生活デザイン学科 調理・製菓学科 栄 養 学 科 幼 児 教 育 学 科 観 光 学 科 グローバルコミュニケーション学科 経 営 会 計 学 科	司書課程修了証書	

第 8 章 学 費

(入学検定料、入学金、授業料等及び納付方法)

第 40 条 入学検定料、入学金、授業料その他学生の負担すべき金額及びその納付方法は下記の通り定める。

- (1) 入学検定料 3 万円
- (2) 入学金 25 万円 (入学時)
- (3) 授業料

生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科、幼児教育学科 102 万円 (前期 51 万円・後期 51 万円)

観光学科、グローバルコミュニケーション学科、経営会計学科 96 万円 (前期 48 万円・後期 48 万円)

ただし、別に実験・実習費は若干額を徴収することがある。

- 2 授業料は 2 期に分納するものとし、納付の時期は別に定める。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納を認めることがある。
- 3 一旦収受した納付金は、返還しない。

(退学等の場合の授業料)

第 40 条の 2 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は徴収する。

- 2 停学期間中の授業料は徴収する。

(休学等の場合の授業料)

第 40 条の 3 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学した月の翌月から復学した月の前月までの授業料を免除する。

- 2 休学者は、休学期間中の在籍料を納付しなければならない。
在籍料 年額 30,000 円

(復学の場合の授業料)

第 40 条の 4 学期の途中で復学した者は、復学した月から当該学期末までの授業料を、復学した月に納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する見込みの場合の授業料)

第 40 条の 5 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの月までの授業料を納付するものとする。

第 9 章 図書館、厚生施設

(附属施設)

第 41 条 本学に図書館、教育研究支援センター、保健センターを設ける。

- 2 図書館、教育研究支援センター、保健センターに関する規定は別にこれを定める。

第 10 章 賞 罰

(表彰)

第 42 条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の審議を経て学長が表彰する。

(懲戒)

第43条 本学の学則、規則に違反し又は学生の本分に反する行為のあった者は、学長は教授会の審議を経てこれを懲戒する。

(懲戒の種類)

第44条 懲戒は次の3種とする。

- (1) 譴責
- (2) 停学
- (3) 退学

2 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第11章 委託生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生及び外国人留学生

(委託生)

第45条 公共団体その他の機関から本学に特定の学科につき修学を委託されたときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て、学長は委託生として受諾することがある。

2 委託生に関して必要な事項は別に定める。

(科目等履修生)

第46条 本学の授業科目につき聴講することを志願する者があるときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て学長が科目等履修生として修学することを許可する。

2 科目等履修生に関して必要な事項は別に定める。

第46条の2 本学が他の短期大学又は大学との間で単位互換協定を結ぶことにより、該当する互いの学生が、単位互換履修生として授業科目を履修することができる。

2 単位互換履修生に関して必要な事項は別に定める。

(研究生)

第46条の3 本学の授業科目について研究することを志願する者があるときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て学長は研究生として修学することを許可することがある。

2 研究生に関して必要な事項は別に定める。

(委託生及び科目等履修生の履修の証明)

第47条 委託生及び科目等履修生はその履修した科目及び単位の証明を求めることができる。

(外国人留学生)

第48条 外国人で、短期大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、教授会の審議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は別に定める。

(交換留学生)

第48条の2 外国人で、本学と学生交流に関する協定を締結している外国の大学又は短期大学に在籍する者のうち、当該大学長よりの推薦を受けた者については、学長が交換留学生として許可することがある。

2 交換留学生について必要な事項は別に定める。

(準用)

第49条 本学則の規定は特別の規定がない限り委託生・科目等履修生・単位互換履修生・研究生・外国人留学生及び交換留学生にもこれを準用する。

附 則 (略)

附 則 (平成 年 月 日)

本学則は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 28 年 4 月 1 日より、生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科を設置し、各入学定員をそれぞれ 50 人、120 人、120 人、収容定員をそれぞれ 100 人、240 人、240 人とする。また、幼児教育学科の入学定員を現行の 240 人から 60 人増の 300 人、収容定員を 600 人とする。併せて、グローバルコミュニケーション学科の入学定員を現行の 50 人から 20 人減の 30 人、収容定員を 60 人とし、経営会計学科の入学定員を現行の 60 人から 10 人減の 50 人、収容定員を 100 人とする。なお、3 学科の設置に伴い、総合生活学科の学生募集を停止する（表 1 参照）。

以上より、短期大学全体の入学定員を、現行の 660 人から 760 人とし、収容定員を 1320 人から 1520 人と変更する。

（表 1）各学科の入学定員の変更状況

（単位：人）

学科名	入学定員	収容定員	備考
生活デザイン学科	0 → 50	0 → 100	新設
調理・製菓学科	0 → 120	0 → 240	新設
栄養学科	0 → 120	0 → 240	新設
幼児教育学科	240 → 300	480 → 600	定員増
観光学科	90 → 90	180 → 180	変更無し
グローバルコミュニケーション学科	50 → 30	100 → 60	定員減
経営会計学科	60 → 50	120 → 100	定員減
総合生活学科	220 → 0	440 → 0	学生募集停止
短期大学全体	660 → 760	1320 → 1520	

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

生活デザイン学科

総合生活学科は、昭和 26 年の開学以来設置していた家政科を、平成 15 年に名称変更したものであり、特に、衣・食・栄養を主軸として、長年に亘り、多くの学生を育成してきた。その後、現在に至るまで、総合生活学科に設けた生活デザインコースでは、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成することを目的

に、教育課程の改編等、様々に教育の充実を図ってきた。

しかし、専門領域である衣の領域に係る社会の動向をみると、衣の領域における専門職業人に対する需要は急速に高まってきている。

矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果 2014」によれば、2013 年の国内アパレル総小売市場規模は前年比 101.4%の 9 兆 2925 億円であった。品目別でも、紳士服、婦人服、ベビー・子ども服のいずれも前年を上回っている。こうした市場規模の拡大に対して、特に販売職の人材不足が課題となっている。発行部数 20 万部のファッションビジネス専門誌「織研」の電子版 2014 年 9 月 5 日の記事「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」によれば、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えており、昨今ファッションビジネスにおける就職セミナーの開催や参加企業が増えている。

以上の社会の動向により、「衣」に関する高い専門性を持ち、アパレル・ファッション業界で活躍できる人材養成への社会的な要請の高まりに応えるため、教育研究の内容や育成する人材像をより明確にして、適切な教員配置の下、専門性を身につけた人材を養成する短期大学としての使命を一層重く担い、社会的な責任を果たしていく必要がある。そのため、現在の生活デザインコースを基に、新たに生活デザイン学科を設置する。

現総合生活学科入学者のうち、生活デザインコースへの希望者数は、表 2 のとおり、毎年 50 人程度となっており、平成 27 年度は 62 人となる見込みである。生活デザインコースは、根強い人気で毎年 50 人程度が確実に希望している。

(表 2) 総合生活学科入学者のうち、生活デザインコースへの希望者数の推移

(平成 23 年度～27 年度 (見込))

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
生活デザインコース	50	44	49	54	62

さらに、今回学科を新設するにあたり、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した(別添資料 1 参照)。①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校、②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校、③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校を抽出条件とし、全ての条件を満たす高校 47 校(併設の大阪成蹊女子高校を含む)に対し実施した。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所(アクセス)、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、

実施している。その結果、生活デザイン学科を新設した際に、本学生活デザイン学科への進学を希望すると回答した高校生は 434 人であった。

以上、従来の総合生活学科入学者のうち、学科の基となる生活デザインコースへの希望状況、高校生への進学希望アンケート調査の結果及び、本学科の教員数や施設設備をもとに、本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しく、きめ細かい指導を引き続き可能にする少人数クラス編成等を勘案して、本学科の入学定員を 50 人、収容定員を 100 人とする。

調理・製菓学科

総合生活学科は、昭和 26 年の開学以来設置していた家政科を、平成 15 年に名称変更したものであり、特に、衣・食・栄養を主軸として、長年に亘り、多くの学生を育成してきた。その後、現在に至るまで、総合生活学科に設けた食物コースでは、食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成することを目的に、教育課程の改編等、様々に教育の充実を図ってきた。

しかし、専門領域である食の領域に係る社会の動向をみると、食の領域における専門職業人に対する需要は急速に高まってきている。

公益財団法人食の安心・安全財団附属機関外食産業総合調査研究センター推計の「外食産業市場規模（平成 23 年（2011）～平成 25 年（2013））」によると、外食産業市場規模は、平成 23 年が 22 兆 8282 億円、平成 24 年が 23 兆 2314 億円、平成 25 年には 23 兆 9046 億円と年々拡大してきている。

こうした市場規模の拡大に加え、昨今食の安全や食育の推進への関心が高まっている。厚生労働省調理師の養成のあり方等に関する検討会報告書は、「厚生労働省が平成 25 年度より開始する健康日本 21（第 2 次）において、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指し、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底を図ることとしている。そのためには、食生活の改善を図ることが重要であり、関連する具体的な目標が設定されており、良質な食事を通じた健康づくりの推進に、調理師の活躍が期待されている」と報告している。さらに、「近年、大規模な食中毒の発症や食中毒による死亡事例など、食の安全を揺るがす事案が後を絶たない状況にある。このため、飲食店や病院、学校など各種施設で調理業務に携わる調理師が、安全で安心な料理の提供を行う意義は、極めて大きい」とも報告しており、調理師に対する社会の期待が増大している。

また、昨今海外のスイーツやお菓子のコンテスト等で日本人パティシエが活躍している。国内市場に目を転ずると、矢野経済研究所「和洋菓子・デザート類市場に関する調査結果 2013,2014」によれば、近年の和洋菓子・デザート類市場規模は非常に安定している。特に平成 23 年度から平成 25 年度にかけて市場規模が拡大しており、平成 25 年度は 2 兆 1425 億円の市場規模となっている。

一方、日本政府観光局（JNTO）の「訪日外客訪問地調査（2010）」によれば、外国人観

光客が「訪日前に期待すること」は2年連続で「食事」が6割前後を占め1位であった。観光立国推進基本計画等の取組により外国人観光客の増大が図られているが、急増する外国人観光客への対応としてホスピタリティを持って食をコーディネートできる人材が一層求められており、これら人材育成の社会的要請が増すものと考えられる。

以上の社会の動向により、「食」に関する高い専門性を持ち、食に係る業界で活躍できる人材養成への社会的な要請の高まりに応えるため、教育研究の内容や育成する人材像をより明確にして、適切な教員配置の下、専門性を身につけた人材を養成する短期大学としての使命を一層重く担い、社会的な責任を果たしていく必要がある。そのため、現在の食物コースを基に、新たに調理・製菓学科を設置する。

現総合生活学科入学者のうち、食物コースへの希望者数は、表3のとおりであり、平成23年度82人、24年度84人、25年度102人、26年度112人となっており、平成27年度は95人となる見込である。

(表3) 総合生活学科入学者のうち、食物コースへの希望者数の推移
(平成23年度～27年度(見込))

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
食物コース	82	84	102	112	95

また、今回の学科の設置にあたっては、学びの内容をより適切に表現する学科名称として調理・製菓学科とするため、これまで食物コースの中にあった調理、製菓の学びが一層見えやすくなる。そのため、現状の食物コース希望者以上の志願者、入学者を見込むことができる。

さらに、今回学科を新設するにあたり、平成28年度募集の対象となる現高校2年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成27年2月17日から3月13日の間で実施した(別添資料2参照)。①平成26年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校、②過去5ヵ年で本学への志願実績のある高校、③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校を抽出条件とし、全ての条件を満たす高校47校(併設の大阪成蹊女子高校を含む)に対し実施した。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所(アクセス)、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。その結果、調理・製菓学科を新設した際に、本学調理・製菓学科への進学を希望すると回答した高校生は少なくとも574人は見込まれる。

以上、従来の総合生活学科入学者のうち、学科の基となる食物コースへの希望状況、学

びを明確にする学科名称、高校生への進学希望アンケート調査の結果及び、本学科の教員数や施設設備をもとに、本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しく、きめ細かい指導を引き続き可能にする少人数クラス編成等を勘案して、本学科の入学定員を 120 人、収容定員を 240 人とする。

栄養学科

総合生活学科は、昭和 26 年の開学以来設置していた家政科を、平成 15 年に名称変更したものであり、特に、衣・食・栄養を主軸として、長年に亘り、多くの学生を育成してきた。その後、現在に至るまで、総合生活学科に設けた栄養コースでは、栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成することを目的に、教育課程の改編等、様々に教育の充実を図ってきた。

しかし、専門領域である栄養の領域に係る社会の動向をみると、栄養の領域における専門職業人に対する需要は急速に高まってきている。

医療福祉の水準向上や健康志向の高まりなどにより、我が国における平均寿命と健康寿命は年々延び続けており、世界有数の長寿国となっている。こうした平均寿命及び健康寿命の延びに対し、厚生労働省による「平成 26 年版 厚生労働白書—健康長寿社会の実現に向けて—健康・予防元年—」では、平均寿命と健康寿命の差が問題視されている。すなわち、これまでのように平均寿命の延伸に伴い、健康寿命との差が拡大すれば、医療費や介護給付費の負担の増大が予想されるということである。内閣府「平成 26 年版 高齢社会白書」では、平成 25 年 10 月 1 日現在の 65 歳以上の高齢者人口は過去最高の 3190 万人、総人口に占める割合も 25.1%となっており、今後も急速に高齢者人口及び割合が増えていくことが予想されている。このような社会の情勢のなか、平成 25 年度から平成 34 年度までの国民健康づくり運動を推進するため、健康増進法に基づく「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」を改正する「健康日本 21（第二次）」が策定された。栄養、食生活に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善が謳われ、「次世代の健康」として子どもへの食育、栄養指導の重要性が指摘されている。

以上の社会の動向により、「栄養」に関する高い専門性を持ち、栄養に係る業界で活躍できる人材養成への社会的な要請の高まりに応えるため、教育研究の内容や育成する人材像をより明確にして、適切な教員配置の下、専門性を身につけた人材を養成する短期大学としての使命を一層重く担い、社会的な責任を果たしていく必要がある。そのため、現在の栄養コースを基に、新たに栄養学科を設置する。

現総合生活学科入学者のうち、栄養コースへの希望者数は、表 4 のとおり、平成 23 年 80 人、平成 24 年 119 人、平成 25 年 103 人、平成 26 年 118 人となっており、平成 27 年度は 109 人となる見込である。

(表 4) 総合生活学科入学者のうち、栄養コースへの希望者数の推移
(平成 23 年度～27 年度 (見込))

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
栄養コース	80	119	103	118	109

さらに、今回学科を新設するにあたり、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した(別添資料 3 参照)。①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校、②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校、③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校を抽出条件とし、全ての条件を満たす高校 47 校(併設の大阪成蹊女子高校を含む)に対し実施した。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所(アクセス)、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。その結果、栄養学科を新設した際に、本学栄養学科への進学を希望すると回答した高校生は 272 人であった。

以上、従来の総合生活学科入学者のうち、学科の基となる栄養コースへの希望状況、高校生への進学希望アンケート調査の結果及び、本学科の教員数や施設設備をもとに、本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しく、きめ細かい指導を引き続き可能にする少人数クラス編成等を勘案して、入学定員 120 人、収容定員 240 人とする。

幼児教育学科

本学は、昭和 28 年に大阪成蹊女子短期大学(当時)に保育科を設置して以来、今日に至るまで長く保育者養成を行ってきた。その成果は、北大阪を中心に「教育の成蹊」として知られるようになっており、幼稚園園長をはじめ多くの保育者を、地元大阪府等を中心として送り出している。

幼児教育学科への近年の募集状況は表 5 のとおりである。平成 24 年度に定員増を行ったが、その間、志願者数は、平成 23 年度の 255 人から毎年増加して平成 27 年度には 420 人となり、受験者数においても、平成 23 年度の 254 人から平成 27 年度の 410 人まで毎年増加して推移している。このように着実に志願者及び受験者を増やしてきた。

(表 5) 幼児教育学科募集状況 (平成 23 年度～27 年度 (見込))

(平成 25 年度以前は児童教育学科幼児教育学専攻)

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員 (A)	150	200	240	240	240
志願者数 (B)	255	284	332	412	420
受験者数	254	271	318	405	410
合格者数	166	214	266	262	270
入学者数	163	203	252	251	240
志願倍率 (B)/(A)	1.70	1.42	1.38	1.72	1.75

また、本学科へは併設の大阪成蹊女子高校から毎年多数の内部進学者が入学している。平成 27 年度入学予定者を含めた平成 23 年度以降の実績は表 6 のとおり 5 年間で倍増し、本学科の入学者のうち併設高校からの内部進学者が占める比率は、平成 27 年度では 35.8% (入学定員割合) となる見込である。

(表 6) 併設高校から本学幼児教育学科への内部進学者数推移

(平成 23 年度入学～27 年度入学 (見込))

(単位：人)

	平成23年度入学	平成24年度入学	平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学(見込)
本学幼児教育学科への内部進学者数	39	33	65	67	86

さらに、併設高校以外の近隣地域を中心とする高校からは、平成 26 年度の学生募集において、指定校枠の新規依頼や追加に対する要望が 19 件寄せられたが、その内の 10 件については、要望に応えることが出来なかった (別添資料 4 参照)。そして、平成 27 年度においては、指定校枠の新規依頼や追加に関する要望は一切受付からお断りしている状況にある。過去 5 ヶ年の入試区分ごとの入学者の推移において、上述のとおり、指定校推薦入試、併設高校入試の入学者の割合が年々増加し、平成 26 年度及び 27 年度 (見込) においては 60%を超える割合となり、その他一般入試の入学者数を減少させざるを得ない状況になってきている (表 7 参照)。

(表 7) 幼児教育学科入学者の入試区分別推移

(平成 23 年度～27 年度 (見込み))

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員	(150)	(200)	(240)	(240)	(240)
入学者 (a)	163	203	252	251	240
指定校推薦入試	61	94	85	95	77
併設高校入試	39	33	65	67	86
小計 (b)	100	127	150	162	163
その他一般入試	63	76	102	89	77
入学者に占める比率 (b)/(a)	61.3%	62.6%	59.5%	64.5%	67.9%

すなわち、平成 23,24 年度においては、指定校、併設校入試の入学者が 60%を超えていたが、平成 25 年度の入学定員増により、若干抑えることができた。しかし、平成 26 年度及び 27 年度 (見込) において再び指定校推薦入試、併設高校入試の入学者が 60%を上回る状況となり、その他一般入試入学者が減少することとなった。その結果、残る定員に対するその他一般入試の志願倍率は、平成 23 年度 3.1 倍、24 年度 2.2 倍、25 年度 2.0 倍、26 年度 3.3 倍、27 年度 3.2 倍と推移し、近年高い倍率となり、合格が難しい学科となっている (表 8 参照)。

(表 8) 幼児教育学科のその他一般入試の志願倍率計算書(平成 23 年度～27 年度(見込))

(単位：人、倍)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(a)		150	200	240	240	240
合格者数(b)	指定校推薦入試	61	96	86	96	77
	併設校購入入試	39	36	65	70	86
残り入学定員 (a)-(b)		50	68	89	74	77
その他一般入試の志願者数		155	152	181	245	249
その他一般入試の志願倍率		3.1倍	2.2倍	2.0倍	3.3倍	3.2倍

本学として併設高校入試、指定校入試及びその他一般入試で本学科を希望する多くの高

校及び高校生の本学科へのこうした進路希望に応える必要があると考えている。

さらに、今回学科を新設するにあたり、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した（別添資料 5 参照）。①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校、②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校、③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校を抽出条件とし、全ての条件を満たす高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）に対し実施した。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。その結果、幼児教育学科への進学を希望すると回答した高校生は 916 人であった。

これら状況を踏まえ、同学科への入学希望者の実情に添った入学定員 300 人、収容定員 600 人に変更することとする。この 300 人は、上記入試動向に加え、近隣のエデュケーション委員会等から幼稚園教員、保育士の要請に関し、入学定員増の要望書が多数届いていることや（別添資料 6 参照）、本学の所在地である大阪北部の幼稚園、保育所からも人員の不足について協力を要請されていること等を受けて、本学の教員数、施設設備等を勘案し、教育の質を保証できる範囲で本学として地域の要請にできる限り対応するためのものである。

グローバルコミュニケーション学科

グローバルコミュニケーション学科の近年の募集状況は表 9 のとおり、平成 23 年度 34 人、24 年度 34 人、25 年度 30 人、26 年度 47 人であり、平成 27 年度には 30 人となる見込である。より入学実態に即した適正定員とするため、入学定員 50 人を 30 人に、収容定員 100 人を 60 人に減じ、引き続き、少人数教育によるきめ細かな指導を図る。

（表 9）グローバルコミュニケーション学科募集状況

（平成 23 年度～27 年度（見込））（平成 25 年度以前は創造文化学科）（単位：人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 （見込）
グローバルコミュニケーション学科	34	34	30	47	30

経営会計学科

経営会計学科の近年の募集状況は表 10 のとおり、平成 23 年度 60 人、24 年度 49 人、25 年度 46 人、26 年度 62 人であり、平成 27 年度には 50 人となる見込みである。より入学実

態に即した適正定員とするため、入学定員 60 人を 50 人に、収容定員 120 人を 100 人に減じ、引き続き、少人数教育によるきめ細かな指導を図る。

(表 10) 経営会計学科募集状況 (平成 23 年度～27 年度 (見込))

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
経営会計学科	60	49	46	62	50

ウ 学則変更 (収容定員変更) に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容について

大阪成蹊短期大学は、幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性を育てるとともに、専門的な学芸教授と実地的な専門職業教育に重きをおく大学教育を施し、優秀な社会人を育成することを目的としている。この目的を達成するため、「共通科目」及び「学科科目」から教育課程を編成している。

今回の収容定員変更に伴って、こうした教育課程に変更はない。各学科においては、いずれも従前の教育課程を踏襲しており、他学科等に影響を与えることはなく、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

なお、これまで総合生活学科は、衣・食・栄養の各領域にわたって、健康で快適な生活環境づくりを支援できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成することを目的とした学科であったが、今回の定員変更と併せて、現行の生活デザインコース、食物コース、栄養コースの教育課程を基本的に踏襲し、生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科として届出設置するものであるため、総合生活学科内のこれまでのコースに比して教育課程に変更はない。

また、学生増に伴う共通科目の対応については、空き教室の利用等によりクラス増を基本に対応する。例えば、ほとんどの学生が履修する「英語 A」では、従前より 1 クラス 30 人以下での開講を基本としているが、今回収容定員が 100 人増加するに伴い、4 クラス増して開講する。その他の科目についても、同様に、必要に応じてクラス増にて対応する。なお、教室使用状況は別添資料 7 のとおりであり、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している、

以下に各学科について説明する。

生活デザイン学科

生活デザイン学科は、これまでの総合生活学科生活デザインコースにおける教育課程を

踏襲しているため、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。また、他学科等に影響を与える授業科目はない。

調理・製菓学科

調理・製菓学科は、これまでの総合生活学科食物コースの教育課程を踏襲しているため、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。また、他学科等に影響を与える授業科目はない。

栄養学科

栄養学科は、これまでの総合生活学科栄養コースにおける教育課程を踏襲しているため、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。また、他学科等に影響を与える授業科目はない。

幼児教育学科

幼児教育学科は、幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探求心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成することを目的としている。今回の収容定員変更により、この目的を達成することに変更はないため、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。

グローバルコミュニケーション学科

収容定員変更（入学定員 20 人減）を行い入学定員が 50 人から 30 人、収容定員が 100 人から 60 人となるが、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。

経営会計学科

収容定員変更（入学定員 10 人減）を行い入学定員が 60 人から 50 人、収容定員が 120 人から 100 人となるが、教育課程に変更はなく、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。

(イ) 教育方法、履修指導方法の変更内容について

大阪成蹊短期大学の教育課程及び授業科目は「共通科目」と「学科科目」に大別されるが、いずれも今回の収容定員変更に伴う教育方法及び履修指導方法の変更はない。

従前より共通科目は、Ⅰ群. ことばとコミュニケーション、Ⅱ群. 健康・生命・環境をいつくしむ、Ⅲ群. 世の中に眼を開く、Ⅳ群. 人・心・生活をたずねる、Ⅴ群. 就職・社会参加に取り組むの 5 群で構成している。変更前と同様に、Ⅰ群より外国語 2 単位以上、Ⅱ群からⅤ群より「成蹊基礎セミナー」を含む 5 科目 10 単位以上の修得を卒業要件として

履修指導する。Ⅰ群の外国語科目については、学科ごと 30 人以下での開講を基本とする。その他のⅡ～Ⅴ群の科目については、学科やクラスの別なく 50 人程度での開講を基本とする。ただし、「成蹊基礎セミナー」や「キャリアデザイン」等、学科もしくはクラスでの開講が適切と考えられる科目については学科・クラス単位での開講となる。

また、コースを設定している学科の場合、コースの決定については、従前どおり入学手続き時に学生のコース希望を聴取し、なるべく希望に沿うよう個々のコースを決定している。コース毎に、年次授業開始前及び後期授業開始前のオリエンテーションで、「シラバス」「時間割」等を用いて履修指導を行う。卒業要件や必修科目についても説明するが、各コースにおいて履修指導上必修とする科目や履修を奨める科目、取得可能な資格・免許等が異なっているため、コース毎履修モデルを示しながら説明する。2 年次にも、年次授業開始前及び後期授業開始前にオリエンテーションを行い指導する。また、履修登録の状況を、Web 上または出席簿などで確認し、教務部との連携の下、アドバイザーが個別に指導を行う。また、各授業の開講時には、担当教員が授業の目的や進め方について明確に説明する。今回の収容定員変更に伴い、こうした教育方法及び履修指導に変更はなく、同等以上の内容を担保している。

なお、学生増に伴う共通科目の対応については、空き教室の利用等によりクラス増を基本に対応する。例えば、ほとんどの学生が履修する「英語 A」では、従前より 1 クラス 30 人以下での開講を基本としているが、今回収容定員が 100 人増加するに伴い、4 クラス増して開講する。その他の科目についても、同様に、必要に応じてクラス増にて対応する。なお、教室使用状況は別添資料 7 のとおりであり、変更前の内容と比較して同等以上の内容を担保している。

以下に各学科について説明する。

生活デザイン学科

今回の収容定員変更による教育方法及び履修指導方法に変更はない。

学科科目では、従前どおり、専門性を修得する上で効果的な適正規模や、コース運営等を鑑み、1 クラスあたり 40 人以下として、アパレル・スタイリストコース 1 クラス、ファッションコーディネートコース 1 クラスでの開講を基本とする。入学者数を現コースの人数と同程度と考えているため、また、専任教員 1 人の増員により教育指導の充実をはかるため、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

調理・製菓学科

今回の収容定員変更による教育方法及び履修指導方法に変更はない。

学科科目では、専門性を修得する上で効果的な適正規模や、コース運営等を鑑み、1 クラ

スあたり 40 人以下として、調理コース 2 クラス、製菓コース 1 クラス、フードコーディネーターコース 1 クラスでの開講を基本とする。なお、製菓の学びをコースとして実施するに伴い、従前より 1 クラス増えるが、学科科目においても、空き教室の利用等によるクラス増を基本に対応し、併せて専任教員 2 人を増員することで、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

栄養学科

今回の収容定員変更による教育方法及び履修指導方法に変更はない。

学科科目では、専門性を修得する上で効果的な適正規模や、コース運営等を鑑み、1 クラスあたり 40 人以下として、従前どおり 1 クラス 40 人以下の 3 クラスでの開講を基本とする。入学者数を現コースの人数と同程度と考えているため、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

幼児教育学科

今回の収容定員変更による教育方法及び履修指導方法に変更はない。

学科科目では、専門性を修得する上で効果的な適正規模や、コース運営等を鑑み、1 クラスあたり 40 人以下として、8 クラスでの開講を基本とする。60 人の定員増に伴い、従前より 2 クラス増えるが、学科科目においても、空き教室の利用等によるクラス増を基本に対応し、併せて専任教員 2 人を増員することで、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

グローバルコミュニケーション学科

定員減のため教育方法及び履修指導等について特段の変更はない。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

経営会計学科

定員減のため教育方法及び履修指導等について特段の変更はない。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

(ウ) 教員組織の変更内容について

教員組織について、特に全学における「共通科目」の授業運営については、従前より短期大学設置基準の必要専任教員数 40 人に対し、本学に必要な教育体制として専任教員 53 人を配置している。学生増に対しては、クラス増を基本に対応し、また、入学定員を増員する学科を基本として、5 人の専任教員を増員し、兼任教員も必要に応じて採用することで、教学内容の維持向上をはかる。したがって、各学科等に影響を与えることはなく、各学科においては変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

以下に各学科について説明する。

生活デザイン学科

総合生活学科（生活デザインコース、食物コース、栄養コース）は、現在 16 人の専任教員を配置している。そのうち現行の生活デザインコースを担当する専任教員は 4 人であるが、今回の生活デザイン学科設置に伴い専任教員 1 人を新規採用し、教育研究をより充実する。新規の専任教員は「衣服設計」「制作分野」を担当する。入学者数を現コースの人数と同程度と考えているため、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

調理・製菓学科

現行の食物コースを担当する専任教員は 6 人であるが、今回の調理・製菓学科設置に伴い、専任教員 2 人を増員し、教育研究をより充実する。1 人は「製菓実習」「調理実習」を担当し、もう 1 人は「食品学」「食品衛生学」「栄養学」を担当する。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

栄養学科

現行の栄養コースを担当する専任教員は 6 人であるが、今回の栄養学科設置に伴う教員組織に変更はない。入学者数を現コースの人数と同程度と考えているため、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。また、他学科等の運営に対し影響はない。

幼児教育学科

幼児教育学科は現在 20 人の専任教員を配置しているが、今回の収容定員増に伴い、2 人の専任教員を増員することにより、2 クラス増に対応し教育研究をより充実する。なお 1 人は「社会福祉分野」を担当し、もう 1 人は「保育学」を担当する。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

グローバルコミュニケーション学科

定員減とするが教員組織（専任教員数 6 人）に変更はない。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

経営会計学科

定員減とするが教員組織（専任教員数 5 人）に変更はない。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容について

大阪成蹊短期大学における施設・設備については、従前より講義室 14 室、演習室 26 室、実験実習室 126 室、PC 教室 8 室を設置しておりこれに変更はない。収容定員の増加に対してはクラス増での対応を基本とするが、平成 28 年度の教室の稼働状況は別添資料 7 のとおりであり、教育研究を進めるうえでの支障はなく、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

また、生活デザイン学科 1 人、調理・製菓学科 2 人、幼児教育学科 2 人の専任教員の増員に対し研究室が必要となるが、生活デザイン学科、調理・製菓学科、幼児教育学科は、教員間の情報共有の下、学生指導を円滑に行う観点から、共同研究室としている。現状の共同研究室には十分に余裕スペースがあるため、今回の増員に伴い新たに研究室を設ける必要はない。したがって、変更前の内容と比較して、同等以上の内容を担保している。

(別添資料 1) **進学希望アンケート調査**
(生活デザイン学科)

目 次

1. 調査概要
2. 生活デザイン学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学生活デザイン学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する調理・製菓学科、栄養学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5カ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 生活デザイン学科アンケート集計結果

①	アンケート協力高校数	47校	(併設高校を含む)
②	アンケート回答総数	6,513枚	(併設高校を含む)
③	アンケート無効回答総数	149枚	(併設高校を含む)
④	アンケート有効回答総数	6,364枚	(併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

生活デザイン学科	434
うち、併設高校	41
その他の学科	1,762
いずれにも進学 したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡			727	7. 大阪府（その他）	868	8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡）			1,111
9. 兵庫県（その他）	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府（南丹市以北）	180	12. 奈良県	42	13. その他（ ）	117
								合計	6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

生活デザイン学科を選択した高校生数は有効回答数の6.8%にあたる434人であった。なお、その他の学科1,762人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。



3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(生活デザイン学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいと思 わない	居住地													無効
					男性	女性	生活デザ イン学科	その他の学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	41	234	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	渋谷	公	7	263	126	137	22	84	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
3	北摂つばさ	公	6	214	87	127	21	47	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
4	京都明德	私	7	254	127	127	19	70	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
5	鶴見商業	公	7	240	22	218	19	49	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
6	大阪	私	9	354	233	121	18	65	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
7	豊島	公	6	227	97	130	17	82	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
8	西	公	4	147	50	97	16	30	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
9	北淀	公	5	180	72	108	15	48	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	東淀川	公	7	270	102	168	14	63	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
11	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	13	75	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
12	京都外大西	私	3	116	38	78	12	30	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
13	京都翔英	私	6	224	152	72	12	51	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
14	芦屋学園	私	5	146	94	52	12	32	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
15	京都西山	私	5	177	0	177	10	74	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
16	京都橘	私	3	123	54	69	10	22	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
17	箕面東	公	5	172	61	111	9	32	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
18	守口東	公	2	68	18	50	9	19	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
19	宝塚西	公	5	192	80	112	9	45	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
20	尼崎双星	公	5	149	77	72	8	27	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
21	箕面学園	私	2	90	71	19	8	18	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
22	あべの翔学	私	4	120	0	120	8	29	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
23	茨田	公	5	169	72	97	8	34	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
24	阪南大学	私	2	72	45	27	7	17	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
25	夙川学院	私	4	121	0	121	7	25	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
26	北かわち原が丘	公	3	114	49	65	7	33	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
27	西寝屋川	公	3	91	35	56	7	24	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
28	芦間	公	2	73	43	30	6	14	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
29	清明学院	私	1	36	19	17	6	8	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
30	尼崎北	公	4	116	54	62	6	28	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
31	宝塚東	公	1	35	14	21	6	14	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
32	柴島	公	2	76	21	55	6	16	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
33	芥川	公	2	76	28	48	5	19	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
34	八尾北	公	2	75	23	52	5	21	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
35	大冠	公	2	74	35	39	5	23	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
36	茨木西	公	1	33	18	15	4	8	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
37	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
38	交野	公	3	112	50	62	4	28	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
39	伊丹北	公	2	74	32	42	4	16	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
40	神戸野田	私	2	60	11	49	3	14	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
41	京都両洋	私	2	74	56	18	3	15	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
42	汎愛	公	3	114	65	49	3	21	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
43	華頂女子	私	2	80	0	80	3	26	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
44	昇陽	私	3	98	34	64	3	19	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
45	東真	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
46	島本	公	1	42	5	37	0	29	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
47	枚岡樟風	公	1	32	4	28	0	18	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
合計			178	6364	2402	3962	434	1762	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、
高校2年生の皆さん
が対象となります。

大阪成蹊短期大学「生活デザイン学科（仮称）」

設置構想に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科生活デザインコースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「生活デザイン学科」として学科を設置することを構想しています。「生活デザイン学科」では、「衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的とし、下記のコースを設ける予定です。

設置するコース

1. アパレル・スタイリストコース

素材やデザインに関する専門的な知識をはじめ、着る人の個性を表現するための豊かな感性を持ち、イメージを形に変えるために必要な知識と技術を身につけた人材を育成する

2. ファッションコーディネートコース

イメージを表現するための、ファッションに関する総合的な知識を養い、TPO と流行を見極める感性と技術を身につけた人材を育成する。

取得可能な資格・免許

2 級衣料管理士資格、パターンメイキング技術検定、きもの文化検定、色彩検定、販売士
パーソナルカラー検定、ファッションビジネス能力検定、中学校教諭二種免許（家庭）
司書教諭資格、図書館司書資格

就職状況

「生活デザインコース」平成 26 年度卒業生就職内定率（2 月現在、希望者ベース）100%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m

JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に服飾関係の学びがある短期大学（参考）

大手前短期大学ライフデザイン総合学科、大阪夕陽丘学園短大キャリア創造学科

大阪女子短期大学生活科学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するものに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(別添資料 2) **進学希望アンケート調査**
(調理・製菓学科)

目 次

1. 調査概要
2. 調理・製菓学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学調理・製菓学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する生活デザイン学科、栄養学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学7)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5ヵ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 調理・製菓学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

調理・製菓学科	574
うち、併設高校	85
その他の学科	1,622
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

調理・製菓学科を選択した高校生数が有効回答数の9.0%にあたる574人であった。なお、その他の学科1,622人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、
兵庫県神戸市以東(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。



3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(調理・製菓学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいとは思 わない	居住地													無効
					男性	女性	調理・製 菓学科	その他の学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	85	190	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	豊島	公	6	227	97	130	39	60	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
3	渋谷	公	7	263	126	137	29	77	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
4	東淀川	公	7	270	102	168	29	48	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
5	京都明徳	私	7	254	127	127	29	60	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
6	京都翔英	私	6	224	152	72	24	39	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
7	大阪	私	9	354	233	121	21	62	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
8	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	20	68	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
9	北淀	公	5	180	72	108	18	45	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	北摂つばさ	公	6	214	87	127	18	50	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
11	鶴見商業	公	7	240	22	218	16	52	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
12	京都西山	私	5	177	0	177	15	69	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
13	茨田	公	5	169	72	97	14	28	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
14	北かわち農が丘	公	3	114	49	65	13	27	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
15	箕面東	公	5	172	61	111	12	29	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
16	宝塚西	公	5	192	80	112	12	42	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
17	尼崎双星	公	5	149	77	72	11	24	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
18	芦屋学園	私	5	146	94	52	11	33	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
19	京都外大西	私	3	116	38	78	10	32	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
20	交野	公	3	112	50	62	10	22	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
21	大冠	公	2	74	35	39	10	18	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
22	昇陽	私	3	98	34	64	10	12	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
23	夙川学院	私	4	121	0	121	9	23	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
24	守口東	公	2	68	18	50	9	19	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
25	宝塚東	公	1	35	14	21	8	12	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
26	西	公	4	147	50	97	8	38	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
27	京都橘	私	3	123	54	69	8	24	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
28	八尾北	公	2	75	23	52	7	19	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
29	伊丹北	公	2	74	32	42	7	13	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
30	京都両洋	私	2	74	56	18	6	12	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
31	芥川	公	2	76	28	48	6	18	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
32	島本	公	1	42	5	37	6	23	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
33	尼崎北	公	4	116	54	62	6	28	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
34	西寝屋川	公	3	91	35	56	6	25	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
35	芦間	公	2	73	43	30	5	15	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
36	箕面学園	私	2	90	71	19	5	21	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
37	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
38	阪南大学	私	2	72	45	27	3	21	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
39	あべの精華	私	4	120	0	120	3	34	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
40	柴島	公	2	76	21	55	3	19	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
41	茨木西	公	1	33	18	15	2	10	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
42	清明学院	私	1	36	19	17	2	12	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
43	華頂女子	私	2	80	0	80	2	27	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
44	神戸野田	私	2	60	11	49	1	16	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
45	汎愛	公	3	114	65	49	1	23	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
46	枚岡樟風	公	1	32	4	28	1	17	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
47	宝塚	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
合計			178	6364	2402	3962	574	1622	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、
高校2年生の皆さん
が対象となります。

大阪成蹊短期大学「調理・製菓学科（仮称）」

設置構想に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科食物コースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「調理・製菓学科」として学科を設置することを構想しています。「調理・製菓学科」では、「食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的とし、下記のコースを設ける予定です。

設置するコース

1. 調理コース

調理に関する幅広い知識と高い技術を持ち、料理を通じて人に幸せを届けることのできる調理師やフードスペシャリストを育成する。

2. 製菓コース

製菓に関する確かな知識と技術を持ち、製菓を通じて人に幸せを届けることのできる製菓のプロフェッショナルを育成する。

3. フードコーディネーターコース

調理やメニュー開発、接客サービス、食空間の演出など「食」に関する幅広い知識と技術を身につけた、フードコーディネーターのプロフェッショナルを育成する。

取得可能な資格・免許

調理師免許、技術考査（専門調理師免許筆記試験合格証）、フードスペシャリスト、家庭料理技能検定 2・3 級、製菓衛生師（受験資格）、フードコーディネーター 3 級、レストランサービス技能士 3 級、食空間コーディネーター 3 級、サービス接客検定準 1～3 級、ラッピングコーディネーター、販売士、色彩検定、図書館司書資格

（コースにより取得できる資格・免許は異なります）

就職状況

平成 26 年度卒業生就職内定率（1 月末現在、希望者ベース）

調理クラス 100%（調理師職希望者の調理師職内定率 100%）

フードコーディネータークラス 100%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m

JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に調理・製菓及びフードコーディネーターの学びがある短期大学（参考）

大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科、大阪青山大学短期大学部調理製菓学科

四条畷学園短期大学ライフデザイン総合学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(別添資料 3) **進学希望アンケート調査**
(栄養学科)

目 次

1. 調査概要
2. 栄養学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学栄養学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する生活デザイン学科、調理・製菓学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただいた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5ヵ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 栄養学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

栄養学科	272
うち、併設高校	35
その他の学科	1,924
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果の分析】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

栄養学科を選択した高校生数が有効回答数の4.3%にあたる272人であった。なお、その他の学科1,924人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、
兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。



3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(栄養学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいとは思 わない	居住地													無効
					男性	女性	栄養学科	その 他の 学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	35	240	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	渋谷	公	7	263	126	137	16	90	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
3	豊島	公	6	227	97	130	15	84	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
4	東淀川	公	7	270	102	168	15	62	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
5	大阪	私	9	354	233	121	14	69	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
6	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	14	74	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
7	鶴見商業	公	7	240	22	218	9	59	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
8	尼崎北	公	4	116	54	62	8	26	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
9	汎愛	公	3	114	65	49	8	16	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
10	北摂つばさ	公	6	214	87	127	7	61	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
11	京都明徳	私	7	254	127	127	7	82	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
12	宝塚西	公	5	192	80	112	7	47	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
13	夙川学院	私	4	121	0	121	7	25	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
14	京都西山	私	5	177	0	177	6	78	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
15	阪南大学	私	2	72	45	27	6	18	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
16	芦間	公	2	73	43	30	6	14	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
17	華頂女子	私	2	80	0	80	6	23	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
18	西	公	4	147	50	97	5	41	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
19	西寝屋川	公	3	91	35	56	5	26	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
20	芥川	公	2	76	28	48	5	19	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
21	交野	公	3	112	50	62	5	27	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
22	あべの翔学	私	4	120	0	120	4	33	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
23	北かわち原が丘	公	3	114	49	65	4	36	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
24	八尾北	公	2	75	23	52	4	22	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
25	大冠	公	2	74	35	39	4	24	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
26	茨木西	公	1	33	18	15	4	8	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
27	北淀	公	5	180	72	108	3	60	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
28	京都外大西	私	3	116	38	78	3	39	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
29	京都翔英	私	6	224	152	72	3	60	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
30	芦屋学園	私	5	146	94	52	3	41	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
31	京都橘	私	3	123	54	69	3	29	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
32	箕面東	公	5	172	61	111	3	38	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
33	守口東	公	2	68	18	50	3	25	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
34	箕面学園	私	2	90	71	19	3	23	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
35	宝塚東	公	1	35	14	21	3	17	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
36	扇町総合	公	1	33	3	30	3	12	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
37	枚岡樟風	公	1	32	4	28	3	15	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
38	尼崎双星	公	5	149	77	72	2	33	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
39	茨田	公	5	169	72	97	2	40	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
40	清明学院	私	1	36	19	17	2	12	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
41	伊丹北	公	2	74	32	42	2	18	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
42	昇陽	私	3	98	34	64	2	20	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
43	柴島	公	2	76	21	55	1	21	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
44	神戸野田	私	2	60	11	49	1	16	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
45	島本	公	1	42	5	37	1	28	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
46	京都両洋	私	2	74	56	18	0	18	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
47	宣真	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
合計			178	6364	2402	3962	272	1924	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」） および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、
高校2年生の皆さん
が対象となります。

大阪成蹊短期大学「栄養学科（仮称）」

設置構想に係る入学希望アンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科栄養コースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「栄養学科」として学科を設置することを構想しています。「栄養学科」では、「栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的としています。

学科の特色

栄養士として必要な知識と技能を基礎から応用まで身につけ、「国民の健康づくり」「食育」を実践、推進し、社会に貢献できる栄養士をめざす。

取得可能な資格・免許

栄養士免許、栄養教諭二種免許、図書館司書資格

就職状況

「栄養コース」平成 26 年度卒業生就職内定率（2 月現在、希望者ベース）97.6%
（栄養士職希望者の栄養士職内定率 100%）

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m
JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に栄養関係の学びがある短期大学（参考）

大阪夕陽丘学園短期大学食物栄養学科、大阪女子短期大学生活科学科食物栄養専攻栄養士コース、神戸女子短期大学食物栄養学科、京都文教短期大学食物栄養学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、 2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡）9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北）12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(別添資料4) 大阪成蹊短期大学幼児教育学科 指定校に対する要望一覧(平成26年度入学生募集)

番号	高校名	公立・私立の区分	所在地	希望類型 (新規・追加)	新規・追加希望枠数	新規・追加枠
1	A高校	公立	大阪市	追加	複数	×
2	B高校	公立	大阪市	追加	複数	×
3	C高校	公立	大阪市	追加	1	×
4	D高校	公立	大阪市	新規	1	×
5	E高校	公立	池田市	追加	1	×
6	F高校	公立	高槻市	追加	複数	2
7	G高校	公立	寝屋川市	新規	1	1
8	H高校	公立	岸和田市	新規	1	1
9	I高校	公立	貝塚市	追加	複数	1
10	J高校	公立	泉南市	新規	1	1
11	K高校	私立	大阪市	追加	複数	1
12	L高校	私立	東大阪市	追加	複数	×
13	M高校	私立	藤井寺市	新規	1	1
14	N高校	私立	洲本市	新規	1	1
15	O高校	私立	三田市	新規	1	1
16	P高校	公立	生駒郡	新規	複数	×
17	Q高校	公立	愛媛県	新規	1	×
18	R高校	公立	鳥取県	新規	1	×
19	S高校	公立	島根県	新規	1	×

(別添資料 5) **進学希望アンケート調査**
(幼児教育学科)

目 次

1. 調査概要
2. 幼児教育学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月収容定員増を予定している大阪成蹊短期大学幼児教育学科の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置する生活デザイン学科、調理・製菓学科及び栄養学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5カ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 幼児教育学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

幼児教育学科	916
うち、併設高校	114
その他の学科	1,280
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

幼児教育学科を選択した高校生数が有効回答数の14.4%にあたる916人であった。幼児教育学科の入学定員(300人)の3.05倍にあたる高校生の回答を得た。

なお、本調査対象校のうち、保育士、幼稚園教員をめざすためのコースを設置している高校が併設高校を含め5校あり、いずれも進学希望者が多かった。設置高校は以下のとおりである。

大阪成蹊女子高校「幼児教育コース」、宣真高校「保育系進学コース」、京都西山高校「こども夢コース」、あべの翔学高校「幼教進学コース」、昇陽高校「保育福祉コース」

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。

3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(幼児教育学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいとは思 わない	居住地													無効
					男性	女性	幼児 教育 学科	その 他の 学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	114	161	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	直真	私	2	68	0	68	55	0	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
3	京都西山	私	5	177	0	177	53	31	93	1	3	2	2	18	1	0	0	109	28	1	12	2	2
4	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	41	47	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
5	渋谷	公	7	263	126	137	39	67	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
6	京都明徳	私	7	254	127	127	34	55	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
7	大阪	私	9	354	233	121	30	53	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
8	豊島	公	6	227	97	130	28	71	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
9	北淀	公	5	180	72	108	27	36	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	宝塚西	公	5	192	80	112	26	28	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
11	鶴見商業	公	7	240	22	218	24	44	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
12	京都翔英	私	6	224	152	72	24	39	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
13	北摂つばさ	公	6	214	87	127	22	46	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
14	あべの晴学	私	4	120	0	120	22	15	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
15	島本	公	1	42	5	37	22	7	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
16	東淀川	公	7	270	102	168	19	58	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
17	芦屋学園	私	5	146	94	52	18	26	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
18	茨田	公	5	169	72	97	18	24	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
19	夢咲女子	私	2	80	0	80	18	11	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
20	西	公	4	147	50	97	17	29	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
21	京都外大西	私	3	116	38	78	17	25	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
22	箕面東	公	5	172	61	111	17	24	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
23	北かわち里が丘	公	3	114	49	65	16	24	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
24	尼崎双星	公	5	149	77	72	14	21	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
25	尼崎北	公	4	116	54	62	14	20	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
26	枚岡樟風	公	1	32	4	28	14	4	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
27	西寝屋川	公	3	91	35	56	13	18	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
28	交野	公	3	112	50	62	13	19	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
29	柴島	公	2	76	21	55	12	10	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
30	神戸野田	私	2	60	11	49	12	5	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
31	汎愛	公	3	114	65	49	12	12	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
32	京都橘	私	3	123	54	69	11	21	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
33	箕面学園	私	2	90	71	19	10	16	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
34	八尾北	公	2	75	23	52	10	16	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
35	夙川学院	私	4	121	0	121	9	23	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
36	大冠	公	2	74	35	39	9	19	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
37	京都両洋	私	2	74	56	18	9	9	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
38	阪南大学	私	2	72	45	27	8	16	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
39	芥川	公	2	76	28	48	8	16	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
40	守口東	公	2	68	18	50	7	21	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
41	伊丹北	公	2	74	32	42	7	13	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
42	昇陽	私	3	98	34	64	7	15	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
43	清明学院	私	1	36	19	17	4	10	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
44	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
45	芦間	公	2	73	43	30	3	17	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
46	宝塚東	公	1	35	14	21	3	17	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
47	茨木西	公	1	33	18	15	2	10	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
合計			178	6364	2402	3962	916	1280	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※1実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※2イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、

高校2年生の皆さん

が対象となります。

大阪成蹊短期大学「幼児教育学科」

入学定員増（構想中）に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある幼児教育学科では、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、入学定員を現在の 240 人から 300 人へと増員することを構想しています。「幼児教育学科」は、「幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する」ことを目的としています。

特色

保育者としての技能を高める実技科目と、教育について考察する講義科目とをバランスよく学び、学外実習など幼児教育の現場で実践力を身につけ、幼児のこころとからだの成長を助ける「保育士」「幼稚園教諭」をめざします。

取得可能な資格・免許

保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事（本学で指定科目を履修後、社会福祉主事の職に就いた後、名乗ることができる資格）、図書館司書資格

就職状況

平成 23 年度卒業生から平成 25 年度卒業生まで 3 年連続で就職率（希望者ベース）100%
平成 26 年度卒業生（1 月末現在）95.6%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m
JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に幼児教育関係の学びがある短期大学（参考）

平安女学院大学短期大学部保育科、大阪国際大学短期大学部幼児保育科、常盤会短期大学幼児教育科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(別添資料 6)

教育委員会等からの幼稚園教諭養成課程の入学定員増員及び

指定保育士養成施設の入学定員増員(拡充)についての要望について

大阪市教育委員会

吹田市教育委員会

豊中市長

池田市教育委員会

摂津市教育委員会

茨木市教育委員会

高槻市教育委員会

島本町教育委員会

豊能町教育委員会

能勢町教育委員会

箕面市教育委員会

東大阪教育委員会

川西市教育委員会

大市教委第 2584 号
平成 27 年 1 月 16 日

文部科学大臣 下村 博文 様

大阪市教育局
教育長 山本 晋次

大阪成蹊短期大学 幼児教育学科の入学定員増員について（副申）

学校法人大阪成蹊学園は、当該学校法人が設置する大阪成蹊短期大学において、平成 28 年度からの幼児教育学科の入学定員を増員するために認可申請されるとのことです。

大阪成蹊短期大学は、幼稚園教員、保育士等の養成機関として長年の伝統と歴史があり、卒業生は本市のみならず近畿地区の幼稚園、保育所等で教員、保育士及び指導者として活躍されております。

このように、長年にわたる実績に裏付けされた教育の強みや特色を活かし、新しい時代の高度な教育、保育知識を身に付けた教員、保育士を数多く養成するために、入学定員を増員することは、大阪市民の教育的要請に対しても大きな役割を果たすことが期待されます。

つきましては、当該学校法人の設置する大阪成蹊短期大学幼児教育学科の入学定員増員の認可申請に関しまして、特段のご高配を賜りますよう副申いたします。



平成 27 年（2015 年）1 月 7 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

吹田市教育委員会
教育長 梶谷 尚義



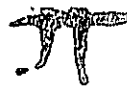
幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



平成 27 年（2015 年）1 月 7 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

吹田市教育委員会

教育長 梶谷 尚義



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

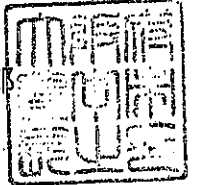
長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。○

豊 中 保 第 2167-2号
平成27年(2015年)1月5日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊中市長
浅利 敬一郎



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

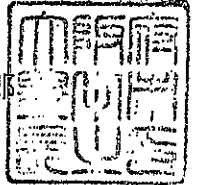
長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学定員の要望をいたします。

豊 こ 保 第 2167 号
平成 27 年 (2015 年) 1 月 5 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊中市長
浅利 敬一郎



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

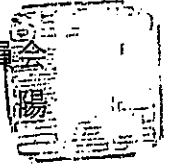
長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年(2014 年)12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

池田市教育委員会
教育長 村田 陽



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



平成 26 年(2014 年)12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

池田市教育委員会
教育長 村田 陽



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。 ○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

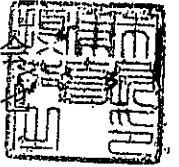
長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。 ○

摂 教 総 第 886 号
平成 27 年 (2015 年) 1 月 19 日

大 阪 成 蹊 短 期 大 学
学 長 岡 本 正 志 様

摂 津 市 教 育 委 員 会
教 育 長 箸 尾 谷 知 也



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

〇 日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

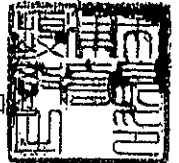
長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

〇 将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

摂 教 総 第 886 号
平成27年(2015年)1月19日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

摂津市教育委員
教育長 箸尾谷 知



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。 ○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力を
いただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保
育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、
指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っ
ているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及ん
でおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めて
いる地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての
貴学の入学定員の増員を要望いたします。 ○

平成 26 年 (2014 年) 12 月 24 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

茨木市教育委員会

教育長 八木 章 治



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年 (2014 年) 12 月 24 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

茨木市教育委員会

教育長 八 木 章 治



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

高教総第 1016 号

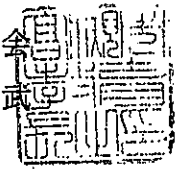
平成26年12月24日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

高槻市教育委員会

教育長 一瀬 武



幼稚園教諭養成施設の拡充について

日頃は本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、本市をはじめとした地域で活躍する幼稚園教諭の養成に大いなる貢献をいただいているところです。

その様な状況の中、長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容や指導の評判などにより、指定幼稚園教諭養成施設としての貴学への入学希望者が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍する事を願う若者や、質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待や要望に応える為にも、必要な人材の供給できるよう、貴学の入学定員の増員を含んだ、幼稚園教諭養成施設の拡充について要望するものです。

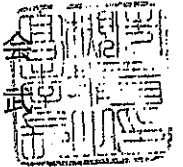
高教総第 1016 号

平成26年12月24日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

高槻市教育委員会
教育長 一瀬



指定保育士養成施設の拡充について

日頃は本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、本市をはじめとした地域で活躍する保育士の養成に大いなる貢献をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

その様な状況の中、長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容や指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍する事を願う若者や、質の高い保育士を求めている地域社会の期待や要望に応える為にも、必要な人材の供給できるよう、貴学の入学定員の増員を含んだ、指定保育士養成施設の拡充について要望するものです。

島教子第1406号
平成26年12月22日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

島本町教育委員会
教育長 岡本 克



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

島教子第1406号

平成26年12月22日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

島本町教育委員会

教育長 岡本 克己



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。 ○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。 ○

平成 26 年 12 月 19 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊能町教育委員会
教育長 石塚 謙

幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域社会における幼児教育に資する幼稚園教諭養成に大いなるご活躍をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の高い評価などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあることは誠に残念であります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを切望する若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年 12 月 19 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊能町教育委員会
教育長 石塚 謙 様

指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域社会における保育の充実に資する保育士養成に大いなるご活躍をいただいているところです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の高い評価などにより、保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあることは誠に残念であります。

将来、保育士として活躍することを切望する若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

能学第 1294-2 号
平成 26 年(2014 年) 12 月 18 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

能勢町教育委員会
教育長 森田 雅彦



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

能学第 1294 号
平成 26 年(2014 年)12 月 18 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

能勢町教育委員会
教育長 森田 雅彦



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

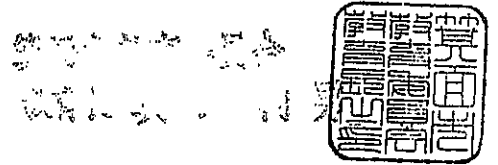
さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

箕 子 育 第 352号
平成27年(2015年)1月15日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



箕子育第35号
平成27年(2015年)1月15日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

ご挨拶
文書



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

東大阪市教委教第 4173 号
平成 26 年 12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

東大阪市教育委員会
教育長 西村 保



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について（要望）

日頃より、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
また、地域で活躍する幼稚園教諭養成に多大なご協力、ご貢献をいただき感謝申し上げます。

さて、次年度の入学予定者につきまして、貴学の長年に亘る幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると 聞き及んでいます。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員を増員していただきますよう要望いたします。

平成 26 年（2014 年）12 月 26 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

川西市教育委員会
教育長 牛 尾 功



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

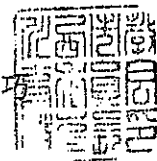
平成 26 年（2014 年）12 月 26 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

川西市教育委員会

教育長 牛 尾 巧



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



(別添資料 7)平成28年度 前期 教室使用状況表(講義・演習室)

		北館													本館													中央館														
		201 (99)	210 (110)	211 (110)	215 (42)	300大 (350)	310 (64)	312 (42)	401 (80)	411 (60)	412 (60)	414 (60)	415 (80)	202 (24)	413 (18)	424 (77)	425 (77)	522大 (231)	520 (135)	525 (160)	527 (72)	530 (54)	534 (72)	535 (108)	536 (107)	537 (108)	538 (168)	344 (63)	345 (63)	349 (63)	444 (107)	445 (107)	540 (72)	543 (108)	545 (160)	546 (108)	547 (108)	549 (151)	541 (50)			
月	1	001	291	93	302	302	001	001	302	94	94	94	291	99		91	321	91	93	301	811	201	301	301	001	312	93	93	002	95	001	002	301	242	94	321	322	302	302			
	2	93	93	001	92	93	301	001	94	142	94	271	271	99		91	94	201	302	91	001	272		301	001	302	91	611	302	202	302	002	93	001	001	301		301	272			
	3	272	302	272	92	93	92	291	92	94	94	242	142	91		91	612	92	302	281	281	91		301	93	301	93	611	611	281	301	301	142	282	322	202	241	812	94			
	4	94	302	812	93	302	302		202	91	141	302	302		93	302	612	93	241		281	001	612	241	302	611	93	002	611	281	301	302	302	302	202	611	302	302	84			
	5					321				94	99	99	99	99	93			302		321	141		301		322	811	302	242		241	141				321			321				
火	1	302	242	94		301	94		301	94	94	94	94	99		94	811	91	93	91	93	301	611	92	301	95	93	142	281	93	812	302	301	302	302	302	611	91	94			
	2	612	241	611	93	91	94	94	92	94	94	94	94	611	292	611	811	93	142	93	272	93	611	91	91	93	302	302	281	201	302	301	94	301	301	301	301	93	94			
	3	301	202	94	94	93			94	94	94	611	302	91		611	811	301	93	302	272	301	142	93	301	281	93	611	811	91		301	302	812	301	292	302	91	94			
	4	302	611	811		91			94	94	94		612			93	611	93	301	301	292		93	141	302	93	93	びわこ	611	301	302		281	301		281			301			
	5	242						99	99	94	99	99	612	99		302	322	322	94	301	141		93		321	93	93	びわこ	001	93	611		141	001	322	301	242	301	001			
水	1		271	281	93	301	241	271	301	91	271		142	93			141		301	201	271	301	301	95	91	301	93	292	811	811	302	302	812	611	301	241	281	302	271			
	2	92	93	281	291	93	241	142	91	91	93		301			91	811	93	301	93	301	271	201	93	91	301	301	271	202	812	301	302	611	301	92	302	281	302	302			
	3	301	93	321	92	93	302	141	91	94	811		301			91	811	92	91	93	271	282	301	93	301	812	301	281	92	812	201	282	812	301	93	281	611	302	301			
	4	322	241	141	99	302	301	99	94	99	99	99	301			141	811	92	322	93	141	301	301	321	321	812	93	271	242	93	141	321	301	302	302	281	611	321	302			
	5	321			99				99	99	99	99					001	92			001	301	301	302	321	302	321	002	001	302	001	002						322		001		
木	1	301	94	302	94	94	94	141	94	94	94	91	142		811	611	95	91	292	272	241	94	94	302	271	91	93	93	202	271	281	281	301	281	282	95	812	301	201	271		
	2	302	302	141	91	93	811			94	272	91	301	141		611	241	93	321	92	321	301	811	811	282	142	93	242	291	272	301	302		202	301	321	321	281	302			
	3	93	241	93	141	301	95			93	93	202	301	811		93	241		301	91	202	282	281	612	282	141	241	272	291	272	302	141	612	282	141	302	93	281	301			
	4		241	93	92		95	99	99	99	99	202	141				202	302	302	292	141		302	612	282	281	302	811	301	301			612	282			301	321				
	5							99	99	99	99		99				001		302					301	302	301	302		001									321				
金	1	94	94	811	291	301	271	94	301	94	94	93	94			201	92	93	93	92	611	301	282	611	241	282	91	292	95	301	812	812	301	301	301	93	281	302	301			
	2	811	241	94	291	91	302	141	301	94	142	93	91	141		242	301	92	91	94	611	611	282	93	95	141	93	292	811	93	302	301	301	302	93	301	281	201	301			
	3	141	94	94	301	93	301	301	94	94	93	94	94			302	281	301	91	93	292	94	282	611	141	282	93	271	811	93	302	301	271	302	93	301	142	611	271			
	4				99	92	271	93	99	94	94		99	99	94	312	281	93	301	91	302	302	201	271	611	281	93	271	93	241	312	321	93	141	94	321		321	271			
	5		94	94	99	92			99	99		99	99												301	301	302		001	302			321			321						
土	1																														001	002										
	2																														001	002										
	3					92																																				
	4					92																																				

平成28年度 前期 教室使用状況表(実習室等特別教室)

		PC教室							栄養						食物				生活デザイン				幼児教育学科								
		200 (40)	203 (40)	205 (50)	213 (40)	214 (18)	301 (42)	303 (60)	402LL (40)	220	223	225	230	228	346	325	328	334・ 336	323・ 320	434	436	437 (CAD)	438	342 理科	420 図工	422 図工	449 看護	657 アソシエーション	658 音楽	659 音楽	443 保育室
月	1	92		292	001		811			282				282	302									99	びわこ	302	99		94	94	
	2	612		292	812				94	282	282	282		282	302									99	301	302	99		301	94	
	3	812			141		811		93	282	282	282				271	201	291	271						301	94	302		141	びわこ	
	4	302			302	812	302	302	93	282						271	201	292	271	241				312	302	94		322	302	302	
	5						811						282							241											94
火	1	241	141	272	811		271	92	242	281			282	282	281		202	93		241					321	301	302	141	141	302	
	2	92	241	272	811		92	291	93	281	282	282	282	282	281	271	202		271	241						302			99	301	
	3	612	242	93	93	95	93	93	812	281	282	282	282		93	271	201	291	271	242			241		301	94	301		321	94	
	4	612	242	612	93	93		612	94	281			282		93		201	291	272	242	241		241		301	321	302		301	94	
	5			93	93	93		93	001				282								241										99
水	1		612				612			282				282	302			292	272						321	99	302		302	94	
	2	612					93	94		282	282	282		282	302			292	272			242			302	99	302		302	94	
	3	612	142	141	141		612		94	281	282	282		271		202	291	272	241	241		242				99	302		301	94	
	4	612	142	93	93	93	612	93	93	281		282		271		202	291	272	241	241						301	302		302	94	
	5		93	93	93				94															312					99	94	
木	1	611	281	281	281	95	141	93	141			281	281		302						242				302	302	301		301	301	
	2	611	811		612										302	271	201	292	271	242					302	302	301		93	302	
	3	611	142	281	242		95	611	93			281			302	271	201	292	271		242				302		301		301	94	
	4	611					95	611							302					241	242					302			301	94	
	5																				241						302				
金	1	141			141		141		93	281			282	282	281			292	272	242						94		302		302	
	2	612	271	92	93		812	612	93	281			282	282	281		202	292	272	242					301	302	301		302		
	3	612	142	612	281	93	201	93		281			282		302		202	291	272		241	242	242		302		301		302	302	
	4	612	93	271	281	93	93	611	93	281					302		202	291	272		241		242		302		302		301	301	
	5		93																								302		302		
土	1	001/002																													
	2																														
	3																														
	4																														

平成28年度 後期 教室使用状況表(講義・演習室)

北館															本館													中央館												
	201 (99)	210 (110)	211 (110)	215 (42)	300大 (350)	310 (64)	312 (42)	401 (80)	411 (60)	412 (60)	414 (60)	415 (60)	202 (24)	413 (18)	424 (77)	425 (77)	522大 (231)	520 (135)	525 (160)	527 (72)	530 (77)	534 (72)	535 (108)	536 (107)	537 (108)	538 (168)	344 (63)	345 (63)	349 (63)	444 (107)	445 (107)	540 (72)	543 (108)	545 (160)	546 (108)	547 (108)	549 (151)	541 (50)		
月	1	95	301	301	92	99	92	93	びわこ	94			002		95		92	302	302	001		001	001	91	302	302	92	002	93	001	001	002		001	301	001	302			
	2	301	91	301	92	91	92		94	94	811		002		91	242	92	001	91	611	91	611	001	282	282	93	92	93	282	95	321	001	281	301	201	001	001	302		
	3	91	301	812	301	301	301	272		94	94	301	141	811	202	301	91	142	94	611	301	611	91	281	282	91	93	301	94	301	301	321	611	91	811	282	612	291		
	4	301	302	93	91	302	302	91	93	94	94	302	301		302	142		321		301	321					282	001	272	272	302	93	302	302	301	302	282	612	292		
	5	301							99	94	99	99	99				302		321	141						302	002	002	282					301						
火	1	001	301	91	94	94	94	94	91	94	94	94	291	99	93	91	94	001	92	272	94	612	001	001	301	91	91	272	94	91	301	94	001	91	001	612	302	202		
	2	93	91	241	291	93	93		302	302	302	611	611	99	91	94	93	93	292	272	93	94	812	202	811	301	91	94	92	91	242	301	282	322	93	301	612	301	94	
	3	811	811	93	94	93	93		201	94	94	611	611	99	241	242	92	302	93	812	94	302	302	302	301	93	93	811	94	93	301	282	202	302	281	282	93	91		
	4	611	611	141	94	99	201			94	94	301		99	93	271	93	322	93		94	202	812			141	91	611	302	93	301		281	301	302	301	93			
	5					99				94	94	94	94	99	93		302	93	94			142	93			302	001	001		93	321		001		321	322				
水	1	301	271	241	812		612	271	95	95	811	93	301		301	91	91	94	202	271	141	142	201	141	281	91	271	811	611	301	301	93	611	93	281	301	93	271		
	2	202	271	271	301	91	612	321		93	271	141	301		201	91	92	93	92	302	91	281	92	281	93	142	91	811	611	301	301	302	611	93	301	94	93	301		
	3	93	302	302			301		94	271	811	612	812		611	93	93	201	93	91	92	281	321	301	612	281	142	811	271	301			281	301	322	93				
	4	301	322	322		99	001	99		271	291	811	141		611	811		322		91	92	281	301	301	301			811	271	301			281	301	281	322				
	5	301	241	322				99				99	99							001						141		001		001	322	002		301						
木	1	301	301	94	94	93	202	141	91	94	302	302	281	811	302	281	91	301	91	812	812	302	302	201	271	91	91	291	93	281	302	281	302	93	93	811	93	141		
	2		812	202	91	93	92	94		94	94		301				93	322	92	321	812	141	611	611	302	93	321	291	811	301	142	301	281		281	301		94		
	3	302	241	321	291		95	92				93	93		612	241		93		612		301	272	94	611	93	272	91	242	301	142		301	301	282	281				
	4	301		321			95			94	99	99			612	201				612			272	94			272			301			301	301						
	5	301								94	99	99													94				001		301	301								
金	1	611	341	811		93	92	141		93	142	92	92		93	91	92	94	92	301	94	91	611	812	95	91	291	94	301	93	202	301	301	302	282	271	93	321		
	2	611	241	301	141	91	92	141	93	94	94	91	201	93	91	302	92	93	92	301	271	282	611	94	302	93	811	93	271	93	301	282	241	301	281	291	93	93		
	3	141	94	94			93	95		94	94	94	94		93	141	301	91	91	611	271	302	611	142	282	93	201	812	271	93	301	282	281	301	302	301	93	141		
	4		301				93	99	94	94	94	94			93	271			93	611		302	301	271			201		811		301	282		93						
	5			301			95	99			99	99	99		141					141					94						322	301		301						
土	1																										001				001	002								
	2																										001				001	002								
	3																										001				001/002	002								
	4																																							

平成28年度 後期 教室使用状況表(実習室等特別教室)

		PC教室								栄養						食物				生活デザイン						幼児教育学科									
		200	203	205	213	214	301	303	402 (LL)	220	223	225	230	228	346	325	328	334・336	323・320	434	436	437 (CAD)	428	438	342 理科	420 図工	422 図工	小学校実習室	449 看護	658 音楽	657 アンサンブル	659 音楽	443 保育室		
月	1										281			281		272		272								99			94	301	99		94		
	2	312	812	94	001		612	93		281	281	281		281	322	272		272								99	301	びわこ	301	99		94			
	3	811	301	292	241	301	141	93	301	281	281	281		282	322	271	201		271				242		321	301		びわこ		301	321	301	321		
	4	611	302	302	241	302	141	302	94			281	281	282	99	271	201		271				242		312	302				302	322	302			
	5		811	94	811		93		94																										
火	1	612	94	001	92		812	94	94					282	93		201	93							99	301	301		302						
	2	612	93	141	241		141	812	92		281	281		282	93	271	201		271						99	301	312	94	302	301		321			
	3	93	612	93	93	93	93	301	142	282	281	281		281	302	271		291		271						94	94	びわこ		321		321			
	4	811	242	93	93		93	301	142	281				281	302			291		242	241					94	94	94		301					
	5		242	93	141	93	93		001									292		242	241							321							
水	1	142	242	92			612	93		282	281		282		282		202	272	272						312	301				301		94			
	2	93	241	93	812	93	612	92		282	281		282		282	272	202	272	272		242					301	312		301			94			
	3		141	611	242		321	611		282					302	272	202	291	272	241	241				312	301						94			
	4	812	142	93	242	93		93		282					302			291		241	241					99	301			94		94			
	5		93	93	93		93	93	811																	99						94			
木	1	92	001	272	611		322	94	242			282	282	282	282					241	242					322	301	99	302	142					
	2	142		272	92	811	612	301		281	281	281	282	282	282	271	201	292	271	241	242							99		301		94			
	3	611	141	92	92		95	301	93	281	281	281		281	302	271	201	292	271								302		301	99		301			
	4	611	142	611	241		95	93	93					281	302							242							301	99					
	5							301															242						301						
金	1		92	93	811		94	301	132					282		202	292									321	94	99	301			321			
	2	322		611	811	95		301	001	281				281	282	272	202	292	272				242			321	321		301	301		94			
	3	142	93	93	811		95	301	93	281			282	281	322	272	202	291	272	241	241		242				321		301			321			
	4	611	93	001	93		93						282		322			291		241	241					321						301			
	5		93				95														241											94			
土	1																																		
	2																																		
	3		002																																
	4																																		

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

生活デザイン学科

大阪成蹊短期大学（以下、「本学」とする。）生活デザイン学科は、現在の総合生活学科生活デザインコースの教育課程を踏襲し、学科を設置するもので、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成をめざす。

本学科の基となる、総合生活学科の募集状況は資料 1-1 のとおりであり、志願者数等順調に推移している。また、現在の生活デザインコースでは、平成 23 年度から平成 26 年度の総合生活学科入学者のうち、毎年 50 人程度のコース希望者を受け入れており、平成 27 年度は 62 人となる見込みである（資料 1-2 参照）。一方、生活デザイン学科への社会的な人材需要の動向に目を向ければ、アパレル・ファッション業界において、専門の知識・技術を備えた人材の需要は根強くあり、本学においても生活デザインコースの就職率は毎年高く、平成 26 年度卒業予定者の就職内定率は 100%である。

本学では、このような社会の要請に応えるため生活デザイン学科を設置し、入学定員を 50 人とする。入学定員設定の考え方は、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる生活デザインコースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 2 参照）及び、本学科の教員数や施設設備をもとに本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しいきめ細かい指導を可能にする少人数クラス編成等を勘案して設定した。

また、定員充足の根拠については、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる生活デザインコースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 2 参照）、生活デザインコースで実施した平成 26 年度新入生アンケート調査の結果（資料 3-1～3-3 参照）、及び本学の取組実績等としている。

なお、これらの入学定員は後述に示すとおり、客観的データに基づき算出したものであることから確実に充足する見込みであり、また大阪府の 18 歳人口の推移と本学科の基となる総合生活学科の志願倍率の状況は資料 4-1,4-2 のとおりであり、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

調理・製菓学科

調理・製菓学科は、現在の総合生活学科食物コースの教育課程を踏襲し、学科を設置するもので、食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス産業で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成をめざす。

本学科の基となる、総合生活学科の募集状況は資料 1-1 のとおりであり、志願者数等順調に推移している。また、現在の食物コースでは、平成 23 年度から平成 26 年度の総合生活学科入学者のうち、平成 23 年度 82 人、24 年度 84 人、25 年度 102 人、26 年度 112 人のコース希望者を受け入れており、平成 27 年度は 95 人となる見込である（資料 1-2 参照）。今回の学科の設置にあたっては、学びの内容をより適切に表現する学科名称として調理・製菓学科とするため、これまで食物コースの中にあった調理、製菓の学びが一層見えやすくなる。そのため、現状の食物コース希望者以上の志願者、入学者を見込むことができる。

一方、調理・製菓学科への社会的な人材需要の動向に目を向ければ、外食産業や和洋菓子・デザート類市場の拡大、健康や食の安全への関心の高まりや外国人観光客の増大に伴い、調理、製菓、フードコーディネーターに従事する人材の需要が高まっており、本学においても食物コースの就職率は毎年高く、平成 26 年度卒業予定者の就職内定率は 100%である。

本学では、このような社会の要請に応えるため調理・製菓学科を設置し、入学定員を 120 人とする。入学定員設定の考え方は、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる食物コースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 5 参照）及び、本学科の教員数や施設設備をもとに本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しいきめ細かい指導等を可能にする少人数クラス編成等を勘案して設定した。

また、定員充足の根拠については、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる食物コースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 5 参照）、食物コースで実施した平成 26 年度新入生アンケート調査の結果（資料 6-1～6-3 参照）、及び本学の取組実績等としている。

なお、これらの入学定員は後述に示すとおり、客観的データに基づき算出したものであることから確実に充足する見込みであり、また大阪府の 18 歳人口の推移と本学科の基となる総合生活学科の志願倍率の状況は資料 4-1,4-2 のとおりであり、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

栄養学科

栄養学科は、現在の総合生活学科栄養コースの教育課程を踏襲し、学科を設置するもので、栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材育成をめざす。

本学科の基となる、総合生活学科の募集状況は資料 1-1 のとおりであり、志願者数等順調に推移している。また、現在の栄養コースでは、平成 23 年度から平成 26 年度の総合生活学科入学者のうち、平成 23 年度 80 人、平成 24 年度 119 人、平成 25 年度 103 人、平成 26 年度 118 人のコース希望者を受け入れており、平成 27 年度は 109 人となる見込である（資料 1-2 参照）。

一方、栄養学科への社会的な人材需要の動向に目を向ければ、近年の医療福祉の水準向上や健康志向の高まりなどにより、社会における栄養への関心が高まっている。併せて、栄養、食生活に関する生活習慣の改善や社会環境の改善、食育や栄養指導の重要性が高まっており、本学においても、栄養コースの就職率は毎年高く、平成 26 年度卒業予定者の就職内定率は 100%である。

本学では、このような社会の要請に応えるため栄養学科を設置し、入学定員を 120 人とする。入学定員設定の考え方は、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる栄養コースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 7 参照）及び、本学科の教員数や施設設備をもとにきめ細かい指導等を可能にする少人数クラス編成等を勘案して設定した。

また、定員充足の根拠については、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる栄養コースへの希望状況（資料 1-2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 7 参照）、栄養コースで実施した平成 26 年度新入生アンケート調査の結果（資料 8-1～8-3 参照）、及び本学の取組実績等としている。

なお、これらの入学定員は後述に示すとおり、客観的データに基づき算出したものであることから確実に充足する見込みであり、また大阪府の 18 歳人口の推移と本学科の基となる総合生活学科の志願倍率の状況は資料 4-1,4-2 のとおりであり、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

幼児教育学科

幼児教育学科は、平成 25 年度に 200 人から 240 人への定員増を行い現在の入学定員となっている。このような状況の中、志願者数、受験者数は着実に増え続け、一定の志願倍率を保持しながらも、入学定員を少し上回る入学者を受け入れてきた（資料 9 参照）。

幼児教育学科においては、このように志願者数等が近年増加の傾向にある中で、近隣地域を中心とする高校からの指定校枠の新規依頼や追加の要望及び幼児教育コースを設置している併設の大阪成蹊女子高校からの入学希望者が増加しており（資料 10,11 参照）、このため、指定校、併設高校からの入学者の増加により入学者全体に占める割合が大きくなり、その他一般入試からの入学を減少させざるを得ない状況となっている（資料 12-1,12-2 参照）。これら状況を踏まえ、同学科への入学希望者の実情に添った入学定員 300 人、収容定員 600 人に変更することとする。この入学定員は、上記入試動向に加え、近隣の教育委員会等から幼稚園教員、保育士の養成に関し、入学定員増員の要望書が多数届いていることや進学希望アンケート調査の結果（資料 13 参照）、本学の所在地である大阪北部の幼稚園、保育所からも人員の不足について協力を要請されていること等を受けて、本学の教員数、施設設備等を勘案し、教育の質を保証できる範囲で本学として地域の要請にできる限り対応するためのものである。

なお、この変更後の入学定員は後述に示す通り、客観的データに基づき算出したものであ

ることから確実に充足する見込みであり、また大阪府の18歳人口の推移と本学科の志願倍率の状況は資料14-1、14-2のとおりであり、長期的かつ安定的に学生確保を図ることができる見通しである。

グローバルコミュニケーション学科

グローバルコミュニケーション学科は、昭和27年の国文科に始まり、昭和46年国文学科に名称変更、平成15年に国文学科を学生募集停止し、表現文化学科へと改組、平成23年創造文化学科、さらに平成26年グローバルコミュニケーション学科に名称変更した。本学科は、言語表現、絵画、映像、身体パフォーマンスなどを学び、クリエイティブな発想力、コミュニケーション力、表現力を持った社会人としてグローバルに活躍できる人材を育成することを目的としている。グローバルコミュニケーション学科の直近5ヵ年の募集状況は、資料15の通りである。平成26年度には名称変更の効果により、志願者及び入学者を増やしたが、平成27年度の募集においては、志願者、入学者とも前年を下回る見込みである。本学科の過去5ヵ年間の学生募集状況を鑑み、入学定員を50人から学生募集の実情に沿った入学定員30人、収容定員60人に変更する。

なお、この変更後の入学定員は後述に示す通り、客観的なデータに基づき算出したものであり、長期的かつ安定的に学生確保を図ることができる見通しである。

経営会計学科

経営会計学科は、ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな人材を育成することを目的としている。経営会計学科の直近5ヵ年の募集状況は、資料16の通りである。平成26年度には、志願者73人、入学者62人と入学定員を充足したが、平成27年度は、志願者、入学者とも前年を下回る見込みである。本学科の過去5ヵ年間の学生募集状況を鑑み、入学定員を60人から学生募集の実情に沿った入学定員50人、収容定員100人に変更する。

なお、この変更後の入学定員は後述に示す通り、客観的なデータに基づき算出したものであり、長期的かつ安定的に学生確保を図ることができる見通しである。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科に共通する定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科の基となる総合生活学科の募集状況は、資料1-1のとおりである。総合生活学科の過去5ヵ年の推移を見ると、志願者数は平成23年度が249人で平成27年度では307人、受験者数は平成23年度が246人で平成27年度が282人となる見込みであり、志願倍率においては平成23年度が1.14倍で平成27年度で

は 1.41 倍となる見込みである。また、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」（平成 22 年度版～26 年度版）のデータによると「学科系統別の動向」（家政系）の過去 5 ヶ年の志願倍率及び入学定員充足率は、平成 22 年度 1.35 倍／87.72%、23 年度 1.30 倍／84.78%、24 年度 1.29 倍／83.45%、25 年度 1.36 倍／87.01%、26 年度 1.31 倍／84.48%と志願倍率はほぼ 1.3 倍で入学定員充足率は 80%台の半ばを上下して推移している（資料 17 参照）。さらに、同事業団の「規模別の動向」で本学が位置すると思われる入学定員 500 人以上の短期大学について、過去 5 ヶ年の志願倍率及び入学定員充足率を見てみると、平成 22 年度 2.08 倍／102.41%、23 年度 2.03 倍／98.96%、24 年度 2.04 倍／95.97%、25 年度 2.08 倍／100.61%、26 年度 2.24 倍／100.74%と志願倍率は安定して 2 倍を上回っている（資料 18 参照）。また、入学定員充足率は、資料 18 のとおり平成 23 年度、24 年度は 100%を若干下回ったが、平成 25 年度から 100%台へと回復しており、募集が安定していることが見て取れる。これに対し、本学の現総合生活学科の直近の募集状況において、志願倍率は「学科系統別の動向」に示す 1.3 倍より高く、加えて平成 24 年度以降は入学定員を充足している（資料 1-1 参照）。また、高校生の進路決定には、短大の入学定員規模が大きな判断要素となっていることが資料 18 の直近の 5 ヶ年のデータにより明らかであり、入学定員が 500 人を超える本学は、今後もこの傾向が続くものと考えられ、学生確保の根拠となるデータである。

さらに、長期的に安定して学生を確保できる根拠として、本学の地元である大阪府の 18 歳人口の動態を基に説明する。大阪府の 18 歳人口の今後の推移は 4-1 のとおりである。本学総合生活学科の平成 26 年度入試の志願倍率は、1.60 倍であり、大阪府における平成 26 年度入試の対象となる 18 歳人口は、83,085 人である。また、平成 37 年度入試の対象となる 18 歳人口は 72,882 人となり、対 26 年度比は 87.7%となる。本学の 1.60 倍の志願倍率に対 26 年度比の大阪府における 18 歳人口の変動率 87.7%を単に乘じると平成 37 年度入試の志願倍率は 1.40 倍と予測され、現状と大きな差異はなく長期的、安定的に学生確保ができると考える（資料 4-2 参照）。

以下にそれぞれの学科について定員充足の根拠となるデータの詳細な内容について説明する。

生活デザイン学科

従来の総合生活学科入学者の、生活デザイン学科の基となる生活デザインコースの希望者数は、資料 1-2 のとおり、毎年 50 人程度となっており、平成 27 年度は 62 人となる見込みである。生活デザインコースは、根強い人気で毎年 50 人程度が確実に希望している。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスにおいて、総合生活学科の生活デザインコースを目的として参加する生徒数は平成 23 年度募集の 144 人から平成 27 年度募集では 171 人と、対平成 23 年度比 1.23 倍の

来場者数となっている（資料 19 参照）。コース希望者数と同様に大きな増減はないものの根強い人気のある学びの分野であることが分かる。

次に、現総合生活学科の入学者に対するアンケートの分析を元に、本学と競合校の状況及び本学の強みを明らかにし、定員充足の根拠を示す。

本学では、毎年、新入生（コース毎に調査を実施）に対しアンケートを実施している。その中に、本学及び他校のオープンキャンパスへの参加状況や、他校への受験状況を尋ねる項目を設定している。平成 26 年度の総合生活学科の生活デザインコースの新入生に対するアンケートの回答状況は資料 3-1～3-3 のとおりである。資料 3-1 をみると、アンケートに回答した生活デザインコースの新入生の 90.2%が 1 回以上本学のオープンキャンパスに参加していると回答しており、オープンキャンパスが、受験生が志望校を決定するにあたり重要な判断要素となっていることが分かる。また、同新入生の 56.9%が他の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加したと回答しているが、実際に受験したと回答したのは、3.9%に留まっている。すなわち、新入生の半数以上は、他校のオープンキャンパスに参加し、進学先として本学と他校とを比較したうえで、本学を選択しているということである。これらの数字は、生活デザインコースの教育内容や環境等に十分魅力を感じて選択していることを表しており、教育に対する評価、人気の表れと理解できる。

同アンケートにおいては、具体的にどこの大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加しているかについても尋ねている。それらの回答のうち、短期大学に限定した場合、回答を得た生活デザインコース新入生のオープンキャンパス参加校や参加件数の状況は資料 3-2 のとおりである。また同新入生の本学への入学理由については資料 3-3 のとおりとなっている。同アンケートの調査結果に基づき、競合校等の分析を以下に示す。

生活デザイン学科の競合校となるのは、資料 3-2 より、大阪夕陽丘学園短期大学、大手前短期大学、大阪女子短期大学であるといえる。しかし、大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科には、ファッションクリエイトコースに加え、フードデザインコースや製菓クリエイトコース等が含まれており、大手前短期大学についてはユニット自由選択制をとっている。また、大阪女子短期大学においても、生活科学科にライフプロデュース専攻と食物栄養専攻が混在しているため、同系統の学びに対する募集状況を抽出することができなかった。なお、同アンケート調査の上位に位置する大阪青山大学短期大学部及び関西外国語大学短期大学部には同系統の学科等は設置していないので除外した。そのため、競合校の募集状況を明らかにすることができなかった。こうした競合校に対し、生活デザインコース新入生のうち、これら競合する学びを含む他の短期大学を受験した者はなく、生活デザイン学科の募集においても安定して学生を確保できると考えられる。また、先の新入生アンケートでは、本学に入学を決めた理由として、「資格、免許取得に有利」という理由が最も多いが（資料 3-3 参照）、本学を含め、競合短期大学のホームページにおける該当コース紹介ページで「取得できる免許や資格」として挙げられているものは資料 20 のとおりであ

る。本学では、中学校教諭二種免許（家庭）を含む、10 種類の資格、免許を掲げており、他校と比して充実している。今回設置する生活デザイン学科においてもこうした幅広い資格等の取得のサポートを充実させるため、学生確保につながると考えている。

さらに本学では、併設の大阪成蹊女子高校から内部進学者が入学している。平成 27 年度入学予定者を含めた平成 23 年度以降の実績は資料 21 のとおりである。生活デザインコースでは、平成 23 年度は 0 人、平成 24 年度は 2 人であったが、平成 25 年度 5 人、26 年度 6 人、27 年度は 13 人となる見込みであり、年々増加している。これは、後述するが、併設高校から本学への内部進学を強化する学園方針に基づく施策の実施によるものであり、今後ともこの施策を継続するため、本学科への併設高校からの内部進学者は、平成 28 年度入学生募集以降も一定数見込めるものとする。

また、生活デザイン学科の入学定員を 50 人と設定するにあたって、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した。アンケート結果は以下のとおりである（資料 2 参照）。

アンケートの実施にあたっては、調査を依頼する高校を次の条件で抽出した。

- ①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校
- ②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校
- ③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校

①については、各校のホームページ及び高校生向けの受験情報誌により対象校を抽出した。②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪府北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。本調査は①から③までの全ての条件を満たした高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）で実施した。実施にあたっては、本学の入試広報部の職員が各校の進路指導部等に訪問し、調査の趣旨等を説明の上、協力をお願いし、承諾を得た高校には、後日アンケート用紙を必要部数送付或いは持参し、各校において実施いただいた。回収は、郵送或いは入試広報部員が訪問し行った。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。また、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置を構想している調理・製菓学科、栄養学科及び収容定員増を構想している幼児教育学科を含めた 4 学科について、同一のアンケート用紙を用いて一括で実施した。

アンケート調査は、全 3 問を設定し、問 1 で性別、問 2 で進学希望、問 3 で居住地を問い、それぞれ○印で選択する方式とした。調査の結果、問 2 の「以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか」において生活デザイン学科に○印を付した高校生が併設高校の 41 人を含めて 434 人であった。入学定員の 50 人に対し、8.68 倍となる回答を得ており、定員を充足できる根拠となる調査結果であった。

以上のとおり、「生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科に共通の定員充足の根拠となる調査結果の概要」に示した従来の総合生活学科の募集状況、全国の同系統の学科の動向、規模別による動向等データ及び、生活デザイン学科の基となる生活デザインコースへの希望者の推移、オープンキャンパスへの参加者数の推移、新入生アンケートの分析、併設高校からの内部進学者数の推移、平成 28 年度募集対象の高校生への進学希望アンケート調査の結果等データにより、新設する生活デザイン学科の入学者を、長期的に安定して確保できると考える。

調理・製菓学科

従来の総合生活学科入学者の、調理・製菓学科の基となる食物コースの希望者数は、資料 1-2 のとおり、平成 23 年度 82 人、24 年度 84 人、25 年度 102 人、26 年度 112 人となっており、平成 27 年度は 95 人となる見込である。今回の学科の設置にあたっては、学びの内容をより適切に表現する学科名称として調理・製菓学科とするため、これまで食物コースの中にあった調理、製菓の学びが一層見えやすくなる。そのため、現状の食物コース希望者以上の志願者、入学者を見込むことができる。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスにおいて、総合生活学科の食物コースを目的として参加する生徒数は平成 23 年度募集の 283 人から平成 27 年度募集では 381 人となっている。その間若干の増減はあるものの、直近 3 ヶ年は 400 人近い来場者となっており、同コースの学びへの興味関心が高まっていることが分かる（資料 19 参照）。

次に、現総合生活学科の入学者に対するアンケートの分析を元に、本学と競合校の状況及び本学の強みを明らかにし、定員充足の根拠を示す。

本学では、毎年、新入生（コース毎に調査を実施）に対しアンケートを実施している。その中に、本学及び他校のオープンキャンパスへの参加状況や、他校への受験状況を尋ねる項目を設定している。平成 26 年度の総合生活学科の食物コースの新入生に対するアンケートの回答状況は資料 6-1～6-3 のとおりである。資料 6-1 をみると、アンケートに回答した食物コースの新入生の 87.7%が 1 回以上本学のオープンキャンパスに参加していると回答しており、オープンキャンパスが、受験生が志望校を決定するにあたり重要な判断要素となっていることが分かる。また、同新入生の 67.0%が他の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加したと回答しているが、実際に受験したと回答したのは、1.9%に留まっている。すなわち、新入生の 7 割弱は、他校のオープンキャンパスに参加し、進学先として本学と他校とを比較したうえで、本学を選択しているということである。これらの数字は、食物コースの教育内容や環境等に十分魅力を感じて選択していることを表しており、教育に対する評価、人気の表れと理解できる。

同アンケートにおいては、具体的にどこの大学、短期大学、専門学校等のオープンキャン

ンパスに参加しているかについても尋ねている。それらの回答のうち、短期大学に限定した場合、回答を得た新入生のオープンキャンパス参加校や参加件数の状況は資料 6-2 のとおりである。また同新入生の本学への入学理由については資料 6-3 のとおりとなっている。同アンケートの調査結果に基づき、競合校等の分析を以下に示す。

調理・製菓学科の競合校は資料 6-2 より、大阪青山大学短期大学部、大阪夕陽丘学園短期大学であるといえる。大阪青山大学短期大学部は、平成 25 年度、26 年度と入学定員を充足している（資料 22-1 参照）。なお、大阪夕陽丘学園短期大学はキャリア創造学科に製菓クリエイトコースとフードデザインコースに加え、ファッションデザイン等が含まれており、食物系統の募集状況のみを抽出することができなかった。こうした競合校に対し、食物コース新入生のうち、これら競合する学びを含む他の短期大学への受験者は 1 人のみであり、調理・製菓学科の募集においても安定して学生を確保できると考えられる。また、食物コースにおける先の新入生アンケートで、入学を決めた理由として最も多かった「資格、免許取得に有利」について、特にフードコーディネーター協会認定校となっている短期大学は、大阪では本学のほかに、大阪夕陽丘学園短期大学、四条畷学園短期大学の 2 校しかない。本学フードコーディネータークラス及び大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科フードデザインコースにおいて、ホームページにて「取得できる免許や資格」として挙げられているものは資料 22-2 のとおりである。本学はフードコーディネーターを含む 9 種類の資格、免許を掲げており、他校と比して充実している。なお、四条畷学園短期大学は、資料 6-2 のとおり、他短期大学のオープンキャンパスへの参加状況においては回答がなく、競合校とみなすのは難しいため、除外している。今回設置する調理・製菓学科においてもこうした幅広い資格等の取得のサポートを充実させるため、学生確保につながると考えている。「資格、免許取得に有利」以外に、「設備や環境が整っている」という理由も多かったが（資料 6-3 参照）、本学では平成 22 年に食物実習室の改修工事、平成 25 年に集団調理実習室の空調機の増設、平成 26 年に再度食物実習室の改修工事を行う等、施設設備等の教育環境の向上に力を入れており、今後も充実を図りながら、より魅力的な教育環境とすることで高校生及び学生の期待に応える。

さらに、本学では、併設の大阪成蹊女子高校から内部進学者が入学している。平成 27 年度入学予定者を含めた平成 23 年度以降の実績は資料 21 のとおりである。食物コースでは、平成 23 年度、24 年度は 1 桁台であったが、徐々に増加し平成 27 年度には 30 人となる見込みである。これは、後述するが、併設高校から本学への内部進学を強化する学園方針に基づく施策の実施によるものであり、今後ともこの施策を継続するため、本学科への併設高校からの内部進学者は、平成 28 年度入学生募集以降も一定数見込めるものとする。

また、調理・製菓学科の入学定員を 120 人と設定するにあたって、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3

月 13 日の間で実施した。アンケート結果は以下のとおりである（資料 5 参照）。

アンケートの実施にあたっては、調査を依頼する高校を次の条件で抽出した。

- ①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校
- ②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校
- ③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校

①については、各校のホームページ及び高校生向けの受験情報誌により対象校を抽出した。②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪府北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。本調査は①から③までの全ての条件を満たした高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）で実施した。実施にあたっては、本学の入試広報部の職員が各校の進路指導部等に訪問し、調査の趣旨等を説明の上、協力をお願いし、承諾を得た高校には、後日アンケート用紙を必要部数送付或いは持参し、各校において実施いただいた。回収は、郵送或いは入試広報部員が訪問し行った。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。また、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置を構想している生活デザイン学科、栄養学科及び収容定員増を構想している幼児教育学科を含めた 4 学科について、同一のアンケート用紙を用いて一括で実施した。

アンケート調査は、全 3 問を設定し、問 1 で性別、問 2 で進学希望、問 3 で居住地を問い、それぞれ○印で選択する方式とした。調査の結果、問 2 の「以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか」において調理・製菓学科に○印を付した高校生が併設高校の 85 人を含めて 574 人であった。入学定員の 120 人に対し、4.78 倍となる回答を得ており、定員を充足できる根拠となる調査結果であった。

以上のとおり、「生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科に共通の定員充足の根拠となる調査結果の概要」に示した従来の総合生活学科の募集状況、全国の同系統の学科の動向、規模別による動向等データ及び、調理・製菓学科の基となる食物コースへの希望者の推移、オープンキャンパスへの参加者数の推移、新入生アンケートの分析、併設高校からの内部進学者数の推移、平成 28 年度募集対象の高校生への進学希望アンケート調査の結果等データにより、新設する調理・製菓学科の入学者を、長期的に安定して確保できると考える。

栄養学科

従来の総合生活学科入学者の、栄養学科の基となる栄養コースの希望者数は、資料 1-2 のとおり、平成 23 年度 80 人、平成 24 年度 119 人、平成 25 年度 103 人、平成 26 年度 118 人となっており、平成 27 年度は 109 人となる見込である。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学のオープンキャン

ンパスにおいて、総合生活学科の栄養コースを目的として参加する学生数は平成 23 年度募集の 288 人から平成 27 年度募集では 328 人となっている。その間若干の増減はあるものの、毎年 300 人前後の来場者となっており、同コースの学びへの高校生の興味関心が一定程度安定していることが分かる（資料 19 参照）。

次に、現総合生活学科の入学者に対するアンケートの分析を元に、本学と競合校の状況から本学の強みを明らかにし、定員充足の根拠を示す。

本学では、毎年、新入生（コース毎に調査を実施）に対しアンケートを実施している。その中に、本学及び他校のオープンキャンパスへの参加状況や、他校への受験状況を尋ねる項目を設定している。平成 26 年度の総合生活学科の栄養コースの新入生に対するアンケートの回答状況は資料 8-1～8-3 のとおりである。資料 8-1 をみると、アンケートに回答した栄養コースの新入生の 89.0%が 1 回以上本学のオープンキャンパスに参加していると回答しており、オープンキャンパスが、受験生が志望校を決定するにあたり重要な判断要素となっていることが分かる。また、同新入生の 67.0%が他の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加したと回答しているが、実際に受験したと回答したのは、9.2%に留まっている。すなわち、新入生の 7 割弱は、他校のオープンキャンパスに参加し、進学先として本学と他校とを比較したうえで、本学を選択しているということである。これらの数字は、栄養コースの教育内容や環境等に十分魅力を感じて選択していることを表しており、教育に対する評価、人気の表れと理解できる。

同アンケートにおいては、具体的にどこの大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加しているかを尋ねている。それらの回答のうち、短期大学に限定した場合、回答を得た新入生のオープンキャンパス参加校や参加件数の状況は資料 8-2 のとおりである。また同新入生の本学への入学理由については資料 8-3 のとおりとなっている。同アンケートの調査結果に基づき、競合校等の分析を以下に示す。

栄養学科の競合短期大学は資料 8-2 より、大阪夕陽丘学園短期大学、大阪女子短期大学、神戸女子短期大学、京都文教短期大学であるといえる。各短期大学の募集状況は資料 23 のとおりである。なお大阪女子短期大学については、生活科学科に栄養士コースと製菓コースが混在しているため、この表からは除外している。平成 26 年度の各短期大学の入学定員充足率は 0.86 倍から 1.07 倍となっており、3 ヶ年の平均で見ると、すべての短期大学で入学定員を充足しており、安定した募集状況である。こうした競合校に対し、栄養コース新入生のうち、これら競合する学びを含む他の短期大学への受験者は 6 名のみであり、栄養学科の募集においても安定して学生を確保できると考えられる。また、栄養コースにおける先の新入生アンケートにおいて、「就職実績、内容」「資格、免許取得に有利」という理由で入学を決めたという回答が多かった（資料 8-3 参照）。これに対して、特に、本学の栄養士決定者率（栄養士希望者が実際に栄養士として就職した割合）は資料 24 のとおりである。平成 25 年度卒業生における栄養士決定者率は 95.5%、平成 26 年度卒業生においては、栄養士決定者率 100%を達成している。今回設置する栄養学科においても、栄養士や栄養教

論の資格取得のサポートを充実させるため、学生確保につながると考えている。

さらに、本学には、併設の大阪成蹊女子高校から内部進学者が入学している。平成 27 年度入学予定者を含めた平成 23 年度以降の実績は資料 21 のとおりである。平成 23 年度 0 人、平成 24 年度 8 人、平成 25 年度 4 人、平成 26 年度 14 人、平成 27 年度は 13 人となる見込みであり、平成 26 年度、27 年度は 10 人を超えている。これは、後述するが、併設高校から本学への内部進学を強化する学園方針に基づく施策の実施によるものであり、今後ともこの施策を継続するため、本学科への併設高校からの内部進学者は、平成 28 年度入学生募集以降も一定数見込めるものとする。

また、栄養学科の入学定員を 120 人と設定するにあたって、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した。アンケート結果は以下のとおりである（資料 7 参照）。

アンケートの実施にあたっては、調査を依頼する高校を次の条件で抽出した。

- ①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校
- ②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校
- ③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校

①については、各校のホームページ及び高校生向けの受験情報誌により対象校を抽出した。②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪府北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。本調査は①から③までの全ての条件を満たした高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）で実施した。実施にあたっては、本学の入試広報部の職員が各校の進路指導部等に訪問し、調査の趣旨等を説明の上、協力をお願いし、承諾を得た高校には、後日アンケート用紙を必要部数送付或いは持参し、各校において実施いただいた。回収は、郵送或いは入試広報部員が訪問し行った。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。また、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置を構想している生活デザイン学科、調理・製菓学科及び収容定員増を構想している幼児教育学科を含めた 4 学科について、同一のアンケート用紙を用いて一括で実施した。

アンケート調査は、全 3 問を設定し、問 1 で性別、問 2 で進学希望、問 3 で居住地を問い、それぞれ○印で選択する方式とした。調査の結果、問 2 の「以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか」において栄養学科に○印を付した高校生が併設高校の 35 人を含めて 272 人であった。入学定員の 120 人に対し、2.27 倍となる回答を得ており、定員を充足できる根拠となる調査結果であった。

以上のとおり、「生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科に共通の定員充足の根拠

となる調査結果の概要」に示した従来の総合生活学科の募集状況、全国の同系統の学科の動向、規模別による動向等データ及び、栄養学科の基となる栄養コースへの希望者の推移、オープンキャンパスへの参加者数の推移、新入生アンケートの分析、併設高校からの内部進学者数の推移、平成 28 年度募集対象の高校生への進学希望アンケート調査の結果等データにより、新設する栄養学科の入学者を、長期的に安定して確保できると考える。

幼児教育学科

幼児教育学科の募集状況は資料 9 のとおりである。平成 24 年度に定員増を行ったが、その間、志願者数は、平成 23 年度の 255 人から毎年増加して平成 27 年度には 420 人となる見込みであり、受験者数においても平成 23 年度の 254 人から毎年増加して平成 27 年度には 410 人となる見込みである。このように着実に志願者及び受験者を増やしてきた。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスでのアンケート調査からも、幼児教育学科への関心が年々高まっていることがわかる。本学のオープンキャンパスに幼児教育学科を目的として参加する生徒数は年々増加してきており、平成 23 年度募集では 745 人であったのが、平成 27 年度募集では 977 人となっている（資料 19 参照）。幼稚園教諭、保育士をめざす高校生の本学科に対する注目度、人気が高まっていることがわかると同時に本学科の志願者増を裏付けるデータでもある。加えて、本学科へは併設の大阪成蹊女子高校から毎年多数の内部進学者が入学している。平成 27 年度入学予定者を含めた平成 23 年度以降の実績は資料 11 のとおり 5 年間で倍増し、本学科の入学者のうち併設高校からの内部進学者が占める比率は、平成 27 年度では 35.8%（入学定員割合）となる。

併設高校以外の近隣地域を中心とする高校からは、平成 26 年度の学生募集において、指定校枠の新規依頼や追加の要望が 19 件寄せられたが、その内の 10 件については、要望に応えることが出来なかった（資料 10 参照）。そして平成 27 年度募集においては、指定校枠の新規依頼や追加の要望は一切受付からお断りしている状況にある。

さらに、過去 5 ヶ年の入試区分ごとの入学者の推移において、指定校推薦入試、併設高校入試の入学者の割合が年々増加し、平成 26 年度及び 27 年度（見込）においては 60%を超える割合となり、その他一般入試の入学者数が減少せざるを得ない状況になってきている（資料 12-1 参照）。すなわち平成 23,24 年度においては、指定校推薦入試、併設高校入試の入学者が 60%を超えていたが、平成 25 年度の入学定員増により、若干抑えることができた。しかし、平成 26 年度及び 27 年度（見込）において再び指定校推薦入試、併設高校入試の入学者が 60%を上回る状況となり、その他一般入試入学者が減少することとなる。その結果、残る定員に対するその他一般入試の志願倍率は、平成 23 年度 3.1 倍、24 年度 2.2 倍、25 年度 2.0 倍、26 年度 3.3 倍、27 年度 3.2 倍と推移し、近年高い倍率となり、合格が難しい学科となっている（資料 12-2 参照）。

今回の定員増によって、指定校推薦入試、併設高校入試及びその他一般入試で本学科を

希望する多くの高校及び高校生の本学科へのこうした進路希望に応えることができると考える。

次に、本学の地元である大阪府の 18 歳人口の今後の推移は資料 14-1 の通りである。本学科の平成 26 年度入試の志願倍率は、1.72 倍である。一方、平成 26 年度入試対象 18 歳人口は、83,085 人、平成 37 年度入試対象 18 歳人口は 72,882 人となり、対 26 年度比は 87.7%となる。本学のこの 1.72 倍の志願倍率に対 26 年度比の 87.7%を単に乘じると平成 37 年度入試の志願倍率は 1.51 倍となり、前述の今後も予想される志願倍率の伸びを考慮すれば志願倍率に大きな差異はなく、長期的に安定して志願者があると考え（資料 14-2 参照）。

また、全国の同系統学科の状況について、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、全国の短期大学教育系学科の定員充足率及び志願倍率は平成 23 年度以降横ばいで安定している。定員充足率は平成 23 年度 99.7%、以降 99.0%、101.7%、99.5%であり、志願倍率は平成 23 年度 1.49 倍、以降 1.47 倍、1.54 倍、1.48 倍で推移しており、短期大学教育系学科の人気の高さと定員確保ができていることがわかる（資料 25 参照）。なお、前述の平成 37 年度の志願倍率の 1.51 倍は、全国の教育系学科の平成 23 年度以降では平成 25 年度を除き志願倍率が高く、したがって、長期的に安定して定員確保ができる根拠となる数値である。さらに、同事業団のデータで本学が位置すると思われる「規模別の動向」（入学定員 500 人以上）の過去 5 ヶ年の志願倍率及び入学定員充足率を見てみると、平成 22 年度 2.08 倍／102.41%、23 年度 2.03 倍／98.96%、24 年度 2.04 倍／95.97%、25 年度 2.08 倍／100.61%、26 年度 2.24 倍／100.74%と志願倍率は安定して 2 倍を上回っている（資料 18 参照）。また、入学定員充足率は、資料 18 のとおり平成 23 年度、24 年度は 100%を若干下回ったが、平成 25 年度から 100%台へと回復しており、募集が安定していることが見て取れる。高校生の進路決定には、短大の入学定員規模が大きな判断要素となっていることが資料 18 の直近の 5 ヶ年のデータにより明らかであり、入学定員が 500 人を超える本学は、今後もこの傾向が続くものと考えられ、学生確保の根拠となるデータである。

次に、本学の競合校の状況を確認する。資料 26 が幼稚園教諭免許・保育士資格取得をめざす学科を持つ、本学の近隣等の競合する短期大学等一覧である。本学は、大阪市の北部に位置しており、幼稚園教諭免許・保育士資格取得をめざす学科を持つ近隣の短期大学といえば、箕面市の大阪青山大学短期大学部、守口市の大阪国際大学短期大学部、高槻市の平安女学院大学短期大学部の 3 校である。また常盤会短期大学は、大阪市の南部に位置しており、地理的には近隣とは言えないが、本学への通学に利用する阪急電鉄が大阪市営地下鉄と相互乗り入れしておりアクセスが容易であることから加えたものである。また、これら 4 校は、本学科の平成 26 年度入学生へのアンケート調査において、「受験年度に本学以外のオープンキャンパスに参加したかどうか」、「それはどこの短期大学か」を問う質問に対して、参加

した短期大学の上位3校が近隣の上記3短期大学であり、4位が常盤会短期大学であった(資料27参照)。したがって、この4校を本学科の競合校としている。

本学に近隣の3短期大学及び常盤会短期大学を含めた5短期大学全体では入学定員充足率が100.2%となっており、前述の全国の同系統学科の状況(資料25参照)と同程度の状況にある(資料28参照)。それぞれの短期大学においても、平成26年度募集において入学定員充足率は86.0%から109.7%となっており、ほぼ入学定員を充足している。

また大阪府内には、幼稚園教員、保育士養成を行う短期大学が18校あり、前述の4校及び本学を除いた残りの13校は、大阪府の南部或いは、東部に位置している(資料26、29参照)。「大阪府/平成26年度大阪の学校統計」によれば、本学科の位置する大阪市東淀川区と隣接する吹田市、豊中市、摂津市等及び阪急電鉄の同一沿線上での利便性の良さを考慮して箕面市、茨木市、守口市、高槻市等及び大阪市の半数(大阪市については、本学及び常盤会短期大学が大阪市内の入学定員1,130人のうち約半数の540人を占めていることから、大阪市の高校在籍者数の半数を対象高校生数とした。)を含めた高校生数は、92,493人となり、大阪府全体の高校生数236,529人の約40%を占める(資料30参照)。つまり本学科は、受験対象の短期大学が少ない地域に立地するにもかかわらず逆に対象高校生数の多い環境の中で募集が行えることが分かる。なお前述の競合校の中の1校は、平成27年度から幼児教育・保育科を学生募集停止し、4年制大学化するため、本学科の競合先がさらに1校減る状況である。

また、本学では毎年入学生に対し、種々のアンケート調査を実施している。前述の資料27及び資料31,32は、平成26年度の本学科の入学生に対して行ったオープンキャンパスに関するアンケート調査の結果である。アンケートに回答した新入生の92.8%が1回以上本学のオープンキャンパスに参加していると回答しており、オープンキャンパスが、受験生が志望校を決定するにあたり重要な判断要素となっていることが分かる(資料31参照)。また、同新入生の64.5%が他の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加したと回答しているが(資料32参照)、実際に受験したと回答した学生は4.4%に留まっている(資料33参照)。すなわち、新入生の約6割は、他校のオープンキャンパスに参加し、進学先として本学と他校とを比較したうえで、本学を選択しているということである。これらの数字は、幼児教育学科の教育内容や環境等に十分魅力を感じて選択していることを表しており、教育に対する評価、人気の表れと理解できる。

なお、受験産業のベネッセコーポレーションによるこれらの短期大学の平成26年6月実施の模擬試験をベースとした偏差値では、資料34のとおり、いずれの短期大学もほとんど差はなく、偏差値と募集状況には明確な因果関係はないとみられる。

以上のことから、本学科は、受験対象高校生数が多く、競合他校が少ない北大阪に位置し、交通の利便性も大阪市最大のターミナルである大阪駅・梅田駅から乗換えなしの1本

でアクセスできる、また最寄り駅の阪急電鉄相川駅からバス等を利用することもなく、徒歩 3 分の駅近くに所在する等、学びの特色、長年の教員養成の実績以外にも高校生に訴えることができる強みを持っており、多くの志願者、入学者に支持されていると考える。なお、上記の近隣競合校の交通の利便性を大阪駅・梅田駅からみると、他のどの短期大学も直行便がなく大阪駅・梅田駅から乗換えやバス利用が必要である。

また、幼児教育学科の入学定員を 240 人から 300 人に変更するにあたって、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した。アンケート結果は以下のとおりである（資料 13 参照）。

アンケートの実施にあたっては、調査を依頼する高校を次の条件で抽出した。

- ①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校
- ②過去 5 ヶ年で本学への志願実績のある高校
- ③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校

①については、各校のホームページ及び高校生向けの受験情報誌により対象校を抽出した。②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪府北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。本調査は①から③までの全ての条件を満たした高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）で実施した。実施にあたっては、本学の入試広報部の職員が各校の進路指導部等に訪問し、調査の趣旨等を説明の上、協力をお願いし、承諾を得た高校には、後日アンケート用紙を必要部数送付或いは持参し、各校において実施いただいた。回収は、郵送或いは入試広報部員が訪問し行った。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス）、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。また、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置を構想している生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科を含めた 4 学科について、同一のアンケート用紙を用いて一括で実施した。

アンケート調査は、全 3 問を設定し、問 1 で性別、問 2 で進学希望、問 3 で居住地を問い、それぞれ○印で選択する方法とした。調査の結果、問 2 の「以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。」において幼児教育学科に○印を付した高校生が併設高校の 114 人を含めて 916 人であった。入学定員の 300 人に対し、3.05 倍となる回答を得ており、定員を充足できる根拠となる調査結果であった。

以上示したとおり、本学科の募集状況やオープンキャンパスへの参加者数の推移、併設高校からの内部進学者数の推移、指定校依頼の状況、入試区分ごとの入学者の推移及び、大阪府の人口動態による将来の本学科の志願倍率の見込み、全国と同系統の学科の動向、規模別による動向等データ、新入生アンケートや競合校の状況、平成 28 年度募集対象となる高校生への進学希望アンケート調査の結果等データにより、本学科は長期的に安定し

て入学定員の 300 人を確保できると考える。

グローバルコミュニケーション学科

グローバルコミュニケーション学科の直近 5 カ年の募集状況は、資料 15 の通りである。志願者数は、若干の上下を繰り返し、ほぼ 40 人台であると言える。入学者数については、平成 26 年度は 47 人と入学定員に近い実績であるが、その他の年度では 30 人台で推移している。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」（平成 22 年度版～26 年度版）のデータによると「学科系統別の動向」（人文系）の過去 5 カ年の志願倍率及び入学定員充足率は、平成 22 年度 1.78 倍／92.22%、23 年度 1.55 倍／82.91%、24 年度 1.35 倍／77.70%、25 年度 1.51 倍／85.20%、26 年度 1.63 倍／87.93%であり、志願倍率はほぼ 1.5 倍前後を上下し、入学定員充足率は 92%から徐々に下げたが平成 25 年度より再び上昇している。（資料 35 参照）。それに対し、本学科の募集状況においては、全国の学科系統別の動向と同様に、志願倍率は平成 26 年度に一旦上昇したが、平成 27 年度は平成 26 年度を下回る見込みである。しかし、直近の 5 カ年においては、志願者の平均は 43 人であり、入学者数は 30 人以上が確実に入学している。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスにおいて、グローバルコミュニケーション学科を目的として参加する生徒数は資料 19 のとおりである。同学科への参加者は平成 23 年度募集の 82 人から平成 27 年度募集では 148 人となっている。平成 25 年度に一度 100 人を下回ったが、平成 26 年度からは 100 人を超えた来場者を得ており、高校生の興味、関心を根強くひきつけている（資料 19 参照）。

以上のとおり、本学科の志願者数の推移、入学者数の推移、全国の同学科系統別の動向及び本学のオープンキャンパスの来場者数の推移等から勘案し入学定員を 30 人とする。この入学定員対し直近 5 カ年の志願者数の平均である 43 人で志願倍率を算出すると 1.43 倍となり、より確実に入学定員を確保できると考える。

経営会計学科

経営会計学科の直近 5 カ年の募集状況は、資料 16 の通りである。志願者数は、50 人台から 70 人台の間で上下している。入学者数についても 40 人台から 60 人台で推移している。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」（平成 22 年度版～26 年度版）のデータによると「学科系統別の動向」（社会系）の過去 5 カ年の志願倍率及び入学定員充足率は、平成 22 年度 1.30 倍／92.85%、23 年度 1.19 倍／84.13%、24 年度 1.14 倍／79.39%、25 年度 1.22 倍／85.08%、26 年度 1.16 倍／80.61%と志願倍率は

ほぼ 1.1 倍台であり、入学定員充足率は 92%から徐々に下げ平成 25 年度に一度若干上向いたが、平成 26 年度には再び下降した。(資料 36 参照)。それに対し、本学科の募集状況において、志願倍率は平成 23 年度から下降し平成 26 年度に一旦上昇したものの、平成 27 年度は再び下降する見込みである。直近の 5 ヶ年においては、志願者は 50 人台から 70 人台で推移しており、入学者数も 40 人台から 60 人台で推移している。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスにおいて、経営会計学科を目的として参加する生徒数は資料 19 のとおりである。同学科への参加者は平成 24 年度募集では 98 人と 100 人を下回ったが、その後は 100 人以上を保っており、高校生の興味、関心を根強くひきつけている(資料 19 参照)。

以上のとおり、本学科の志願者数の推移、入学者数の推移、全国の同学科系統別の動向及び本学のオープンキャンパスの来場者数の推移等から勘案し入学定員を 50 人とする。この入学定員を直近 5 ヶ年の志願者数の平均である 61 人で志願倍率を算出すると 1.22 倍となり、平成 26 年度の入学定員を充足した年度と同数値であり、より確実に入学定員を確保できると考える。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学園では平成 22 年度から新理事長が就任し、経営陣を刷新するとともに、学園の諸改革に着手した。特に、学生募集については、組織の整備(募集本部、入試企画部、入試広報部、入試事務部、広報部の設置)、陣容強化(担当理事制、本部長職、2 部長制の導入)、募集要員の増員、教職協働組織の立上げ(理事長、学長をはじめ、教職員幹部が全員参加する募集強化対策会議を月一回の定例開催)等募集業務全般の見直しを行った。その結果として、本学及び併設大学の入学者数は資料 37-1 のとおり、平成 23 年度の 1,129 人から平成 27 年度は 1,456 人(見込)となり、本学及び併設大学とも入学定員を充足する見込みである。なお、本学では資料 37-2 のとおり、平成 23 年度の 602 人から平成 27 年度は 676 人の入学者数となる見込みである。また、併設高校から本学科への内部進学強化を重点課題として取上げ、高大連携の一層の促進、教員の交流の促進等取り組んでいる。その成果として内部進学者数が平成 23 年度の 46 人から平成 27 年度は 169 人まで増加したことも、短期大学の学生募集に大いに貢献している(資料 38 参照)。

上記は、以下の学生確保に向けた各取組の成果であると考えている。

① 高校訪問

前述の通り、組織の整備や担当役員の配置及び募集要員の増員等さらに教職協働組織の立上げ等により、近隣高校への募集訪問を強化した。訪問高校数や訪問回数を増やし、教員と職員が同道する回数を増やすことで学科等の説明をより詳細に行い、本学への理解を深めている。

② オープンキャンパス

本学では、3月から12月まで合計12回のオープンキャンパスを実施して、高校生の本学への理解を深めている。毎回各学科等ごとに工夫をこらし模擬授業等様々なイベントを実施している。また、大学の施設設備等を知る機会としてキャンパスツアーを実施したり、入試対策講座を実施したり、多様な受験機会を活用できるように入試説明会を開催している。

③ 進学相談会

3月から翌年2月にかけて実施される広告代理店等の企画する会場での進学相談会に平成27年度募集では183会場に参加した。大阪、京都、兵庫を中心に奈良、和歌山或いは中国・四国地方等近畿圏以外の入学実績のある地域にも参加をして受験生獲得を目指している。

④ 各高校内入試説明会

高校内で開催される入試説明会へも積極的に参加している。高校から本学へ直接要望があるケースと広告代理店が企画するものがあり、平成27年度募集では200校以上に参加している。

⑤ 高校教員対象入試説明会

高校の進路指導担当教員を本学に招き、入試全般の説明や学校見学会を実施し、本学への理解を深めていただき、高校生への指導の一助となる機会を設けている。

⑥ インターネット等広報ツール

地域を選ばず、不特定多数への広報が可能なインターネットは、最近では特に重要な広報ツールとなっている。本学においても広報部を設置して、担当の職員によるきめ細かな管理を行い、高校生や保護者、高校教員等にタイムリーな情報等の発信に務めている。

また、本学の学びや特色等をより説明するためのツールとして大学案内を作成し、高校進路部への送付やオープンキャンパス、進学相談会等において高校生に手渡すなどしている。さらに、受験産業が発行する受験情報誌も積極的に活用し、受験者獲得を図っている。

⑦ マスメディアの広報

本学では、平成25年より、4月から11月にかけてテレビを活用した広報を実施している。また、朝日新聞、読売新聞等全国紙を活用した広報も毎年行っている。

⑧ 併設高校生及び教員対象説明会

併設校の生徒及び教員の本学への理解を深めるため、それぞれ説明会を実施している。特に、生徒に対しては、ミニオープンキャンパスの形態で、模擬授業等を行い、本学への進学意欲向上へとつなげている。

以上の通り、様々な機会や媒体を活用して高校生、保護者、高校教員等の本学への理解を深める取り組みを行っており、次年度以降も方針に変更はなく一層精力的に広報活動等の学生確保に向けた具体的取り組みを展開する予定である。

2 人材需要の動向等社会の要請

生活デザイン学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 社会的な人材需要の動向

矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果 2014」によれば、2013 年の国内アパレル総小売市場規模は前年比 101.4%の 9 兆 2925 億円であった（資料 39 参照）。品目別でみても、紳士服、婦人服、ベビー・子ども服のいずれも前年を上回っている。こうした市場規模の拡大に対して、特に販売職の人材不足が課題となっている。発行部数 20 万部のファッションビジネス専門誌「織研」の電子版 2014 年 9 月 5 日の記事「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」によれば、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えており、昨今ファッションビジネスにおける就職セミナーの開催や参加企業が増えている（資料 40 参照）。このようなアパレル・ファッション業界における動向をみるに、本学科の人材養成の目的である生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応えるものである。

イ 地域的な人材需要の動向

地域的な人材需要の動向を明らかにするものとして、企業への採用意向調査（アンケート）を平成 27 年 1 月 26 日から 2 月 27 日の間で実施した（資料 41 参照）。

このアンケートは、本学就職部の職員がアンケート用紙を持参し、アパレル・ファッション業界企業の人事担当者に本学に新設する学科の概略を記した案内をもとに育成する人材像等を含めた、学科設置の趣旨の説明を行ったうえで実施したものである。調査対象として、本学の現総合生活学科での採用実績企業を中心に、アパレル・ファッション業界及びその周辺企業 29 社を抽出した。

アンケートでは、「Q 1. 大阪成蹊短期大学生生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？（あてはまるもの 1 つに○を、1.を選択する場合には予定人数をご記入ください）」との設問に合計 27 社から採用したいとの回答を得、予定採用人数は 83 人であった。入学定員 50 人に対し、1.66 倍の採用人数の回答を得た。

こうした地域的な人材需要の状況は、生活デザインコースの就職内容に反映されている。過去 3 ヶ年の生活デザインコースの就職率は資料 42 のとおりであり、平成 24 年度 96.7%、

平成 25 年度 96.9%、平成 26 年度 100%となっており、地域からの人材需要の高さを表している。

本学科の人材養成の目的である生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり地域の要請にも応えるものである。

調理・製菓学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 社会的な人材需要の動向

公益財団法人食の安心・安全財団附属機関外食産業総合調査研究センター「外食産業市場規模（平成 23 年（2011）～平成 25 年（2013））」によると、外食産業市場規模は、平成 23 年が 22 兆 8282 億円、平成 24 年が 23 兆 2314 億円、平成 25 年には 23 兆 9046 億円と年々拡大してきている（資料 43 参照）。

こうした市場規模の拡大に加え、昨今食の安全や食育の推進への関心が高まっている。厚生労働省調理師の養成のあり方等に関する検討会報告書は、「厚生労働省が平成 25 年度より開始する健康日本 21（第 2 次）において、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指し、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底を図ることとしている。そのためには、食生活の改善を図ることが重要であり、関連する具体的な目標が設定されており、良質な食事を通じた健康づくりの推進に、調理師の活躍が期待されている」と報告している。さらに、「近年、大規模な食中毒の発症や食中毒による死亡事例など、食の安全を揺るがす事案が後を絶たない状況にある。このため。飲食店や病院、学校など各種施設で調理業務に携わる調理師が、安全で安心な料理の提供を行う意義は、極めて大きい」とも報告しており、調理師に対する社会の期待が増大している。

また、昨今海外のスイーツやお菓子のコンテスト等で日本人パティシエが活躍している。国内市場に目を転ずると、矢野経済研究所「和洋菓子・デザート類市場に関する調査結果 2013,2014」によれば、近年の和洋菓子・デザート類市場規模は非常に安定している（資料 44 参照）。特に平成 23 年度から平成 25 年度にかけて市場規模が拡大しており、平成 25 年度は 2 兆 1425 億円の市場規模となっている。

一方、日本政府観光局（JNTO）の「訪日外客訪問地調査（2010）」によれば、外国人観光客が「訪日前に期待すること」は 2 年連続で「食事」が 6 割前後を占め 1 位であった（資料 45 参照）。観光立国推進基本計画等の取組により外国人観光客の増大が図られているが、急増する外国人観光客への対応としてホスピタリティを持って食をコーディネートできる

人材が一層求められており、これら人材育成の社会的要請が増すものと考えられる。

以上より、日本における食文化の発展や国際化を背景に、調理、製菓、フードコーディネーターに従事するフードサービス業界における人材需要は今後も一層高まってくると言える。食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成するという本学科の人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応えるものである。

イ 地域的な人材需要の動向

地域的な人材需要の動向を明らかにするものとして、フードサービス業界の企業・関係機関等への採用意向調査（アンケート）を平成 27 年 1 月 26 日から 2 月 27 日の間で実施した（資料 46 参照）。

このアンケートは、本学就職部の職員がアンケート用紙を持参し、フードサービス業界の企業等の人事担当者に本学に新設する学科の概略を記した案内をもとに育成する人材像等を含めた、学科設置の趣旨の説明を行ったうえで実施したものである。調査対象として、本学の現総合生活学科での採用実績企業を中心に、フードサービスに係る企業 59 社を抽出した。

アンケートでは、「Q 1. 大阪成蹊短期大学調理・製菓学科の卒業生を採用する可能性はありますか？（あてはまるもの 1 つに○を、1. を選択する場合には予定人数をご記入ください）」との設問に合計 52 社から採用したいとの回答を得、予定採用数は 196 人であった。入学定員 120 人に対し、1.63 倍の採用人数の回答を得た。

こうした地域的な人材需要の状況は、食物コースの就職内容に反映されている。過去 3 ヶ年の食物コースの就職率は資料 42 のとおりであり、平成 24 年度 96.6%、平成 25 年度 96.9%、平成 26 年度 100%となっており、地域からの人材需要の高さを表している。

本学科の人材養成の目的である食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり地域の要請にも応えるものである。

栄養学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 社会的な人材需要の動向

医療福祉の水準向上や健康志向の高まりなどにより、我が国における平均寿命と健康寿命は年々延び続けている。厚生労働省が公表した平成 13 年、16 年、19 年、22 年、25 年

の男女別の平均寿命及び健康寿命は資料 47 のとおりであり、世界有数の長寿国となっている。こうした平均寿命及び健康寿命の延びに対し、厚生労働省による「平成 26 年版 厚生労働白書—健康長寿社会の実現に向けて—健康・予防元年—」では、平均寿命と健康寿命の差が問題視されている。すなわち、これまでのように平均寿命の延伸に伴い、健康寿命との差が拡大すれば、医療費や介護給付費の負担の増大が予想されるということである。内閣府「平成 26 年版 高齢社会白書」では、平成 25 年 10 月 1 日現在の 65 歳以上の高齢者人口は過去最高の 3190 万人、総人口に占める割合も 25.1%となっており、今後も急速に高齢者人口及び割合が増えていくことが予想されている。このような社会の情勢のなか、平成 25 年度から平成 34 年度までの国民健康づくり運動を推進するため、健康増進法に基づく「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」を改正する「健康日本 21（第二次）」が策定された。栄養、食生活に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善が謳われ、「次世代の健康」として子どもへの食育、栄養指導の重要性が指摘されている。

以上より、栄養という領域から健康を支えることのできる人材に対する社会的な人材需要は今後も高まっていくことが予想され、栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成するという本学科の人材育成の目的はこうした社会の要請に応えるものである。

イ 地域的な人材需要の動向

地域的な人材需要の動向を明らかにするものとして、栄養に関する企業・関係機関等への採用意向調査（アンケート）を平成 27 年 1 月 26 日から 2 月 27 日の間で実施した（資料 48 参照）。

このアンケートは、本学就職部の職員がアンケート用紙を持参し、栄養に関する企業の人事担当者に新設する学科の概略を記した案内をもとに育成する人材像等を含めた、学科設置の趣旨の説明を行ったうえで実施したものである。調査対象として、本学の現総合生活学科での採用実績企業を中心に、栄養士の資格を活用できるなど食関連の企業 44 社を抽出した。

アンケートでは、「Q 1. 大阪成蹊短期大学栄養学科の卒業生を採用する可能性はありますか？（あてはまるもの 1 つに○を、1. を選択する場合には予定人数をご記入ください）」との設問に合計 42 社から採用したいとの回答を得、予定採用数は 191 人であった。入学定員 120 人に対し、1.59 倍の採用人数の回答を得た。

こうした地域的な人材需要の状況は、栄養コースの就職内容に反映されている。過去 3 ヶ年の栄養コースの就職率は資料 42 のとおりであり、平成 24 年度 98.5%、平成 25 年 98.9%、平成 26 年度 100%となっており、地域からの人材需要の高さを表している。

本学科の人材養成の目的である栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり地域の要請にも応えるものである。

幼児教育学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 社会的な人材需要の根拠

厚生労働省による委託調査「保育士の需給状況等に関する調査研究報告書 平成 21 年度」によれば、平成 29 年度末には、全国の保育所で保育士が約 7 万 4 千人不足する見込みである。また厚生労働省「保育士関連状況取りまとめ（平成 26 年 4 月 1 日）」によると、平成 26 年 4 月 1 日時点での全国の待機児童数は約 2 万 1 千人であり、依然として待機児童解消に向けた保育士需要は高まっている。

こうした状況への政府の対応をみると、平成 25 年度より、2 年後の「子ども・子育て支援新制度」の施行を待たずに、待機児童の解消に向け「待機児童解消加速化プラン」を講じている。これは平成 25・26 年度を「緊急集中取組期間」として約 20 万人分の保育を集中的に整備することをめざし、平成 27～29 年度を「取組加速期間」として更に整備を進め、潜在的なニーズを含め、両期間で約 40 万人分の保育の受け皿を確保することをめざすものである。このように保育を支える保育士の育成が喫緊の課題となっている（資料 49 参照）。

さらに、平成 26 年 8 月に発表された厚生労働省「保育人材確保のための『魅力ある職場づくり』に向けて」によると、保育士の有効求人倍率は 1 月頃にピークを迎えるが、平成 26 年度 1 月では全国平均で 1.74 倍であり、9 割超の都道府県において、有効求人倍率が 1 倍を超えていることから、人手不足の現状が明らかとなっている（資料 50 参照）。

また近年認定子ども園の数は、平成 19 年から平成 26 年にかけて公立が 23 園から 252 園、私立が 71 園から 1,107 園と急増している（厚生労働省幼保連携推進室「認定子ども園の平成 26 年 4 月 1 日現在の認定件数について」、及び各平成 21 年～25 年度同発表資料）（資料 51 参照）。さらに今後は認可手続きがより容易になった新たな「幼保連携型認定子ども園」の普及の方向に向かうと考えられる。この「幼保連携型認定子ども園」は「幼稚園教諭免許状」と「保育士資格」の両方の免許・資格を有することが原則とされ、またその他の認定子ども園においても、両免許・資格を有することが望ましいとされている。近年幼稚園教諭免許状取得者による保育士資格取得、または保育士資格取得者による幼稚園教諭免許状取得を促す支援策も実施されている。本学科では、幼稚園教諭免許及び保育士資格の両方の取得が可能なカリキュラムとしており、毎年ほとんどの学生が両方の免許・資格を有して卒業しており、社会の要請に込えている。

一方、平成 25 年度の文部科学省「学校教員統計調査」によると、幼稚園教員の平均勤務年数の短さが特徴的である。小学校、中学校、高等学校の教員の平均勤務年数が約 18 年か

ら 19 年であるのに対し、幼稚園の教員の平均勤務年数は約 10 年である（資料 52 参照）。離職の理由についてみると資料 53 のとおりであり、定年まで勤務する教員は全体の 6.3% と、他と比べて大きな差がある。平成 25 年度文部科学省統計要覧によれば、平成 24 年度の全国の幼稚園教員数 110,836 人に対し離職者数は 11,710 人（10.5%）であり、平成 22 年度の同様の調査では平成 21 年度の幼稚園教員数 110,692 人に対し離職者数は 11,401 人（10.3%）となっており、どちらも全体の 10%超が離職している。したがって、幼稚園教員の採用需要は一定程度保持されていくことがわかる。

また、保育の現場でも、保育士不足が深刻な課題として位置づけられている。平成 26 年 3 月の日本保育士協会調査研究部「保育士不足が保育現場に与える影響についての調査報告書」によると、全国の日本保育士協会会員園 1,721 園に対するアンケート結果では、「保育士を確保する上で、困りごとがある」の回答が 83.7%を占め、そのうちの 69.6%の園で、困っていることは「求人を出しても応募がない」と答え、保育士のなり手がいない現状が明らかにされている（資料 54-1,54-2 参照）。またベネッセ教育総合研究所「第 2 回 幼児教育・保育についての基本調査 報告書〔2012 年〕」によると、「Q. 貴園の保育実践上、運営上の課題のうち、もっとも重要な課題 1 つを選択してください」というアンケート上の設問に対し、22 項目のうち「保育者の確保」が、全体及びいずれの区分の園においても 5 位以内に現れている（資料 55 参照）。

同設問に対する回答からは、保育者の確保という量的側面だけでなく、質的な課題も読み取られる。私立幼稚園を除く 4 つの施設（国公立幼稚園、公営保育所、私営保育所、認定子ども園）で「保育者の資質の維持、向上」が 1 位であった。私立幼稚園においても、1 位「新たな園児の獲得」と僅差の 2 位であった。また同調査において、「貴園の保育者の資質が向上するために必要だと思うこと」に関する設問があったが、集計結果では全体 2 位に「養成課程の教育内容の充実」、6 位に「養成課程における実習指導の充実」が現れている（資料 56 参照）。園の区分別に見ると「養成課程の教育内容の充実」がいずれの施設形態においても上位 3 つ以内に現れている（資料 57 参照）。

以上のように、量的な課題に加え質的な課題として、保育者の資質の維持向上が認識されており、そのための方策として、養成課程段階での教育の充実が求められている。このような社会の動向をみるに、本学科の人材養成の目的である、幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応えるものである。

イ 地域的な人材需要の根拠

本学科へは、今回の申請に当たって以下 13 の各教育委員会等から、指定保育士養成施設、幼稚園教諭養成課程としての本学科に対する収容定員増の要望書が届いている（資料 58-1）。これら教育委員会等は本学科の立地（通学圏）をほぼカバーする地域に所在すると考えられる（58-2 参照）。本学の位置する大阪市からは、教育長名による文部科学大臣への副申書、

さらに、本学近隣及びアクセスの良い阪急沿線の吹田市、池田市、摂津市、茨木市、高槻市、島本町、豊能町、能勢町、箕面市、川西市、東大阪市の各教育委員会教育長及び豊中市長からは本学学長宛に指定保育士養成施設の入学定員増員及び幼稚園教諭養成課程の入学定員増員に対する要望書が届いている。これらの要望書は、本学の長年にわたる良質な保育者養成の伝統や駅近くに所在する利便性を背景とした近隣地域からの支持など地元における本学への評価の表れと考えている。

なお、地域における保育士及び幼稚園教諭の地域的な人材需要に関し、大阪労働局「人材不足分野における雇用管理改善及び非正規雇用労働者の正社員転換等の促進に係る啓発運動について～『魅力ある職場づくり』に向けた事業主団体への協力要請～」によると、近畿ブロックでの保育士の有効求人倍率は、年間の採用のピークである1月頃には1倍を超え、平成26年1月の求人倍率は1.87倍（全国平均：1.51倍）であり、全職業計を大きく上回る職種となっており人手不足が顕在化しているとされている（資料59参照）。一般職と比して求職者数が求人数に追いついていない現状にある。

また本学の所在地である大阪市では、厚生労働省委託調査である三菱UFJリサーチ&コンサルティング「保育士の需給状況等に関する調査研究報告書 平成21年度」によると、平成29年度末には、大阪市の保育所で保育士が1,360人程度不足することが見込まれている。また大阪市の公表する「大阪市における保育所の概況」によると、平成23年度から平成25年度にかけての、大阪市における保育所数及び保育士数の推移は資料60のとおりとなっており、直近3年間で保育所数が増えているにも関わらず、保育士数は減少している。厚生労働省「保育士関連状況取りまとめ（平成26年4月1日）」によれば平成26年4月1日現在で大阪市の待機児童数が224人おり、その対策としての保育所数の増加に伴い、大阪市における保育士に対する需要は更に高まってくると言える。

また同じく「大阪市における保育所の概況」によれば、平成25年度の保育士数は6,140人とされるが、大阪市子ども青少年局の「大阪市における要保育士数の推移」をみると、年度途中入所を含む要保育士数6,564人には足りておらず、平成29年度にかけて高まっていく需要に対して人材の供給が追いつかない状況である（資料61参照）。

さらに、大阪市こども・子育て支援会議での配布資料「行政区別教育・保育に関する量の見込み（案）」によれば、本学の所在地である東淀川区とその隣接区における教育・保育に関する量の見込みは資料62-1,62-2のとおり推計されている。平成27年から平成31年に総計で約520人増加する見込みであり、近隣地域での保育士需要も高まることが推察される。また、そのうち3～5歳の児童数の見込みは資料63-1,63-2のとおりであり、5区の総計は平成27年からの5年間で約180人増加することが見込まれている。大阪시는来年度以降、3～5歳の児童のうち48.6%が幼稚園の入園を希望すると見込んでおり、先の5区総計については資料63-3のとおり推移することが見込まれ、幼稚園入園児童数に伴い、幼稚園教諭の需要も安定して推移すると考えられる。

こうした地域的な幼児教育に関する人材需要の状況は、本学科の就職内容に反映されてい

る。本学科の就職率は平成 23 年度から 26 年度卒業生まで 4 年連続で 100%である。その内訳は、資料 64-1 のとおりであり、特に幼稚園教諭、保育士、もしくは児童養護施設の職員として就職した学生が就職内定者の 9 割を占めているように、毎年多くの教育者、保育者を輩出している。併せて、本学科への求人は資料 64-2 のとおりであり、平成 26 年度の求人数は、過去最多となった。保育士ニーズの高まりが目立つものの、幼稚園教諭に対する求人も増えていることがわかる。

本学科の人材養成の目的である幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材の育成は、上記のとおり地域の要請にも応えるものである。

グローバルコミュニケーション学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

言語表現、絵画、映像、身体パフォーマンスなどを学び、クリエイティブな発想力、コミュニケーション力、表現力を持った社会人としてグローバルに活躍できる人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 社会的な人材需要の動向

企業が求める人材に関し、(独)労働政策研究・研修機構の「構造変化の中での企業経営と人材のあり方に関する調査」(平成 25 年)によると、若年者の正社員採用にあたり重視する資質として、「仕事に対する熱意・意欲、向上心」(73.6%)、「積極性、チャレンジ精神、行動力」(62.0%)、「組織協調性(チームワークを尊重できる)」(52.5%)、「コミュニケーション能力」(51.7%)、「社会常識やマナー」(48.0%)、「規律性(ルールを守れる)」(45.4%)があげられている。1990 年代との比較では、「コミュニケーション能力」(14.3%ポイント増加)、「積極性、チャレンジ精神、行動力」(10.1%ポイント増加)、「仕事に対する熱意・意欲、向上心」(8.7%ポイント増加)の割合が大きく増加した。このように、熱意・意欲、積極性・行動力、協調性、コミュニケーション能力が重視され、その度合いは強まっている。また、(社)日本経済団体連合会の新卒採用(平成 25 年 4 月入社対象)に関する会員企業へのアンケート調査(平成 25 年 11 月実施)において、各企業が選考にあたって特に重視した点(5つ選択)によると、1 位がコミュニケーション能力(86.6%)、2 位が主体性(64.9%)、3 位がチャレンジ精神(54.8%)の結果であり、こちらでは、コミュニケーション能力が圧倒的に 1 位を占めている。

このような社会の動向をみるに、クリエイティブな発想力、コミュニケーション力、表現力を持った社会人としてグローバルに活躍できる人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応えるものである。

イ 地域的な人材需要の動向

本学科の就職内定率は、平成 24 年度卒業生 91.3%、平成 25 年度卒業生 92.6%となっている。なお、政府統計データによると、全国の平均は平成 24 年度卒業生 94.7%、平成 25 年度卒業生 94.2%となっており、全国の状態とほぼ同程度の結果である。直近 3 ヶ年の本学への企業からの求人状況は資料 65 のとおりであり、平成 26 年度の求人数は、過去最多となった。現定員 50 人に対し、平成 26 年度の求人件数は 1462 件であり、29 倍を超える求人倍率となっている。平成 26 年度卒業生の就職内定率は 100%を達成する見込であり、本学科の育成する人材に対する地域的な人材需要の高まりを示している。

経営会計学科

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな人材を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ア 社会的な人材需要の動向

平成 18 年 4 月「社会人基礎力に関する緊急調査」、平成 19 年 3 月「企業の『求める人材像』調査 2007～社会人基礎力との関係～」等、企業等社会からの要請の下、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、平成 17 年より「社会人基礎力」の重要性が提起され始めた。平成 25 年には、教育再生実行会議「これからの大学教育等の在り方について（平成 25 年 5 月 28 日）」において、社会において求められる人材が高度化・多様化する中「社会人基礎力」の育成が必要である旨が指摘されており、こうした能力を身につけた人材への需要は一層高まっていく。

この社会人基礎力とは、「基礎学力（読み、書き、算数、基本 IT スキル等）」及び「専門知識（仕事に必要な知識や資格等）」を「活かす力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」のことである。また、その基盤には「人間性、基本的な生活習慣（思いやり、公共心、倫理観、基礎的なマナー、身の回りのことを自分でしっかりとやる等）」がある。すなわち、基礎学力、専門知識、基盤となる人間力の修得の下、それらを活かす力が求められているのである。

本学科は、確かな基礎学力の修得、資格取得等を含め、経営や会計の知識を持ったビジネスパーソンに求められる専門知識の修得及び、ビジネス慣習やマナー、コミュニケーション能力等を修得の下、これらを活かす力を育成し、社会人基礎力を身につけた人材を育成している。

このような社会の動向をみるに、本学科の人材養成の目的であるビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応え

るものである。

イ 地域的な人材需要の動向

本学科の過去 3 ヶ年の就職内定率は、平成 24 年度卒業生 97.9%、平成 25 年度卒業生 97.3%となっている。なお、政府統計データによると、全国の平均は平成 24 年度卒業生 94.7%、平成 25 年度卒業生 94.2%となっており、全国の状況と比して高い。併せて、本学への企業からの求人状況は資料 65 のとおりであり、平成 26 年度の求人数は、過去 3 ヶ年で最多となった。現定員 60 人に対し、平成 26 年度の求人件数は 1462 件であり、24 倍を超える求人倍率となっている。平成 26 年度卒業生の就職内定率は 100%を達成する見込であり、本学科の育成する人材に対する地域的な人材需要の高まりを示している。

資料目次

- (資料1-1) 総合生活学科募集状況（平成23年度～27年度）
- (資料1-2) 総合生活学科各コースへの希望者数（平成23年度～27年度）
- (資料2) 進学希望アンケート調査（生活デザイン学科）
- (資料3-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果（生活デザインコース）
- (資料3-2) 本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープン
キャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳
- (資料3-3) 本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学入学理由
- (資料4-1) 大阪府の18歳人口の推移（平成26年度～37年度）
- (資料4-2) 総合生活学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出
- (資料5) 進学希望アンケート調査（調理・製菓学科）
- (資料6-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果（食物コース）
- (資料6-2) 本学食物コース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープン
キャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳
- (資料6-3) 本学食物コース平成26年度新入生の本学入学理由
- (資料7) 進学希望アンケート調査（栄養学科）
- (資料8-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果（栄養コース）
- (資料8-2) 本学栄養コース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープン
キャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳
- (資料8-3) 本学栄養コース平成26年度新入生の本学入学理由
- (資料9) 幼児教育学科募集状況（平成23年度～27年度）
- (資料10) 大阪成蹊短期大学幼児教育学科 指定校に対する要望一覧
- (資料11) 併設高校から本学幼児教育学科への内部進学者数推移（平成23年度～27年度入学）
- (資料12-1) 幼児教育学科入学者の入試区分別推移（平成23年度～27年度）
- (資料12-2) 幼児教育学科のその他一般入試の志願倍率（平成23年度～27年度）
- (資料13) 進学希望アンケート調査（幼児教育学科）
- (資料14-1) 大阪府の18歳人口の推移（平成26年度～37年度）
- (資料14-2) 幼児教育学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出
- (資料15) グローバルコミュニケーション学科募集状況（平成23年度～27年度）
- (資料16) 経営会計学科募集状況（平成23年度～27年度）
- (資料17) 学科系統別の動向（家政系）
- (資料18) 規模別の動向（平成23年度～26年度）
- (資料19) オープンキャンパス参加者数（平成23年度～27年度入学生の募集）
- (資料20) 本学生活デザイン学科及び競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較
- (資料21) 併設高校からの内部進学者数
- (資料22-1) 本学調理・製菓学科の競合短期大学の入学者数推移
- (資料22-2) 本学総合生活学科食物コースフードコーディネータークラス及び
競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較
- (資料23) 本学栄養学科の競合短期大学の入学者数等推移
- (資料24) 本学栄養コース卒業生における栄養士希望者の栄養士決定者率
- (資料25) 全国の短期大学教育系学科の状況（平成23年度～26年度）
- (資料26) 大阪府内の幼稚園教員、保育士養成の教育を行っている短期大学一覧
- (資料27) 新入生の本学以外の短期大学オープンキャンパス参加校、参加件数
- (資料28) 競合校の募集状況
- (資料29) 大阪府内の幼稚園教員、保育士養成の教育を行う短期大学の所在地を示す地図
- (資料30) 本学の近隣都市及び交通の利便性等を考慮した地域の高校在籍者数

- (資料31) 本学オープンキャンパス参加者数及び構成比率
- (資料32) 本学以外の大学、短期大学等のオープンキャンパス参加者数及び構成比率
- (資料33) 本学以外の大学、短期大学への受験者数
- (資料34) 本学の近隣等競合短期大学の偏差値
- (資料35) 全国の短期大学人文系学科の状況（平成22年度～26年度）
- (資料36) 全国の短期大学社会系学科の状況（平成22年度～26年度）
- (資料37-1) 大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の
3大学合計の入学学生数推移
- (資料37-2) 大阪成蹊短期大学の入学学生数推移
- (資料38) 併設高校から本学各学科への内部進学学生数推移（平成23年度～27年度入学）
- (資料39) 国内アパレル総小売市場規模推移
- (資料40) 織研
- (資料41) 大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査
- (資料42) 過去3ヵ年の総合生活学科各コースの就職状況
- (資料43) 外食産業市場規模（平成23年（2011）～平成25年（2013））
- (資料44) 和菓子・デザート類市場に関する調査結果
- (資料45) 外国人観光客が訪日前に期待すること（複数回答可）
- (資料46) 大阪成蹊短期大学 調理・製菓学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査
- (資料47) 日本における男女別の平均寿命及び健康寿命の推移
- (資料48) 大阪成蹊短期大学 栄養学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査
- (資料49) 保育分野における人材不足の現状①
- (資料50) 待機児童解消加速化プラン
- (資料51) 認定子ども園数の推移
- (資料52) 本務教員の平均勤続年数
- (資料53) 離職の理由別離職教員数
- (資料54-1) 保育士確保での困りごとの有無
- (資料54-2) 保育士確保での困りごとの内訳
- (資料55) 園の保育実践上、運営上の課題のうち、もっとも重要な課題
- (資料56) 保育士の資質向上のために必要だと思うこと（全体）
- (資料57) 保育士の資質向上のために必要だと思うこと（園の区分別）
- (資料58-1) 教育委員会等からの幼稚園教諭養成課程の入学定員増員及び指定保育士
養成施設の入学定員増員（拡充）についての要望について
- (資料58-2) 各教育委員会等の所在地を示す地図
- (資料59) （近畿ブロック）主な職種別有効求人倍率等の状況
- (資料60) 大阪市における保育所数及び保育士数の推移（平成23年～25年）
- (資料61) 大阪市における要保育士数の推移
- (資料62-1) 教育・保育に関する量の見込み（東淀川区及び隣接4区）
- (資料62-2) 教育・保育に関する量の見込み（東淀川区及び隣接4区）総計
- (資料63-1) 教育・保育に関する量の見込み（3～5歳）（東淀川区及び隣接4区）
- (資料63-2) 教育・保育に関する量の見込み（3～5歳）（東淀川区及び隣接4区）総計
- (資料63-3) 幼稚園利用希望者数見込み（3～5歳）（東淀川区及び隣接4区）総計
- (資料64-1) 過去3ヵ年の本学幼児教育学科就職状況
- (資料64-2) 直近3ヵ年の本学への求人状況（幼稚園教諭、保育士）
- (資料65) 直近3ヵ年の本学への求人状況（企業）

(資料1-1) 総合生活学科募集状況(平成23年度～27年度)

(単位:人、倍)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(A)	220	220	220	220	220
志願者数(B)	250	276	286	353	310
受験者数	249	275	283	351	307
合格者数	246	264	272	302	282
入学者数	212	247	254	284	266
志願倍率(B)/(A)	1.14	1.26	1.30	1.60	1.41

(資料1-2) 総合生活学科各コースへの希望者数(平成23年度～27年度)

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
生活デザインコース	50	44	49	54	62
食物コース	82	84	102	112	95
栄養コース	80	119	103	118	109
総合生活学科 計	212	247	254	284	266

(資料 2)

進学希望アンケート調査 (生活デザイン学科)

目 次

1. 調査概要
2. 生活デザイン学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学生活デザイン学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する調理・製菓学科、栄養学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5カ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 生活デザイン学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

生活デザイン学科	434
うち、併設高校	41
その他の学科	1,762
いずれにも進学 したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府 (その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県 (その他)	186	10. 京都市・ 亀岡市以南	692	11. 京都府 (南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他 ()	117
合計									6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

生活デザイン学科を選択した高校生数は有効回答数の6.8%にあたる434人であった。なお、その他の学科1,762人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。



3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(生活デザイン学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいと思 わない	居住地													無効
					男性	女性	生活デザ イン学科	その他の学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	41	234	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	渋谷	公	7	263	126	137	22	84	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
3	北摂つばさ	公	6	214	87	127	21	47	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
4	京都明德	私	7	254	127	127	19	70	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
5	鶴見商業	公	7	240	22	218	19	49	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
6	大阪	私	9	354	233	121	18	65	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
7	豊島	公	6	227	97	130	17	82	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
8	西	公	4	147	50	97	16	30	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
9	北淀	公	5	180	72	108	15	48	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	東淀川	公	7	270	102	168	14	63	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
11	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	13	75	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
12	京都外大西	私	3	116	38	78	12	30	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
13	京都翔英	私	6	224	152	72	12	51	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
14	芦屋学園	私	5	146	94	52	12	32	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
15	京都西山	私	5	177	0	177	10	74	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
16	京都橘	私	3	123	54	69	10	22	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
17	箕面東	公	5	172	61	111	9	32	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
18	守口東	公	2	68	18	50	9	19	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
19	宝塚西	公	5	192	80	112	9	45	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
20	尼崎双星	公	5	149	77	72	8	27	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
21	箕面学園	私	2	90	71	19	8	18	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
22	あべの翔学	私	4	120	0	120	8	29	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
23	茨田	公	5	169	72	97	8	34	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
24	阪南大学	私	2	72	45	27	7	17	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
25	夙川学院	私	4	121	0	121	7	25	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
26	北かわち皇が丘	公	3	114	49	65	7	33	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
27	西寝屋川	公	3	91	35	56	7	24	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
28	芦間	公	2	73	43	30	6	14	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
29	清明学院	私	1	36	19	17	6	8	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
30	尼崎北	公	4	116	54	62	6	28	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
31	宝塚東	公	1	35	14	21	6	14	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
32	柴島	公	2	76	21	55	6	16	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
33	芥川	公	2	76	28	48	5	19	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
34	八尾北	公	2	75	23	52	5	21	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
35	大冠	公	2	74	35	39	5	23	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
36	茨木西	公	1	33	18	15	4	8	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
37	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
38	交野	公	3	112	50	62	4	28	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
39	伊丹北	公	2	74	32	42	4	16	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
40	神戸野田	私	2	60	11	49	3	14	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
41	京都両洋	私	2	74	56	18	3	15	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
42	汎愛	公	3	114	65	49	3	21	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
43	華頂女子	私	2	80	0	80	3	26	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
44	昇陽	私	3	98	34	64	3	19	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
45	宣真	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
46	島本	公	1	42	5	37	0	29	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
47	枚岡樟風	公	1	32	4	28	0	18	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
合計			178	6364	2402	3962	434	1762	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、

高校2年生の皆さん

が対象となります。

大阪成蹊短期大学「生活デザイン学科（仮称）」

設置構想に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科生活デザインコースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「生活デザイン学科」として学科を設置することを構想しています。「生活デザイン学科」では、「衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的とし、下記のコースを設ける予定です。

設置するコース

1. アパレル・スタイリストコース

素材やデザインに関する専門的な知識をはじめ、着る人の個性を表現するための豊かな感性を持ち、イメージを形に変えるために必要な知識と技術を身につけた人材を育成する

2. ファッションコーディネートコース

イメージを表現するための、ファッションに関する総合的な知識を養い、TPO と流行を見極める感性と技術を身につけた人材を育成する。

取得可能な資格・免許

2 級衣料管理士資格、パターンメイキング技術検定、きもの文化検定、色彩検定、販売士
パーソナルカラー検定、ファッションビジネス能力検定、中学校教諭二種免許（家庭）
司書教諭資格、図書館司書資格

就職状況

「生活デザインコース」平成 26 年度卒業生就職内定率（2 月現在、希望者ベース）100%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m
JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に服飾関係の学びがある短期大学（参考）

大手前短期大学ライフデザイン総合学科、大阪夕陽丘学園短大キャリア創造学科
大阪女子短期大学生活科学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(資料3-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果(生活デザインコース)

本学オープンキャンパス参加状況(平成26年度本学生活デザインコース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
本学オープンキャンパスに参加した	46	90.2%
1回参加した	30	58.8%
2回以上参加した	16	31.4%
参加しなかった	4	7.8%
無回答	1	2.0%
合 計	51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

本学以外の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパス参加状況
(平成26年度本学生活デザインコース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
他校のオープンキャンパスに参加した	29	56.9%
1～3校参加した	24	47.1%
4校以上参加した	5	9.8%
参加しなかった	20	39.2%
無回答	2	3.9%
合 計	51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

本学以外の短期大学への受験状況(平成26年度本学生活デザインコース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
受験した	2	3.9%
受験しなかった	49	96.1%
無回答	0	0.0%
合 計	51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

(資料3-2) 本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学以外の
短期大学オープンキャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳

	短期大学	オープンキャンパス参加校、件数		受験校、受験件数	
		回答総数	22	回答総数	0
		回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
1	大阪夕陽丘学園短期大学	5	22.7%	0	0.0%
2	大手前短期大学	4	18.2%	0	0.0%
3	大阪女子短期大学	3	13.6%	0	0.0%
4	大阪青山大学短期大学部	3	13.6%	0	0.0%
5	関西外国語大学短期大学部	2	9.1%	0	0.0%
6	大阪城南女子短期大学	1	4.5%	0	0.0%
7	四天王寺大学短期大学部	1	4.5%	0	0.0%
8	武庫川女子大学短期大学部	1	4.5%	0	0.0%
9	甲子園短期大学	1	4.5%	0	0.0%
10	東大阪短期大学	1	4.5%	0	0.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

上記は他校のオープンキャンパス参加者29人(資料3-1参照)のうち、他の短期大学のオープンキャンパスに参加した高校生の学校別参加件数

(資料3-3) 本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学入学理由

	選 択 肢	回答数	構成比
1	資格、免許取得に有利	30	24.8%
2	就職実績、内容	22	18.2%
3	通学が便利	19	15.7%
4	学生生活が楽しめそう	14	11.6%
5	校風や雰囲気	13	10.7%
6	設備や環境が整っている	10	8.3%
7	学生の面倒見が良い	5	4.1%
8	教員が魅力的	4	3.3%
9	伝統や実績	3	2.5%
10	その他	1	0.8%
	合 計	121	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

質問項目「大阪成蹊短期大学に入学を決めた理由」に対する回答結果(複数回答可)

(資料4-1) 大阪府の18歳人口の推移 (平成26年度～37年度)

(単位:人)

入学年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成27年度比
大阪府の18歳人口	83,085	80,765	83,243	83,617	86,273	84,097	83,201	82,080	79,692	77,633	76,043	72,882	87.7%

大阪府の18歳人口は文部科学省学校基本調査をもとにしたリクルート進学総研「18歳人口・大学／専修学校進学率・残留率の動向-都道府県別分析：関西版-」を参照した

(資料4-2) 総合生活学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出

(単位:倍)

入学年度	平成26年度 (a)	人口変動率 (b)	平成37年度 (a)x(b)
志願倍率	1.60	0.877	1.40

平成26年度の志願倍率をベースに人口の減少率を乗じて平成37年度の志願倍率を算出
総合生活学科の志願倍率は(資料1-1参照)

(資料 5) **進学希望アンケート調査**
(調理・製菓学科)

目 次

1. 調査概要
2. 調理・製菓学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学調理・製菓学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する生活デザイン学科、栄養学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学7)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5か年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 調理・製菓学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校	(併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚	(併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚	(併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚	(併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

調理・製菓学科	574
うち、併設高校	85
その他の学科	1,622
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

調理・製菓学科を選択した高校生数が有効回答数の9.0%にあたる574人であった。なお、その他の学科1,622人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、
兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。

3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(調理・製菓学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいとは思 わない	居住地													無効
					男性	女性	調理・製 菓学科	その他の学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	85	190	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	豊島	公	6	227	97	130	39	60	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
3	渋谷	公	7	263	126	137	29	77	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
4	東淀川	公	7	270	102	168	29	48	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
5	京都明德	私	7	254	127	127	29	60	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
6	京都翔英	私	6	224	152	72	24	39	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
7	大阪	私	9	354	233	121	21	62	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
8	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	20	68	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
9	北淀	公	5	180	72	108	18	45	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	北摂つばさ	公	6	214	87	127	18	50	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
11	鶴見商業	公	7	240	22	218	16	52	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
12	京都西山	私	5	177	0	177	15	69	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
13	茨田	公	5	169	72	97	14	28	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
14	北かわち草が丘	公	3	114	49	65	13	27	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
15	箕面東	公	5	172	61	111	12	29	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
16	宝塚西	公	5	192	80	112	12	42	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
17	尼崎双星	公	5	149	77	72	11	24	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
18	芦屋学園	私	5	146	94	52	11	33	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
19	京都外大西	私	3	116	38	78	10	32	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
20	交野	公	3	112	50	62	10	22	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
21	大冠	公	2	74	35	39	10	18	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
22	昇陽	私	3	98	34	64	10	12	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
23	夙川学院	私	4	121	0	121	9	23	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
24	守口東	公	2	68	18	50	9	19	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
25	宝塚東	公	1	35	14	21	8	12	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
26	西	公	4	147	50	97	8	38	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
27	京都橘	私	3	123	54	69	8	24	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
28	八尾北	公	2	75	23	52	7	19	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
29	伊丹北	公	2	74	32	42	7	13	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
30	京都両洋	私	2	74	56	18	6	12	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
31	芥川	公	2	76	28	48	6	18	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
32	島本	公	1	42	5	37	6	23	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
33	尼崎北	公	4	116	54	62	6	28	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
34	西狭屋川	公	3	91	35	56	6	25	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
35	芦間	公	2	73	43	30	5	15	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
36	箕面学園	私	2	90	71	19	5	21	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
37	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
38	阪南大学	私	2	72	45	27	3	21	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
39	あべの翔学	私	4	120	0	120	3	34	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
40	柴島	公	2	76	21	55	3	19	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
41	茨木西	公	1	33	18	15	2	10	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
42	清明学院	私	1	36	19	17	2	12	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
43	華頂女子	私	2	80	0	80	2	27	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
44	神戸野田	私	2	60	11	49	1	16	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
45	汎愛	公	3	114	65	49	1	23	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
46	枚岡樟風	公	1	32	4	28	1	17	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
47	宣真	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
合計			178	6364	2402	3962	574	1622	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、

高校2年生の皆さん

が対象となります。

大阪成蹊短期大学「調理・製菓学科（仮称）」

設置構想に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科食物コースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「調理・製菓学科」として学科を設置することを構想しています。「調理・製菓学科」では、「食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的とし、下記のコースを設ける予定です。

設置するコース

1. 調理コース

調理に関する幅広い知識と高い技術を持ち、料理を通じて人に幸せを届けることのできる調理師やフードスペシャリストを育成する。

2. 製菓コース

製菓に関する確かな知識と技術を持ち、製菓を通じて人に幸せを届けることのできる製菓のプロフェッショナルを育成する。

3. フードコーディネーターコース

調理やメニュー開発、接客サービス、食空間の演出など「食」に関する幅広い知識と技術を身につけた、フードコーディネーターのプロフェッショナルを育成する。

取得可能な資格・免許

調理師免許、技術考査（専門調理師免許筆記試験合格証）、フードスペシャリスト、家庭料理技能検定 2・3 級、製菓衛生師（受験資格）、フードコーディネーター 3 級、レストランサービス技能士 3 級、食空間コーディネーター 3 級、サービス接客検定準 1～3 級、ラッピングコーディネーター、販売士、色彩検定、図書館司書資格

（コースにより取得できる資格・免許は異なります）

就職状況

平成 26 年度卒業生就職内定率（1 月末現在、希望者ベース）

調理クラス 100%（調理師職希望者の調理師職内定率 100%）

フードコーディネータークラス 100%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m

JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に調理・製菓及びフードコーディネーターの学びがある短期大学（参考）

大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科、大阪青山大学短期大学部調理製菓学科

四条畷学園短期大学ライフデザイン総合学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(資料6-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果(食物コース)

本学オープンキャンパス参加状況(平成26年度本学食物コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
本学オープンキャンパスに参加した	93	87.7%
1回参加した	47	44.3%
2回以上参加した	46	43.4%
参加しなかった	13	12.3%
無回答	0	0.0%
合 計	106	100.0%

平成26年度本学総合生活学科食物コース新入生へのアンケート結果

本学以外の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパス参加状況
(平成26年度本学食物コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
他校のオープンキャンパスに参加した	71	67.0%
1～3校参加した	63	59.4%
4校以上参加した	8	7.5%
参加しなかった	34	32.1%
無回答	1	0.9%
合 計	106	100.0%

平成26年度本学総合生活学科食物コース新入生へのアンケート結果

本学以外の短期大学への受験状況(平成26年度本学食物コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
受験した	2	1.9%
受験しなかった	101	95.3%
無回答	3	2.8%
合 計	106	100.0%

平成26年度本学総合生活学科食物コース新入生へのアンケート結果

(資料6-2) 本学食物コース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープンキャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳

	短期大学	オープンキャンパス参加校、件数		受験校、受験件数	
		回答総数	47	回答総数	1
		回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
1	大阪青山大学短期大学部	15	31.9%	0	0.0%
2	大阪夕陽丘学園短期大学	14	29.8%	0	0.0%
3	大手前短期大学	3	6.4%	0	0.0%
4	大阪女子短期大学	3	6.4%	0	0.0%
5	園田学園女子大学短期大学部	2	4.3%	0	0.0%
6	神戸女子短期大学	2	4.3%	0	0.0%
7	京都文教短期大学	2	4.3%	0	0.0%
8	龍谷大学短期大学部	1	2.1%	0	0.0%
9	四天王寺大学短期大学部	1	2.1%	0	0.0%
10	滋賀短期大学	1	2.1%	0	0.0%
11	京都光華女子短期大学	1	2.1%	0	0.0%
12	大阪信愛女学院短期大学	1	2.1%	1	100.0%
13	大阪国際大学短期大学部	1	2.1%	0	0.0%

平成26年度本学総合生活学科食物コース新入生へのアンケート結果

上記は他校のオープンキャンパス参加者71人(資料6-1参照)のうち、他の短期大学のオープンキャンパスに参加した高校生の学校別参加件数

(資料6-3) 本学食物コース平成26年度新入生の本学入学理由

	選 択 肢	回答数	構成比
1	資格、免許取得に有利	68	22.0%
2	校風や雰囲気	46	14.9%
3	学生生活が楽しめそう	43	13.9%
4	通学が便利	41	13.3%
5	就職実績、内容	37	12.0%
6	設備や環境が整っている	36	11.7%
7	その他	13	4.2%
8	教員が魅力的	11	3.6%
9	学生の面倒見が良い	10	3.2%
10	伝統や実績	4	1.3%
	合 計	309	100.0%

平成26年度本学総合生活学科食物コース新入生へのアンケート結果

質問項目「大阪成蹊短期大学に入学を決めた理由」に対する回答結果(複数回答可)

(資料 7) 進学希望アンケート調査
(栄養学科)

目 次

1. 調査概要
2. 栄養学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学栄養学科(仮称)の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する生活デザイン学科、調理・製菓学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数 : 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳 : 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出 : アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5ヵ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 栄養学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

栄養学科	272
うち、併設高校	35
その他の学科	1,924
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果の分析】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

栄養学科を選択した高校生数が有効回答数の4.3%にあたる272人であった。なお、その他の学科1,924人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。

3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(栄養学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいと思 わない	居住地													無効
					男性	女性	栄養学科	その 他の 学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	35	240	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	渋谷	公	7	263	126	137	16	90	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
3	豊島	公	6	227	97	130	15	84	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
4	東淀川	公	7	270	102	168	15	62	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
5	大阪	私	9	354	233	121	14	69	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
6	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	14	74	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
7	鶴見商業	公	7	240	22	218	9	59	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
8	尼崎北	公	4	116	54	62	8	26	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
9	汎愛	公	3	114	65	49	8	16	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
10	北摂つばさ	公	6	214	87	127	7	61	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
11	京都明德	私	7	254	127	127	7	82	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
12	宝塚西	公	5	192	80	112	7	47	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
13	夙川学院	私	4	121	0	121	7	25	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
14	京都西山	私	5	177	0	177	6	78	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
15	阪南大学	私	2	72	45	27	6	18	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
16	芦間	公	2	73	43	30	6	14	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
17	華頂女子	私	2	80	0	80	6	23	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
18	西	公	4	147	50	97	5	41	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
19	西寝屋川	公	3	91	35	56	5	26	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
20	芥川	公	2	76	28	48	5	19	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
21	交野	公	3	112	50	62	5	27	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
22	あべの翔学	私	4	120	0	120	4	33	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
23	北かわち阜が丘	公	3	114	49	65	4	36	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
24	八尾北	公	2	75	23	52	4	22	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
25	大冠	公	2	74	35	39	4	24	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
26	茨木西	公	1	33	18	15	4	8	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
27	北淀	公	5	180	72	108	3	60	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
28	京都外大西	私	3	116	38	78	3	39	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
29	京都翔英	私	6	224	152	72	3	60	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
30	芦屋学園	私	5	146	94	52	3	41	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
31	京都橘	私	3	123	54	69	3	29	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
32	箕面東	公	5	172	61	111	3	38	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
33	守口東	公	2	68	18	50	3	25	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
34	箕面学園	私	2	90	71	19	3	23	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
35	宝塚東	公	1	35	14	21	3	17	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
36	扇町総合	公	1	33	3	30	3	12	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
37	枚岡樟風	公	1	32	4	28	3	15	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
38	尼崎双星	公	5	149	77	72	2	33	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
39	茨田	公	5	169	72	97	2	40	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
40	清明学院	私	1	36	19	17	2	12	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
41	伊丹北	公	2	74	32	42	2	18	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
42	昇陽	私	3	98	34	64	2	20	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
43	柴島	公	2	76	21	55	1	21	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
44	神戸野田	私	2	60	11	49	1	16	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
45	島本	公	1	42	5	37	1	28	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
46	京都両洋	私	2	74	56	18	0	18	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
47	宣真	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
合計			178	6364	2402	3962	272	1924	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、

高校2年生の皆さん

が対象となります。

大阪成蹊短期大学「栄養学科（仮称）」

設置構想に係る入学希望アンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科栄養コースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「栄養学科」として学科を設置することを構想しています。「栄養学科」では、「栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的としています。

学科の特色

栄養士として必要な知識と技能を基礎から応用まで身につけ、「国民の健康づくり」「食育」を実践、推進し、社会に貢献できる栄養士をめざす。

取得可能な資格・免許

栄養士免許、栄養教諭二種免許、図書館司書資格

就職状況

「栄養コース」平成 26 年度卒業生就職内定率（2 月現在、希望者ベース）97.6%
（栄養士職希望者の栄養士職内定率 100%）

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m
JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に栄養関係の学びがある短期大学（参考）

大阪夕陽丘学園短期大学食物栄養学科、大阪女子短期大学生生活科学科食物栄養専攻栄養士コース、神戸女子短期大学食物栄養学科、京都文教短期大学食物栄養学科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、 2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(資料8-1) 平成26年度新入生アンケート回答結果(栄養コース)

本学オープンキャンパス参加状況(平成26年度本学栄養コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
本学オープンキャンパスに参加した	97	89.0%
1回参加した	38	34.9%
2回以上参加した	59	54.1%
参加しなかった	12	11.0%
無回答	0	0.0%
合 計	109	100.0%

平成26年度本学総合生活学科栄養コース新入生へのアンケート結果

本学以外の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパス参加状況
(平成26年度本学栄養コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
他校のオープンキャンパスに参加した	73	67.0%
1～3校参加した	67	61.5%
4校以上参加した	6	5.5%
参加しなかった	33	30.3%
無回答	3	2.8%
合 計	109	100.0%

平成26年度本学総合生活学科栄養コース新入生へのアンケート結果

本学以外の短期大学への受験状況(平成26年度本学栄養コース新入生)

選 択 肢	回答数	構成比(%)
受験した	10	9.2%
受験しなかった	98	89.9%
無回答	1	0.9%
合 計	109	100.0%

平成26年度本学総合生活学科栄養コース新入生へのアンケート結果

(資料8-2) 本学栄養コース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープン
キャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳

	短期大学	オープンキャンパス参加校、件数		受験校、受験件数	
		回答総数	67	回答総数	6
		回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
1	大阪夕陽丘学園短期大学	22	32.8%	0	0.0%
2	大阪女子短期大学	7	10.4%	0	0.0%
3	神戸女子短期大学	7	10.4%	0	0.0%
4	京都文教短期大学	6	9.0%	3	50.0%
5	大阪国際大学短期大学部	5	7.5%	0	0.0%
6	武庫川女子大学短期大学部	5	7.5%	1	16.7%
7	大阪青山大学短期大学部	4	6.0%	0	0.0%
8	大手前短期大学	2	3.0%	1	16.7%
9	四天王寺大学短期大学部	2	3.0%	0	0.0%
10	東大阪短期大学	2	3.0%	0	0.0%
11	大阪キリスト教短期大学	1	1.5%	0	0.0%
12	園田学園女子大学短期大学部	1	1.5%	0	0.0%
13	池坊短期大学	1	1.5%	0	0.0%
14	神戸山手短期大学	1	1.5%	0	0.0%
15	滋賀短期大学	1	1.5%	0	0.0%
16	大阪城南女子短期大学	0	0.0%	0	0.0%
17	関西外国語大学短期大学部	0	0.0%	0	0.0%
18	近畿大学短期大学部	0	0.0%	0	0.0%
19	常磐会短期大学	0	0.0%	0	0.0%
20	平安女学院短期大学短期大学部	0	0.0%	0	0.0%
21	龍谷大学短期大学部	0	0.0%	0	0.0%
22	島根県立短期大学	0	0.0%	1	16.7%

平成26年度本学総合生活学科栄養コース新入生へのアンケート結果

上記は他校のオープンキャンパス参加者73人のうち、他の短期大学のオープンキャンパスに参加した高校生の学校別参加件数

(資料8-3) 本学栄養コース平成26年度新入生の本学入学理由

	選 択 肢	回答数	構成比
1	就職実績、内容	55	20.9%
2	校風や雰囲気	46	17.5%
3	資格、免許取得に有利	46	17.5%
4	通学が便利	37	14.1%
5	設備や環境が整っている	24	9.1%
6	学生生活が楽しめそう	19	7.2%
7	教員が魅力的	13	4.9%
8	学生の面倒見が良い	13	4.9%
9	伝統や実績	9	3.4%
10	その他	1	0.4%
	合 計	263	100.0%

平成26年度本学総合生活学科栄養コース新入生へのアンケート結果

質問項目「大阪成蹊短期大学に入学を決めた理由」に対する回答結果(複数回答可)

(資料9) 幼児教育学科募集状況(平成23年度～27年度)
(平成25年度以前は児童教育学科幼児教育学専攻)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(A)	150	200	240	240	240
志願者数(B)	255	284	332	412	420
受験者数	254	271	318	405	410
合格者数	166	214	266	262	270
入学者数	163	203	252	251	240
志願倍率(B)/(A)	1.70	1.42	1.38	1.72	1.75

(資料10) 大阪成蹊短期大学幼児教育学科 指定校に対する要望一覧(平成26年度入学生募集)

番号	高校名	公立・私立の区分	所在地	希望類型 (新規・追加)	新規・追加希望枠数	新規・追加枠
1	A高校	公立	大阪市	追加	複数	×
2	B高校	公立	大阪市	追加	複数	×
3	C高校	公立	大阪市	追加	1	×
4	D高校	公立	大阪市	新規	1	×
5	E高校	公立	池田市	追加	1	×
6	F高校	公立	高槻市	追加	複数	2
7	G高校	公立	寝屋川市	新規	1	1
8	H高校	公立	岸和田市	新規	1	1
9	I高校	公立	貝塚市	追加	複数	1
10	J高校	公立	泉南市	新規	1	1
11	K高校	私立	大阪市	追加	複数	1
12	L高校	私立	東大阪市	追加	複数	×
13	M高校	私立	藤井寺市	新規	1	1
14	N高校	私立	洲本市	新規	1	1
15	O高校	私立	三田市	新規	1	1
16	P高校	公立	生駒郡	新規	複数	×
17	Q高校	公立	愛媛県	新規	1	×
18	R高校	公立	鳥取県	新規	1	×
19	S高校	公立	島根県	新規	1	×

(資料11) 併設高校から本学幼児教育学科への内部進学者数推移
(平成23年度～27年度入学)

(単位:人)

	平成23年度入学	平成24年度入学	平成25年度入学	平成26年度入学	平成27年度入学(見込)
本学幼児教育学科への内部進学者数	39	33	65	67	86

(資料12-1) 幼児教育学科入学者の入試区分別推移 (平成23年度～27年度)

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員	(150)	(200)	(240)	(240)	(240)
入学者 (a)	163	203	252	251	240
指定校推薦入試	61	94	85	95	77
併設高校入試	39	33	65	67	86
小計 (b)	100	127	150	162	163
その他一般入試	63	76	102	89	77
入学者に占める比率 (b)/(a)	61.3%	62.6%	59.5%	64.5%	67.9%

(資料12-2) 幼児教育学科のその他一般入試の志願倍率(平成23年度～27年度)

(単位:人、倍)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(a)		150	200	240	240	240
合格者数(b)	指定校推薦入試	61	96	86	96	77
	併設高校入試	39	36	65	70	86
残り入学定員 (a)-(b)		50	68	89	74	77
その他一般入試の志願者数		155	152	181	245	249
その他一般入試の志願倍率		3.1倍	2.2倍	2.0倍	3.3倍	3.2倍

(資料 13)

進学希望アンケート調査 (幼児教育学科)

目 次

1. 調査概要
2. 幼児教育学科アンケート集計結果
3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

- (1) 調査目的 : 本調査は、平成28年4月収容定員増を予定している大阪成蹊短期大学幼児教育学科の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置する生活デザイン学科、調理・製菓学科及び栄養学科を含め4学科について、同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した(アンケート用紙参照)。
- (2) 調査期間 : 平成27年2月17日(火)～3月13日(金)
- (3) 調査方法 : 対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し(一部持参あり)、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。
- (4) 調査対象 : 高校2年生(平成27年3月現在)
- (5) 調査内容 : アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所(アクセス)、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。
- (6) 調査高校数: 47校 (178クラス) (大阪31校(公立23、私学8)、京都7(私学7)、兵庫9(公立6、私学3))
- (7) 回答数内訳: 全回答数 6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 (全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等)
- (8) 高校の抽出: アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5か年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県(神戸市以東)とした。

2. 幼児教育学科アンケート集計結果

① アンケート協力高校数	47校 (併設高校を含む)
② アンケート回答総数	6,513枚 (併設高校を含む)
③ アンケート無効回答総数	149枚 (併設高校を含む)
④ アンケート有効回答総数	6,364枚 (併設高校を含む)

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

幼児教育学科	916
うち、併設高校	114
その他の学科	1,280
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡	727	7. 大阪府(その他)	868	8. 兵庫県(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)	1,111				
9. 兵庫県(その他)	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府(南丹市以北)	180	12. 奈良県	42	13. その他()	117
合計									6,364

【調査結果のまとめ】

問1 あなたの性別を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

有効回答数 6,364人のうち 男性 2,402人 女性 3,962人

男性37.7%、女性62.3%であった。

調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するものに○を付けてください)

幼児教育学科を選択した高校生数が有効回答数の14.4%にあたる916人であった。幼児教育学科の入学定員(300人)の3.05倍にあたる高校生の回答を得た。

なお、本調査対象校のうち、保育士、幼稚園教員をめざすためのコースを設置している高校が併設高校を含め5校あり、いずれも進学希望者が多かった。設置高校は以下のとおりである。

大阪成蹊女子高校「幼児教育コース」、宣真高校「保育系進学コース」、京都西山高校「こども夢コース」、あべの翔学高校「幼教進学コース」、昇陽高校「保育福祉コース」

問3 あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内 24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14% 大阪府下に64%が居住している。以下、兵庫県神戸市以东(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、京都市・亀岡市以南 11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他 3%という結果であった。

3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

(幼児教育学科)

	高校名	公立・私立 区分	実施 クラス 数	回収枚数 (有効回 答)	性別		進学したい		いずれに も進学し たいとは思 わない	居住地													無効
					男性	女性	幼児 教育 学科	その 他の 学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	大阪成蹊女子	私	11	399	0	399	114	161	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	宣真	私	2	68	0	68	55	0	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
3	京都西山	私	5	177	0	177	53	31	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
4	尼崎(県立)	公	8	291	125	166	41	47	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
5	渋谷	公	7	263	126	137	39	67	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
6	京都明德	私	7	254	127	127	34	55	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
7	大阪	私	9	354	233	121	30	53	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
8	豊島	公	6	227	97	130	28	71	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
9	北淀	公	5	180	72	108	27	36	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	宝塚西	公	5	192	80	112	26	28	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
11	鶴見商業	公	7	240	22	218	24	44	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
12	京都翔英	私	6	224	152	72	24	39	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
13	北摂つばさ	公	6	214	87	127	22	46	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
14	あべの翔学	私	4	120	0	120	22	15	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
15	島本	公	1	42	5	37	22	7	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
16	東淀川	公	7	270	102	168	19	58	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
17	芦屋学園	私	5	146	94	52	18	26	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
18	茨田	公	5	169	72	97	18	24	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
19	華頂女子	私	2	80	0	80	18	11	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
20	西	公	4	147	50	97	17	29	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
21	京都外大西	私	3	116	38	78	17	25	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
22	箕面東	公	5	172	61	111	17	24	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
23	北かわち阜が丘	公	3	114	49	65	16	24	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
24	尼崎双星	公	5	149	77	72	14	21	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
25	尼崎北	公	4	116	54	62	14	20	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
26	枚岡樟風	公	1	32	4	28	14	4	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
27	西寝屋川	公	3	91	35	56	13	18	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
28	交野	公	3	112	50	62	13	19	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
29	柴島	公	2	76	21	55	12	10	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
30	神戸野田	私	2	60	11	49	12	5	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
31	沢愛	公	3	114	65	49	12	12	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
32	京都橘	私	3	123	54	69	11	21	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
33	箕面学園	私	2	90	71	19	10	16	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
34	八尾北	公	2	75	23	52	10	16	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
35	夙川学院	私	4	121	0	121	9	23	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
36	大冠	公	2	74	35	39	9	19	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
37	京都両洋	私	2	74	56	18	9	9	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
38	阪南大学	私	2	72	45	27	8	16	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
39	芥川	公	2	76	28	48	8	16	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
40	守口東	公	2	68	18	50	7	21	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
41	伊丹北	公	2	74	32	42	7	13	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
42	昇陽	私	3	98	34	64	7	15	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
43	清明学院	私	1	36	19	17	4	10	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
44	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
45	芦間	公	2	73	43	30	3	17	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
46	宝塚東	公	1	35	14	21	3	17	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
47	茨木西	公	1	33	18	15	2	10	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
合計			178	6364	2402	3962	916	1280	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※1実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※2イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）

および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、
高校2年生の皆さん
が対象となります。

大阪成蹊短期大学「幼児教育学科」

入学定員増（構想中）に係るアンケート調査

平成 27 年 4 月に高校 3 年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある幼児教育学科では、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、入学定員を現在の 240 人から 300 人へと増員することを構想しています。「幼児教育学科」は、「幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する」ことを目的としています。

特色

保育者としての技能を高める実技科目と、教育について考察する講義科目とをバランスよく学び、学外実習など幼児教育の現場で実践力を身につけ、幼児のこころとからだの成長を助ける「保育士」「幼稚園教諭」をめざします。

取得可能な資格・免許

保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事（本学で指定科目を履修後、社会福祉主事の職に就いた後、名乗ることができる資格）、図書館司書資格

就職状況

平成 23 年度卒業生から平成 25 年度卒業生まで 3 年連続で就職率（希望者ベース）100%
平成 26 年度卒業生（1 月末現在）95.6%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より 14 分）から 300m
JR 吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で 5 分

本学以外に幼児教育関係の学びがある短期大学（参考）

平安女学院大学短期大学部保育科、大阪国際大学短期大学部幼児保育科、常盤会短期大学幼児教育科

学生納付金

初年次学生納付金 1,270,000 円、2 年次 1,020,000 円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問1 あなたの性別を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 男性 2. 女性

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
(該当するもの一つに○を付けてください)

1. 生活デザイン学科
2. 調理・製菓学科
3. 栄養学科
4. 幼児教育学科
5. いずれにも進学したいと思わない

問3 あなたの居住地を教えてください。
(該当するものに○を付けてください)

1. 大阪市内 2. 吹田市 3. 摂津市 4. 茨木市 5. 高槻市
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡 7. 大阪府（その他）
8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡） 9. 兵庫県（その他）
10. 京都市・亀岡市以南 11. 京都府（南丹市以北） 12. 奈良県
13. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(資料14-1) 大阪府の18歳人口の推移 (平成26年度～37年度)

(単位:人)

入学年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成27年度比
大阪府の18歳人口	83,085	80,765	83,243	83,617	86,273	84,097	83,201	82,080	79,692	77,633	76,043	72,882	87.7%

大阪府の18歳人口は文部科学省学校基本調査をもとにしたリクルート進学総研「18歳人口・大学／専修学校進学率・残留率の動向-都道府県別分析: 関西版-」を参照した

(資料14-2) 幼児教育学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出

(単位:倍)

入学年度	平成26年度 (a)	人口変動率 (b)	平成37年度 (a)x(b)
志願倍率	1.72	0.877	1.51

上記平成26年度志願倍率は(資料9)幼児教育学科募集状況参照

平成26年度の志願倍率をベースに人口の減少率を乗じて平成37年度の志願倍率を算出

(資料15) グローバルコミュニケーション学科募集状況(平成23年度～27年度)(単位:人、倍)
(平成25年度以前は創造文化学科)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(A)	50	50	50	50	50
志願者数(B)	40	42	37	51	44
合格者数	38	38	34	50	38
入学者数	34	34	30	47	30
志願倍率(B)/(A)	0.80	0.84	0.74	1.02	0.88

(資料16)経営会計学科募集状況(平成23年度～27年度)(単位:人、倍)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
入学定員(A)	60	60	60	60	60
志願者数(B)	67	56	51	73	59
合格者数	65	53	47	71	55
入学者数	60	49	46	62	50
志願倍率(B)/(A)	1.12	0.93	0.85	1.22	0.98

(資料17)学科系統別の動向(家政系)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
志願倍率(倍)	1.35	1.30	1.29	1.36	1.31
入学定員充足率(%)	87.72	84.78	83.45	87.01	84.48

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度～26年度版より

(資料18) 規模別の動向(平成23年度～26年度)

規模別の動向(短期大学:入学定員500人以上)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
志願倍率(倍)	2.08	2.03	2.04	2.08	2.24
入学定員充足率(%)	102.41	98.96	95.97	100.61	100.74

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度～26年度版より

(資料19) オープンキャンパス参加者数(平成23年度～27年度入学生の募集)

(単位:人、倍)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
					対23年度比	
総合生活学科	715	759	845	924	880	1.23
生活デザインコース	144	165	161	200	171	1.23
食物コース	283	286	413	397	381	1.23
栄養コース	288	308	271	327	328	1.14
幼児教育学科	745	885	958	974	977	1.31
観光学科	120	115	145	185	206	1.72
グローバルコミュニケーション学科	82	100	75	161	148	1.81
経営会計学科	112	98	110	146	120	1.07

※上記は、本学のオープンキャンパス実施時に来校した高校生にアンケート調査を実施し、そのアンケートにおいて「本学の中で第1希望の学部・学科・コースの番号をご記入ください」との問いに、当該学科・コースの番号を記入した来場者の数

(資料20) 本学生活デザイン学科及び競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較
(各大学のホームページにて「取得できる免許や資格」として挙げられているもの)

大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	アパレル・スタイリストコース	ファッションコーディネート
		2級衣料管理士資格	2級衣料管理士資格
		きもの文化検定	きもの文化検定
		販売士	販売士
		色彩検定	色彩検定
		ファッションビジネス検定	ファッションビジネス検定
		中学校教諭二種免許(家庭)	中学校教諭二種免許(家庭)
		司書教諭資格	司書教諭資格
		図書館司書資格	図書館司書資格
		パターンメイキング技術検定	
			パーソナルカラー検定
大阪夕陽丘学園短期大学	キャリア創造学科	ファッションデザインコース	ビューティーデザインコース
		衣料管理士	メイクセラピー検定
		ファッション販売能力検定	ネイリスト技能検定
		ファッションビジネス検定	アロマセラピー検定
		パーソナルカラー検定	パーソナルカラー検定
大手前短期大学	ユニット自由選択制	ファッションビジネス	ファッションクリエイト
		ファッション販売能力検定	パターンメイキング技術検定
		ファッションビジネス能力検定	ファッション販売能力検定
		販売士検定	ファッションビジネス能力検定
		色彩検定	きもの文化検定
		サービス接客検定	
		プレゼンテーション実務士	
大阪女子短期大学	生活科学科ライフプロデュース専攻	ファッションコース	ビューティコース
		ファッションビジネス能力検定	JNECネイリスト技能検定
		ファッション販売能力検定	ケセランパサランメイクアップ検定
		色彩検定	メイクセラピー検定
			色彩検定

(資料21) 併設高校からの内部進学者数

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
生活デザインコース	0	2	5	6	13
食物コース	4	9	12	25	30
栄養コース	0	8	4	14	13
合計	4	19	21	45	56

(資料22-1) 本学調理・製菓学科の競合短期大学の入学者数推移

(単位:人)

大学名	学科	入学定員	平成24年度	平成25年度	平成26年度
大阪青山大学短期大学部	調理製菓学科	60	38	67	61

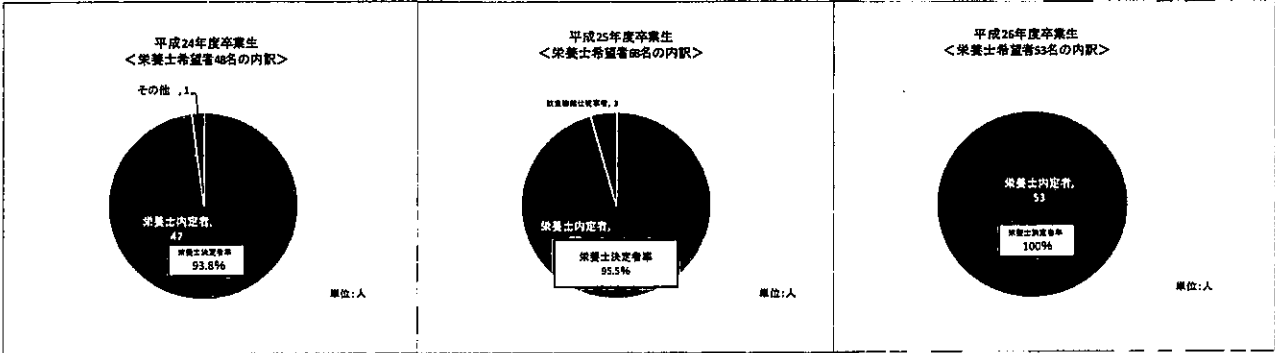
(資料22-2) 本学総合生活学科食物コースフードコーディネータークラス及び競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較
 (各大学のホームページにて「取得できる免許や資格」として挙げられているもの)

大阪成蹊短期大学	総合生活学科	食物コースフードコーディネータークラス
		フードコーディネーター
		レストランサービス技能士
		食空間コーディネーター
		家庭料理技能検定
		ラッピングコーディネーター
		サービス接遇検定
		販売士
		色彩検定
		図書館司書資格
大阪夕陽丘学園短期大学	フードデザインコース	キャリア創造学科
		フードコーディネーター
		食空間コーディネーター
		家庭料理技能検定

(資料23) 本学栄養学科の競合短期大学の入学者数等推移

大学名	学科	専攻等	入学定員	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成26年 入学定員充足率	平均入学定員 充足率(3か年)
大阪夕陽丘学園短期大学	食物栄養学科		100	94	104	107	1.07	1.02
神戸女子短期大学	食物栄養学科	食物栄養専攻	140	160	147	121	0.86	1.02
京都文教短期大学	食物栄養学科		120	132	129	120	1.06	1.06

(資料24) 本学栄養コース卒業生における栄養士希望者の栄養士決定者率



(資料25) 全国の短期大学教育系学科の状況(平成22年度～26年度)

(単位:人、倍、%)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入学定員 (A)	24,230	23,995	23,645	23,575	23,570
志願者数 (B)	33,398	35,857	34,650	36,321	34,952
志願倍率 (B)/(A)	1.38	1.49	1.47	1.54	1.48
入学者数 (C)	22,410	23,914	23,414	23,973	23,452
定員充足率 (C)/(A)	92.5	99.7	99.0	101.7	99.5

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成23年度版～26年度版より作成

(資料26) 大阪府内の幼稚園教員、保育士養成の教育を行っている短期大学一覧

は大阪市内に所在する短期大学

1.【大学の近隣等競合短期大学】

番号	学校名	学科・コース	入学定員	住所	備考
①	大阪成蹊短期大学	幼児教育学科	240	大阪府大阪市東淀川区3-10-62	
②	大阪青山大学短期大学部	幼児教育・保育科	100	大阪府箕面市新稲2-11-1	平成26年4月学生募集停止
③	平安女学院大学短期大学部	保育科	100	大阪府高槻市南平台5-81-1	
④	大阪国際大学短期大学部	幼児保育学科	180	大阪府守口市藤田町6-21-57	
⑤	常盤会短期大学	幼児教育科	300	大阪府大阪市平野区平野南4-6-7	
	合計		920		

2.【その他の短期大学】

番号	学校名	学科・コース	入学定員	住所	備考
①	大阪信愛女学院短期大学	子ども教育学科	120	大阪府大阪市鶴見区鶴見6-2-23	
②	大阪キリスト教短期大学	幼児教育学科	200	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1-3-61	
③	大阪芸術大学短期大学部	保育学科	100	大阪府大阪市東住吉区矢田2-14-19	
④	大阪城南女子短期大学	総合保育学科	170	大阪府大阪市東住吉区湯里6-4-26	
⑤	四条囃学園短期大学	保育学科	100	大阪府大東市学園町6-45	
⑥	東大阪大学短期大学部	幼児教育学科	80	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1	
⑦	関西女子短期大学	保育学科	100	大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1	
⑧	大阪女子短期大学	幼児教育科	100	大阪府藤井寺市春日丘3-8-1	
⑨	四天王寺大学短期大学部	保育科	100	大阪府羽曳野市学園前3-2-1	
⑩	大阪健康福祉短期大学	子ども福祉学科	80	大阪府堺市堺区田出井町2-8	
⑪	堺女子短期大学	美容生活文化学科 保育士コース	150	大阪府堺市堺区浅香山町1-2-20	
⑫	プール学院大学短期大学部	幼児教育保育学科	70	大阪府堺市南区槇塚台4-5-1	
⑬	大阪千代田短期大学	幼児教育科	100	大阪府河内長野市小山田町1685	
	合計		1,470		
	大阪府全域 合計		2,390		

(資料27) 新入生の本学以外の短期大学オープンキャンパス参加校、参加件数

番号	短期大学	オープンキャンパス参加校、件数	
		回答総数	132
		回答数	構成比(%)
1	大阪青山大学短期大学部	25	18.9%
2	大阪国際大学短期大学部	17	12.9%
3	平安女学院大学短期大学部	14	10.6%
4	常盤会短期大学	13	9.8%
5	大阪キリスト教短期大学	6	4.5%
6	園田学園女子大学短期大学部	6	4.5%
7	大阪城南女子短期大学	5	3.8%
8	神戸女子短期大学	5	3.8%
9	武庫川女子大学短期大学部	5	3.8%
10	京都文教短期大学	4	3.0%
11	大阪女子短期大学	3	2.3%
12	龍谷大学短期大学部	3	2.3%
13	四天王寺大学短期大学部	3	2.3%
14	華頂短期大学	3	2.3%
15	大手前短期大学	2	1.5%
16	関西外国語大学短期大学部	2	1.5%
17	聖和短期大学	2	1.5%
18	ブール学院短期大学	2	1.5%
19	大阪夕陽丘学園短期大学	1	0.8%
20	東大阪短期大学	1	0.8%
21	大阪音楽短期大学	1	0.8%
22	大阪健康保育短期大学	1	0.8%
23	大阪信愛女学院短期大学	1	0.8%
24	芦屋短期大学	1	0.8%
25	関西女子短期大学	1	0.8%
26	甲子園短期大学	1	0.8%
27	千代田短期大学	1	0.8%
28	和歌山信愛女子短期大学	1	0.8%
29	徳島文理短期大学	1	0.8%
30	島根県立短期大学	1	0.8%
31	兵庫短期大学	0	0.0%

平成26年度本学幼児教育学科入学生へのアンケート結果

上記は他校のオープンキャンパス参加者162人(資料32参照)のうち、他の短期大学のオープンキャンパスに参加した高校生の学校別参加件数

(資料28)競合校の募集状況

近隣等の競合短期大学

(平成26年度募集)

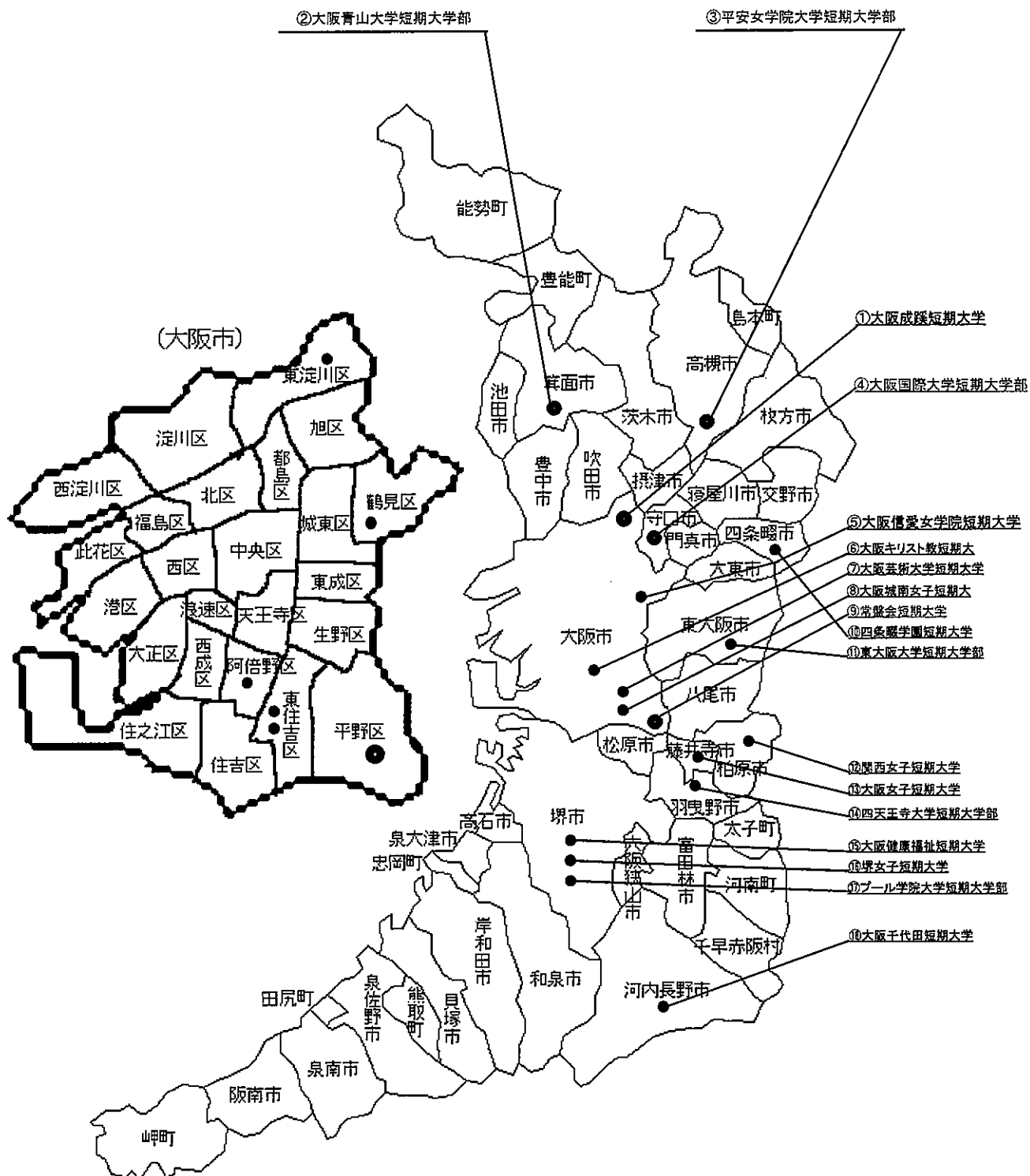
(単位:人、%)

学校名	学科	入学定員 (A)	志願者数 (B)	受験者数	合格者数	入学者数 (C)	志願倍率 (B)/(A)	定員充足率 (C)/(A)
大阪成蹊短期大学(大阪市東淀川区)	幼児教育学科	240	412	405	262	251	1.72	104.6
大阪国際大学短期大学部(守口市)	幼児保育学科	180	-	-	-	161	-	89.4
大阪青山大学短期大学部(箕面市)	幼児教育・保育科	100	-	-	-	95	-	95.0
平安女学院大学短期大学部(高槻市)	保育科	100	-	-	-	86	-	86.0
常盤会短期大学(大阪市平野区)	幼児教育科	300	351	349	338	329	1.17	109.7
合計		920	-	-	-	922	-	100.2

※各校のホームページより引用

(資料29) 大阪府内の幼稚園教員、保育士養成の教育を行う短期大学の所在地を示す地図

- 本学所在地
- 近隣短期大学所在地
- 上記以外の大阪府内幼稚園教員・保育士養成校(短期大学)所在地



(資料30) 本学の近隣都市及び交通の利便性等を考慮した地域の高校在籍者数

大阪市については、本学及び常磐会短期大学が大阪市内の入学定員1130人のうち約半数の540人を占めていることから、大阪市の高校在籍者数83,222人のうち半数の41,611人を対象として計上している。

(単位:人)

大阪市(半数)	41,611
豊中市	9,969
池田市	3,994
吹田市	8,510
高槻市	8,988
守口市	4,236
茨木市	9,405
箕面市	2,804
摂津市	2,976
合計 (A)	92,493
大阪府全域 (B)	236,529
(A)/(B) (%)	39.1%

大阪府/平成26年度「大阪の学校統計」より作表

(資料31) 本学オープンキャンパス参加者数及び構成比率

選 択 肢	回答数	構成比(%)
本学オープンキャンパスに参加した	233	92.8
1回参加した	94	37.5
2回以上参加した	139	55.4
参加しなかった	17	6.8
無回答	1	80.0
合 計	251	100.0

平成26年度本学幼児教育学科新入生へのアンケート結果

(資料32) 本学以外の大学、短期大学等のオープンキャンパス参加者数及び構成比率

選 択 肢	回答数	構成比(%)
他校のオープンキャンパスに参加した	162	64.5
1～3校参加した	147	58.6
4校以上参加した	15	6.0
参加しなかった	84	33.5
無回答	5	2.0
合 計	251	100.0

平成26年度本学幼児教育学科新入生へのアンケート結果

(資料33) 本学以外の大学、短期大学への受験者数

選択肢	回答数	構成比(%)
受験した	11	4.4
受験しなかった	237	94.0
無回答	3	1.6
合計	251	100.0

平成26年度本学幼児教育学科新入生へのアンケート結果

(資料34) 本学の近隣等競合短期大学の偏差値

学校名	偏差値
大阪成蹊短期大学	44
大阪青山大学短期大学部	43
平安女学院大学短期大学部	45
大阪国際大学短期大学部	43
常盤会短期大学	44

※上記偏差値はベネッセマナビジョンのホームページから引用
 進研模試合格可能性判定基準 総合学力マーク模試・2014年6月実施
 (高3生・高卒生)に基づいた偏差値一覧

(資料35) 全国の短期大学人文系学科の状況(平成22年度～26年度)

(単位:人、倍、%)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入学定員(A)	7,710	7,380	6,615	6,040	5,760
志願者数(B)	13,731	11,464	8,944	9,116	9,364
志願倍率(B)/(A)	1.78	1.55	1.35	1.51	1.63
入学者数(C)	7,110	6,119	5,140	5,146	5,065
入学定員充足率(C)/(A)	92.22	82.91	77.70	85.20	87.93

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度版～26年度版より作成

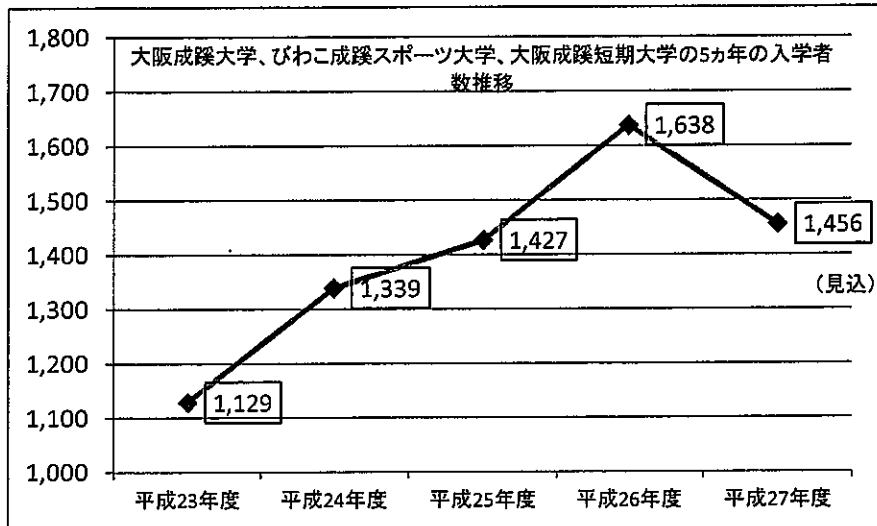
(資料36) 全国の短期大学社会系学科の状況(平成22年度～26年度)

(単位:人、倍、%)

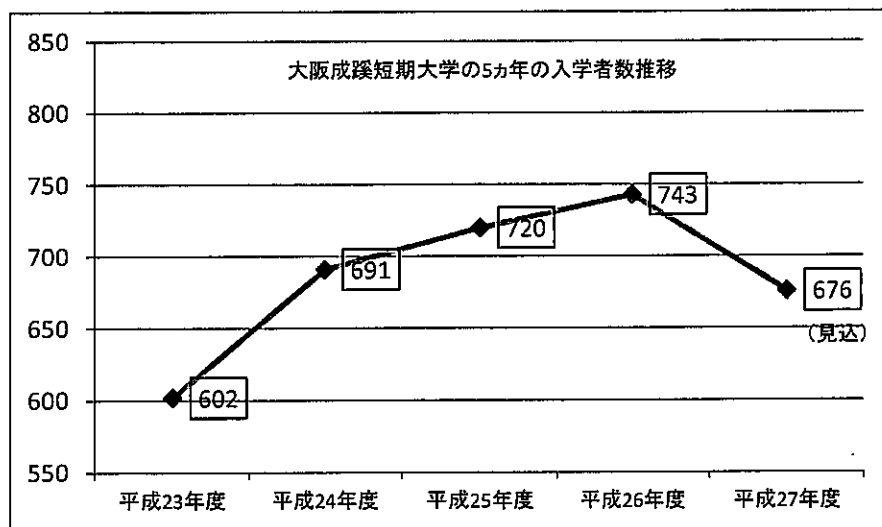
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入学定員(A)	8,817	8,310	7,510	6,930	6,400
志願者数(B)	11,462	9,868	8,529	8,454	7,420
志願倍率(B)/(A)	1.30	1.19	1.14	1.22	1.16
入学者数(C)	8,187	6,991	5,962	5,896	5,159
入学定員充足率(C)/(A)	92.85	84.13	79.39	85.08	80.61

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度版～26年度版より作成

(資料37-1) 大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、
大阪成蹊短期大学の3大学合計の入学者数推移



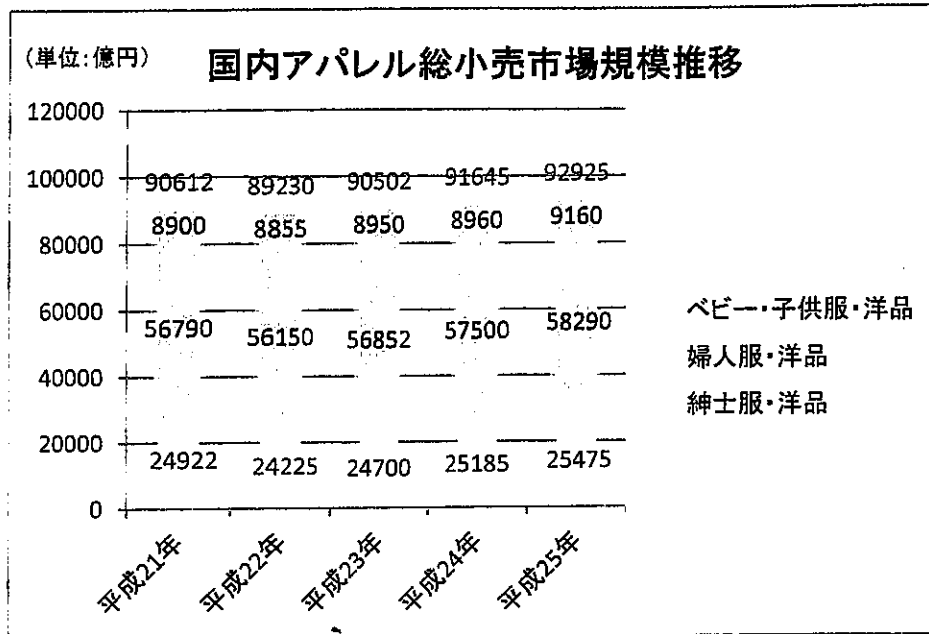
(資料37-2) 大阪成蹊短期大学の入学者数推移



(資料38) 併設高校から本学各学科への内部進学者数推移 (平成23年度～27年度入学)(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (見込)
総合生活学科	4	19	21	45	56
生活デザインコース	0	2	5	6	13
食物コース	4	9	12	25	30
栄養コース	0	8	4	14	13
幼児教育学科	39	33	65	67	86
観光学科	2	7	5	15	18
グローバルコミュニケーション学科	0	4	3	11	3
経営会計学科	1	3	1	10	6
合計	46	66	95	148	169

(資料39) 国内アパレル総小売市場規模推移



矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果2014」より作成

織研

No.1ファッションビジネス専門紙

[ホーム](#) > [ニュース](#)

【総合】売り手市場が顕著、厳しい採用環境

2014年9月5日 09:04

マイナビとMORIパーソネル・クリエイツは、共同で運営する「FB（ファッションビジネス）就職セミナー」（「マイナビ2015」と共催）で今年3回目となる秋の陣を開く。対象は来春の新卒者と既卒者、外国人留学生。秋口に業界特化型の新卒者向け合同企業説明会を開く例は珍しいが、販売職の人材不足などを背景に一昨年から開いている。6日に東京、8日に大阪で開催する。

FB就職セミナーはFB業界最大の新卒採用イベントで、例年2月前半に東京、大阪、名古屋で実施している。売り手市場の傾向が強まった昨年から6月ごろに夏の陣も開き、春、夏、秋の3回に開催を増やしている。

今年は2月の出展企業数が3会場合計で過去最高となり、採用意欲が高まっている半面、来場者数は前年比で東京10%減、大阪15%減、名古屋は20%以上減少し、「より売り手市場の傾向が顕著」と主催者は危機感を募らせる。

有効求人倍率も昨年11月から1.0以上に回復し、今年6月から1.1を上回る中、「金融や商社など大手も含めて全体に採用を増やす中、内勤と比べて労働条件の厳しい店頭での販売職を学生が避け、他業界や一般職に流れる傾向が強い。活発な商業施設の開発を背景に新規出店の条件は広がっているのに、飲食やFB業界は採用が厳しい」という。

FB業界は経験者の募集で人が集まらなくなり、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えている。FB就職セミナーの2回目は東京が17社、大阪が限定10社が出展、3回目は東京11社、大阪が全産業の合同説明会内のゾーン出展で3社が出展予定だ。

東京は、春から3回連続で参加のフランドル、シュガー・マトリックス、クロスカンパニー、出店拡大中のアーバンリサーチ、太手との競合が激しい春と夏は出なかった呉服やジュエリーの中小企業も出展する。本気度の強い学生が集まり、採用に至る率が高いため、出展企業は正式に内定を出す10月を控えて採用を増やしたい考えだ。

(資料 41)大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科(平成 28 年 4 月 届出設置予定)の構想に係るアンケート調査

平成 27 年 1 月

採用ご担当者各位

大阪成蹊短期大学 就職部

大阪成蹊短期大学

生活デザイン学科（平成 28 年 4 月 届出設置予定）に関するアンケート調査のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて現在大阪成蹊短期大学では、総合生活学科生活デザインコースの教育内容、指導法、環境等を一層充実させ、平成 28 年 4 月に「生活デザイン学科」を設置するため、文部科学省へ届出申請を行う準備を進めております。

新学科では「デザイナー」「パタンナー」「スタイリスト」「コーディネーター」など、アパレル・ファッション業界で活躍できる人材の育成をめざします。現在の学びの特色を生かしつつ、新学科において更なる特色化を構想しております。

社会人基礎力、人間力を身につけた多様な人材を育て、社会に送り出していきたいと考えております。

こうした新学科の設置に関し、文部科学省への届出申請に際しまして、企業様の採用等社会のニーズ調査の必要があります。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、別紙アンケート調査にご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本アンケートで得られた情報は、文部科学省への申請資料として活用するのみであり、その他の目的に使用することはございません。

何卒、ご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

以上

大阪成蹊短期大学生生活デザイン学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査

貴社名：_____

Q 1. 大阪成蹊短期大学生生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？
（あてはまるもの1つに○を、1. を選択する場合には予定人数をご記入ください）

- 1. 採用したい（予定人数： 人）
- 2. どちらとも言えない
- 3. 採用しない

Q 2. 貴社が採用する学生に求めるものは何ですか？
（あてはまるもの全てに○をご記入ください）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 |
| 3. 専門的な知識 | 4. 社会常識 |
| 5. 積極的な行動力 | 6. 仕事への積極性 |
| 7. チームで働く力 | 8. 主体性 |
| 9. 目標達成への意欲 | 10. 課題解決能力 |
| 11. 忍耐力 | 12. ボランティアでの経験など |
| 13. 取得資格 | 14. その他（ ） |

ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊短期大学 就職部

生活デザイン学科 企業アンケート回収状況

2015/2/25

	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
1	㈱オンワード樫山 大阪支店	アパレル	未上場	資本金:50億円 売上高:1553億円 従業員数:5355名 採用実績:09年1名、10年2名	4
2	㈱ワールドストアパートナーズ	アパレル	未上場	資本金:3000万円 売上高:3137億3700万円 従業員数:13806名 採用実績:12年3名、13年2名、14年1名	5
3	㈱ジョイックスコーポレーション	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:283億円 従業員数:1005名 採用実績:13年1名	2
4	ジャヴァグループ	アパレル	未上場	資本金:5億7600万円 売上高:455億1800万円 従業員数:2397名 採用実績:05年1名	4
5	㈱サンエーインターナショナル	アパレル	未上場	資本金:1億円 売上高:1028億5900万円 従業員数:770名 採用実績:05年2名、12年1名	3
6	㈱バロックジャパンリミテッド	アパレル	未上場	資本金:39億円 従業員数:1192名 採用実績:10年2名、11年1名、12年1名	1
7	㈱シティーヒル	アパレル	未上場	資本金:6000万円 売上高:125億円 従業員数:732名 採用実績:10年1名、12年1名、14年2名	1
8	㈱クロスカンパニー	アパレル	未上場	資本金:1億円 売上高:784億円 従業員数:2250名 採用実績:11年3名、12年2名、14年5名	3
9	㈱ナルミヤ・インターナショナル	アパレル	未上場	資本金:6億2055万円 売上高:154億円 従業員数:1144名 採用実績:12年2名、13年2名、14年1名	1
10	㈱F・Oインターナショナル	アパレル	未上場	資本金:1000万円 売上高:255億6800万円 従業員数:750名 採用実績:14年1名	1
11	双日インフィニティ㈱	アパレル	未上場	資本金:29億48000万円 従業員数:540名 採用実績:なし	3
12	㈱ジャパンイマジネーション	アパレル	未上場	資本金:6100万円 売上高:337億円 従業員数:1105名 採用実績:12年1名、13年3名、14年3名	10
13	㈱パル	アパレル	東証1部上場	資本金:31億8100万円 売上高:100億円 従業員数:2422名 採用実績:12年2名、13年1名、14年4名	10
14	㈱アングローバル	アパレル	未上場	資本金:8000万円 売上高:112億6800万円 従業員数:384名 採用実績:なし	1
15	㈱フランドル	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:325億円 従業員数:1647名 採用実績:07年4名、08年1名、14年3名	3
16	アッシュ・ペー・フランス㈱	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:110億円 従業員数:650名 採用実績:08年1名、07年2名	6
17	㈱ファミリア	子供服用品	未上場	資本金:6000万円 売上高:142億円 従業員数:685名 採用実績:13年1名	1
18	㈱オリーブ・デ・オリーブ	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:74億円 従業員数:251名 採用実績:12年1名、13年1名	5
19	大松(株)	アパレル	未上場	資本金:1億2000万円 売上高:75億3000万円 従業員数:197名 採用実績:07年2名	2
20	啓明商事㈱	和装専門商社	未上場	資本金:2088万円 売上高:6億8000万円 従業員数:28名 採用実績:06年1名	1
21	ゴールドフラッグ㈱	インナーウェア	未上場	資本金:1000万円 売上高:33億8500万円 従業員数:118名 採用実績:なし	2
22	(株)ミルク	貴金属・宝石製造販売	未上場	資本金:2000万円 売上高:40億円 従業員数:118名 採用実績:07年1名	1
23	㈱カミオジャパン	雑貨企画・製造・販売	未上場	資本金:7890万円 売上高:43億円 従業員数:145名 採用実績:09年1名、13年1名	2
24	㈱そごう・西武 西武高槻店	百貨店	未上場	資本金:100億円 売上高:8347億2300万円 従業員数:214名 採用実績:12年2名、13年4名、14年1名	2
25	寺内㈱	総合御売商社	未上場	資本金:5億1000万円 売上高:202億円 従業員数:685名 採用実績:06年1名、09年1名	3
26	㈱神戸岡本プロフィール	婦人服販売	未上場	資本金:300万円 売上高:16億7000万円 従業員数:140名 採用実績:14年1名	3
27	㈱大丸松坂屋セールスアソシエーツ	百貨店	未上場	資本金:8000万円 売上高:10億2600万円 従業員数:2836名 採用実績:12年1名、13年2名、14年1名	3
	合計				83

大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？

1. 採用したい 27社(予定人数:83人)
 2. どちらとも言えない 2社
 3. 採用しない 0社



(資料42) 過去3カ年の総合生活学科各コース別就職率推移
(平成24年度、25年度卒業生及び26年度卒業見込者)

(単位: %)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
生活デザインコース	96.7	96.9	100
食物コース	96.6	96.9	100
栄養コース	98.5	98.9	100

(資料43) 外食産業市場規模(平成23年(2011)～平成25年(2013))

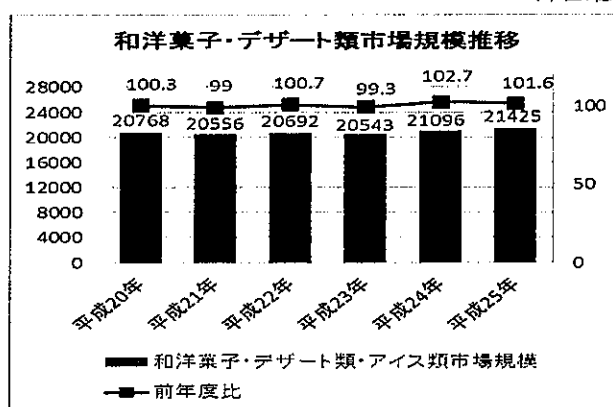
(単位:億円)

	平成23年	平成24年	平成25年
外食産業計	228,282	232,314	239,046

公益財団法人食の安心・安全財団附属機関外食産業総合調査研究センターの推計による「外食産業市場規模」より引用

(資料44) 和菓子・デザート類市場に関する調査結果

(単位:億円)



矢野経済研究所「和洋菓子・デザート類市場に関する調査結果2013,2014」より作成

(資料45) 外国人観光客が訪日前に期待すること(複数回答可)

	平成21年	比率: %	平成22年	比率: %
1	日本の食事	58.5	食事	62.5
2	ショッピング	48.5	ショッピング	53.1
3	温泉	43.4	歴史的・伝統的な景観、旧跡	45.8
4	自然景観、田園風景	41.8	自然、四季、田園風景	45.1
5	伝統的な景観、旧跡	37.6	温泉	44.3

JNTO「訪日外客訪問地調査(2010)」(平成23年発表)

(資料 46) 大阪成蹊短期大学 調理・製菓学科(平成 28 年 4 月 届出設置予定)
構想に係るアンケート調査

平成 27 年 1 月

採用ご担当者各位

大阪成蹊短期大学 就職部

大阪成蹊短期大学

調理・製菓学科(平成 28 年 4 月 届出設置予定)に関するアンケート調査のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて現在大阪成蹊短期大学では、総合生活学科食物コースの教育内容、指導法、環境等を一層充実させ、平成 28 年 4 月に「調理・製菓学科」を設置するため、文部科学省へ届出申請を行う準備を進めております。

新学科では、これまでの料理、カフェ、製菓や接客、食空間のコーディネーターなどの「食」に関する多様な学びはそのままに、「調理師」「フードコーディネーター」に加え、新たに「製菓衛生師」の資格取得を可能にするなど、更なる教育の充実を図ります。現在の学びの特色を生かしつつ、新学科において更なる特色化を構想しております。

社会人基礎力、人間力を身につけた多様な人材を育て、社会に送り出していきたいと考えております。

こうした新学科の設置に関し、文部科学省への届出申請に際しまして、企業様の採用等社会のニーズ調査の必要があります。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、別紙アンケート調査にご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本アンケートで得られた情報は、文部科学省への申請資料として活用するのみであり、その他の目的に使用することはございません。

何卒、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

以上

大阪成蹊短期大学調理・製菓学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査

貴社名：_____

Q 1. 大阪成蹊短期大学調理・製菓学科の卒業生を採用する可能性はありますか？
（あてはまるもの1つに○を、1.を選択する場合には予定人数をご記入ください）

- 1. 採用したい（予定人数： 人）
- 2. どちらとも言えない
- 3. 採用しない

Q 2. 貴社が採用する学生に求めるものは何ですか？
（あてはまるもの全てに○をご記入ください）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 |
| 3. 専門的な知識 | 4. 社会常識 |
| 5. 積極的な行動力 | 6. 仕事への積極性 |
| 7. チームで働く力 | 8. 主体性 |
| 9. 目標達成への意欲 | 10. 課題解決能力 |
| 11. 忍耐力 | 12. ボランティアでの経験など |
| 13. 取得資格 | 14. その他（ ） |

ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊短期大学 就職部

調理・製菓学科 企業アンケート回収状況

2015/2/25

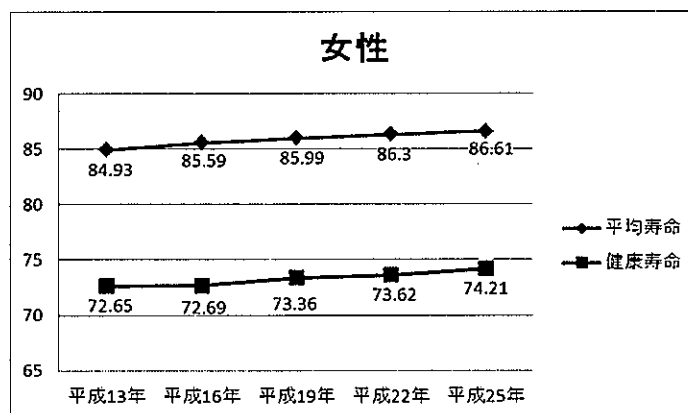
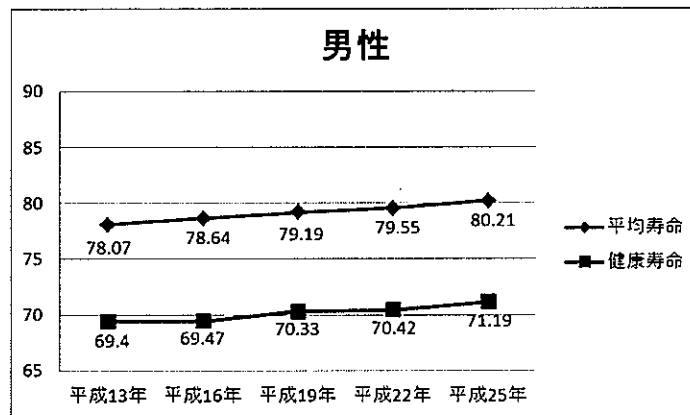
	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
1	(株)WDI JAPAN	レストラン・カフェ	未上場	資本金:1000万円 売上高:170億円 従業員:535名 採用実績:13年1名、14年1名	10
2	エームサービス(株)	給食	未上場	資本金:19億900万円 売上高:1146億4600万円 従業員:4013名 採用実績:13年1名、14年5名	10
3	うおまん(株)	飲食	未上場	資本金:2650万円 従業員数:757名 採用実績:12年1名、14年1名	5
4	中央フードサービス(株)	給食	未上場	資本金:2600万円 売上高:83億円 従業員:1700名 採用実績:07年1名、09年1名	5
5	(株)魚国総本社	給食	未上場	資本金:2億8600万円 売上高:626億円 従業員:18115名 採用実績:10年1名、13年1名	1
6	シダックス(株)	給食	ジャスダック	資本金:107億8100万円 売上高:1815億8300万円 従業員数:10290名 採用実績:12年1名、14年1名	5
7	(株)フクナガ	飲食	未上場	資本金:9800万円 売上高:60億5400万円 従業員数:143名 採用実績:09年1名	2
8	(株)くらコーポレーション	回転寿司	未上場	資本金:20億532万円 売上高:881億4484万円 従業員数:1030名 採用実績:09年1名	1
9	富士産業(株) 神戸事業部	給食	未上場	資本金:4億4000万円 売上高:446億7300万円 従業員数:1653名 採用実績:なし	1
10	(株)美々卵	飲食	未上場	資本金:1億円 売上高:40億円 従業員数:580名 採用実績:14年2名	1
11	日本KFCホールディングス(株)	飲食	東証1部	資本金:72億8750万円 売上高:778億6500万円 従業員数:1028名 採用実績:なし	5
12	(株)ミルフィーユ	洋菓子製造・販売	未上場	資本金:1000万円 売上高:7億円 従業員数:120名 採用実績:13年1名	5
13	(株)ケアフードサービス	給食	未上場	従業員数:200名 採用実績:12年2名	2
14	カラビナフードワークス(株)	飲食	未上場	資本金:1200万円 従業員数:45名 採用実績:14年2名	2
15	(株)神戸屋	パン・菓子製造・販売	未上場	資本金:11億8700万円 売上高:555億5500万円 従業員数:1403名 採用実績:14年3名	3
16	(株)治元	飲食店	未上場	資本金:4900万円 売上高:44億円 従業員数:125名 採用実績:なし	5
17	ホロニクスヘルスケア(株)	給食	未上場	資本金:9000万円 売上高:822億6500万円 従業員数:650名 採用実績:14年1名	1
18	日清医療食品(株) 関西支店	給食	未上場	資本金:1億円 売上高:1789億3100万円 従業員:4098名 採用実績:13年9名、14年19名	10
19	(株)アスモフードサービス 大阪営業所	給食	未上場	資本金:1000万円 従業員数:1917名 採用実績:なし	2
20	(株)LEOC 関西支店	給食	未上場	資本金:5000万円 売上高:570億円 従業員:14000名 採用実績:なし	2
21	南陽食品(株)	学校給食・食堂	未上場	資本金:1500万円 従業員:516名 採用実績:なし	1
22	日清医療食品(株) 近畿支店	給食	未上場	資本金:1億円 売上高:1868億円 従業員:2473名 採用実績:13年3名、14年3名	2
23	(株)ゲート	給食	未上場	資本金:2000万円 売上高:3億円 従業員数:80名 採用実績:11年1名、13年1名、14年2名	3
24	(株)オペレーションファクトリー	飲食店	未上場	資本金:4700万円 売上高:55億5500万円 従業員数:276名 採用実績:13年3名、14年5名	5
25	富士産業(株) 関西事業部	給食	未上場	資本金:4億4084万円 売上高:683億2100万円 従業員数:18562名 採用実績:13年1名、14年3名	3
26	(株)東洋食品 関西事業部	給食	未上場	資本金:3000万円 従業員数:7300名 採用実績:12年1名、13年1名、14年1名	5
27	(株)かわべフードサービス	飲食	未上場	資本金:5000万円 従業員:1400名 採用実績:10年1名	2
28	(株)エムアンドエムフーズ	飲食	未上場	資本金:300万円 売上高:8億8000万円 従業員数:130名 採用実績:09年1名	10
29	(株)ワン・ダイニング	焼肉店	未上場	資本金:3億1500万円 売上高:185億659万円 従業員数:5237名 採用実績:12年1名	10
30	(株)テストイパル	給食	未上場	資本金:4500万円 売上高:68億円 従業員数:1800名 採用実績:12年3名、13年3名、14年1名	3
31	(株)音羽	和食・寿司	未上場	資本金:5000万円 売上高:48億5400万円 従業員数:1000名 採用実績:なし	5

	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
32	一富士フードサービス㈱	給食	未上場	資本金:1000万円 売上高:277億円 従業員数:8703名 採用実績:12年1名、13年2名、14年2名	5
33	イフスコヘルスケア㈱	給食	未上場	資本金:3000万円 売上高:2480名 採用実績:11年1名、13年1名	5
34	アイコン㈱	外食・飲食	未上場	資本金:4000万円 売上高:14億1000万円 従業員数:47名 採用実績:なし	10
35	大王フードサービス㈱	給食	未上場	資本金:5000万円 採用実績:06年1名、07年1名	2
36	㈱東テスティパル	給食	未上場	資本金:2000万円 売上高:29億円 従業員数:820名 採用実績:11年1名、12年2名、14年1名	3
37	㈱王将フードサービス	中華レストラン	東証1部	資本金:81億6800万円 売上高:756億9100万円 従業員数:2045名 採用実績:10年3名	5
38	富士産業㈱ 京都事業部	給食	未上場	資本金:4億4000万円 売上高:653億2100万円 従業員数:10127名 採用実績:14年1名	3
39	日本誠食㈱	給食	未上場	資本金:3000万円 従業員数:120名 採用実績:14年1名	2
40	㈱そごう・西武 西武高槻店	百貨店	未上場	資本金:100億円 売上高:8347億2300万円 従業員数:214名 採用実績:12年2名、13年4名、14年1名	2
41	ホテルニューアワジグループ	ホテル	未上場	資本金:2000万円 売上高:100億円 従業員数:1113名 採用実績:13年2名、14年2名	5
42	京都ブライhtonホテル㈱	ホテル	未上場	資本金:3000万円 従業員数:257名 採用実績:08年1名	1
43	オリックス・ゴルフ・マネジメント合同会社 ホテル ユニバーサルポート	ホテル	未上場	従業員数:220名 採用実績:14年1名	2
44	㈱京都ホテル	ホテル	東証2部	資本金:9億8900万円 売上高:104億7500万円 従業員数:418名 採用実績:13年1名	1
45	㈱ノバレーゼ	ブライダル	東証1部	資本金:6億800万円 売上高:136億9400万円 従業員数:1217名 採用実績:14年2名	5
46	㈱神戸ポートピアホテル	ホテル	未上場	資本金:45億円 売上高:85億円 従業員数:420名 採用実績:13年1名、14年1名	1
47	㈱近鉄ホテルシステムズ シェラトン都ホテル大阪	ホテル	未上場	資本金:1億円 売上高:28億円 従業員数:119名 採用実績:10年1名、13年1名	3
48	和歌山ターミナルビル㈱	ホテル	未上場	資本金:10億円 従業員数:124名 採用実績:13年1名、14年1名	2
49	㈱アゴーラ・ホテルマネジメント堺	ホテル	未上場	資本金:5700万円 従業員数:165名 採用実績:14年1名	3
50	シップヘルケアフード㈱	病院・施設	未上場	資本金:1000万円 売上高:33億4000万円 従業員数:695名 採用実績:12年1名、13年1名、14年1名	1
51	エンド商事㈱	業務用・外食産業の御売	未上場	資本金:2000万円 売上高:200億円 従業員数:200名 採用実績:14年2名	3
52	㈱阪急阪神ホテルズ	ホテル	未上場	資本金:1000万円 売上高:456億8500万円 従業員数:2018名 採用実績:11年1名、12年2名、14年5名	5
	合計				196

大阪成蹊短期大学 調理・製菓学科の卒業生を採用する可能性はありますか？

1. 採用したい 52社(予定人数:196人)
2. どちらとも言えない 6社
3. 採用しない 1社

(資料47) 日本における男女別の平均寿命及び健康寿命の推移



平成26年10月1日厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会「第2回健康日本21(第2次)推進専門委員会」より作成

**(資料 48)大阪成蹊短期大学 栄養学科(平成 28 年 4 月 届出設置予定)構想に係る
アンケート調査**

平成 27 年 1 月

採用ご担当者各位

大阪成蹊短期大学 就職部

大阪成蹊短期大学

栄養学科(平成 28 年 4 月 届出設置予定)に関するアンケート調査のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて現在大阪成蹊短期大学では、総合生活学科栄養コースの教育内容、指導法、環境等を一層充実させ、平成 28 年 4 月に「栄養学科」を設置するため、文部科学省へ届出申請を行う準備を進めております。

新学科では「栄養士」や「栄養教諭」の養成を中心に、栄養と健康の視点から「食」をとらえ、活躍できる人材を育成します。現在の栄養コースでの学びの特色を生かして、新学科の学びの更なる特色化を構想しています。

社会人基礎力、人間力を身につけた多様な人材を育て、社会に送り出していきたいと考えております。

こうした新学科の設置に関し、文部科学省への届出申請に際しまして、企業様の採用等社会のニーズ調査の必要があります。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、別紙アンケート調査にご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本アンケートで得られた情報は、文部科学省への申請資料として活用するのみであり、その他の目的に使用することはございません。

何卒、ご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

以上

大阪成蹊短期大学栄養学科（平成28年4月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査

貴社名：_____

Q 1. 大阪成蹊短期大学栄養学科の卒業生を採用する可能性はありますか？
（あてはまるもの1つに○を、1.を選択する場合には予定人数をご記入ください）

- 1. 採用したい（予定人数： 人）
- 2. どちらとも言えない
- 3. 採用しない

Q 2. 貴社が採用する学生に求めるものは何ですか？
（あてはまるもの全てに○をご記入ください）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 基礎的な学力 |
| 3. 専門的な知識 | 4. 社会常識 |
| 5. 積極的な行動力 | 6. 仕事への積極性 |
| 7. チームで働く力 | 8. 主体性 |
| 9. 目標達成への意欲 | 10. 課題解決能力 |
| 11. 忍耐力 | 12. ボランティアでの経験など |
| 13. 取得資格 | 14. その他（ ） |

ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊短期大学 就職部

栄養学科 企業アンケート回収状況

2015/2/25

	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
1	㈱万福	給食	未上場	資本金:1000万円 従業員:275名 採用実績:09年1名、10年1名	1
2	日清医療食品㈱ 関西支店	給食	未上場	資本金:1億円 売上高:1789億2100万円 従業員:40388名 採用実績:13年8名、14年18名	20
3	シダックス㈱	給食	ジャスダック	資本金:107億8100万円 売上高:1915億8300万円 従業員数:10290名 採用実績:12年1名、14年1名	3
4	ホロニクスヘルスケア㈱	給食	未上場	資本金:9000万円 売上高:822億6800万円 従業員数:680名 採用実績:14年1名	1
5	㈱グリーンハウス	給食	未上場	資本金:21億4300万円 売上高:927億円 従業員数:217名 採用実績:13年2名、14年3名	3
6	(株)アスモフードサービス 大阪営業所	給食	未上場	資本金:1000万円 従業員数:1617名 採用実績:なし	2
7	㈱LEOC 関西支店	給食	未上場	資本金:5000万円 売上高:570億円 従業員:14000名 採用実績:なし	2
8	南陽食品㈱	学校給食・食堂	未上場	資本金:1500万円 従業員:516名 採用実績:なし	1
9	日清医療食品㈱ 近畿支店	給食	未上場	資本金:1億円 売上高:1956億万円 従業員:2473名 採用実績:13年3名、14年3名	3
10	㈱ゲート	給食	未上場	資本金:2000万円 売上高:3億円 従業員数:80名 採用実績:11年1名、13年1名、14年2名	3
11	㈱ナリコマエンタープライズ	給食	未上場	資本金:5000万円 売上高:177億4800万円 従業員数:553名 採用実績:11年1名、12年1名、13年2名	7
12	㈱マルワ	給食	未上場	資本金:7000万円 売上高:47億円 従業員数:1100名 採用実績:12年1名、13年1名、14年2名	5
13	㈱塩梅なにわ	給食	未上場	資本金:2000万円 売上高:60億円 従業員数:1690名 採用実績:12年5名、13年7名、14年3名	3
14	㈱センダン	給食	未上場	資本金:5000万円 売上高:21億8330万円 従業員数:621名 採用実績:なし	2
15	マルタマフーズ㈱	食堂受託運営	未上場	資本金:4800万円 売上高:153億円 従業員数:7500名 採用実績:12年9名、13年11名、14年8名	10
16	富士産業㈱ 関西事業部	給食	未上場	資本金:4億4084万円 売上高:693億2100万円 従業員数:16582名 採用実績:13年1名、14年3名	3
17	㈱東洋食品 関西事業部	給食	未上場	資本金:3000万円 従業員数:7300名 採用実績:12年1名、13年1名、14年1名	5
18	エームサービス㈱	給食	未上場	資本金:19億800万円 売上高:1148億4600万円 従業員:4013名 採用実績:13年1名、14年5名	10
19	中央フードサービス㈱	給食	未上場	資本金:2800万円 売上高:93億円 従業員:1700名 採用実績:07年1名、09年1名	5
20	㈱魚国総本社	給食	未上場	資本金:2億8600万円 売上高:626億円 従業員:18119名 採用実績:10年1名、13年1名	1
21	富士産業㈱ 神戸事業部	給食	未上場	資本金:4億4000万円 売上高:448億7800万円 従業員数:16583名 採用実績:なし	2
22	㈱ケアフードサービス	給食	未上場	従業員数:200名 採用実績:12年2名	2
23	阪神給食㈱	給食	未上場	資本金:1000万円 従業員数:270名 採用実績:14年1名	5
24	㈱東紅給食	給食	未上場	資本金2200万円 従業員数:230名 採用実績:11年2名、12年1名	2
25	㈱テストィパル	給食	未上場	資本金:4500万円 売上高:66億円 従業員数:1600名 採用実績:12年2名、13年3名、14年1名	5
26	シップヘルケアフード㈱	病院・施設	未上場	資本金:1000万円 売上高:33億4000万円 従業員数:695名 採用実績:12年1名、13年1名、14年1名	2
27	一富士フードサービス㈱	給食	未上場	資本金:1000万円 売上高:277億円 従業員数:8703名 採用実績:12年1名、13年2名、14年2名	10
28	イフスコヘルスケア㈱	給食	未上場	資本金:3000万円 従業員:2460名 採用実績:11年1名、13年1名	10
29	㈱東テストィパル	給食	未上場	資本金:2000万円 売上高:26億円 従業員数:920名 採用実績:11年1名、12年2名、14年1名	10

	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
30	㈱メフオス 西日本	給食	未上場	資本金:10億9650万円 売上高:476億円 従業員数:15165名 採用実績:13年1名	6
31	富士産業㈱ 京都事業部	給食	未上場	資本金:4億4000万円 売上高:653億2100万円 従業員数:18127名 採用実績:14年1名	5
32	日本誠食㈱	給食	未上場	資本金:3000万円 従業員数:120名 採用実績:14年1名	2
33	㈱そごう・西武 西武高槻店	百貨店	未上場	資本金:100億円 売上高:8347億2300万円 従業員数:214名 採用実績:12年2名、13年4名、14年1名	2
34	㈱治元	飲食	未上場	資本金:4900万円 売上高:44億円 従業員数:125名 採用実績:なし	5
35	㈱近鉄ホテルシステムズ シェラトン都ホテル大阪	ホテル	未上場	資本金:1億円 売上高:28億円 従業員数:115名 採用実績:10年1名、13年1名	3
36	エンド商事㈱	食材卸売	未上場	資本金:2000万円 売上高:200億円 従業員数:200名 採用実績:14年2名	3
37	㈱王将フードサービス	中華レストラン	東証1部	資本金:81億6600万円 売上高:762億8100万円 従業員数:2045名 採用実績:10年3名	5
38	㈱オペレーションファクトリー	飲食店	未上場	資本金:4700万円 売上高:55億5800円 従業員数:276名 採用実績:13年3名、14年5名	5
39	イコン㈱	外食・飲食	未上場	資本金:4000万円 売上高:14億1000万円 従業員数:47名 採用実績:なし	10
40	㈱音羽	和食・寿司	未上場	資本金:5000万円 売上高:48億5400万円 従業員数:1000名 採用実績:なし	2
41	㈱ライフフーズ	外食・飲食	ジャスダック	資本金:18億3800万円 売上高:123億5000万円 従業員数:252名 採用実績:なし	3
42	㈱コロワイド東日本	飲食店	東証1部	資本金:140億3000万円 売上高:1464億4300万円 従業員数:2785名 採用実績:なし	2
	合計				191

大阪成蹊短期大学 栄養学科の卒業生を採用する可能性はありますか？

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 採用したい | 42社(予定人数:191人) |
| 2. どちらとも言えない | 2社 |
| 3. 採用しない | 0社 |

待機児童解消加速化プラン

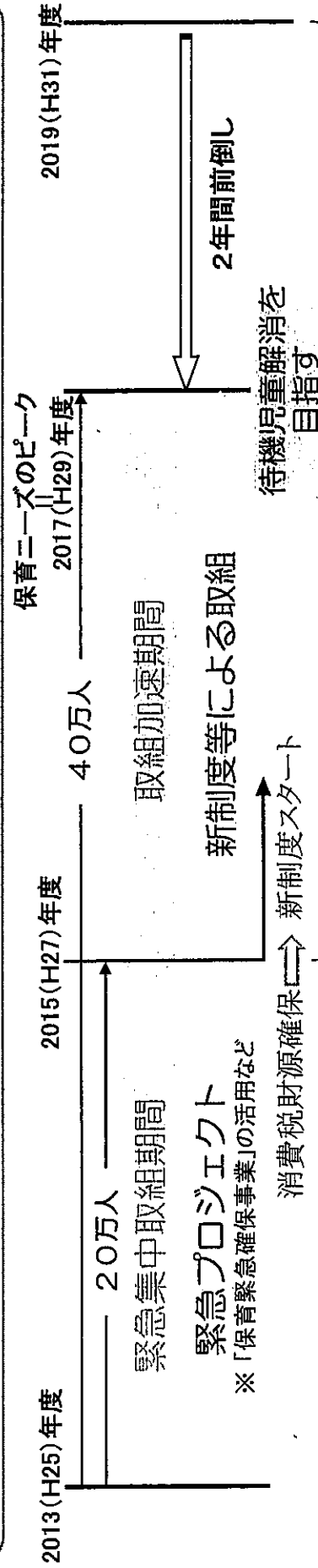
平成25年度補正予算・平成26年度予算ベース版

(第49頁)

- ◆待機児童の解消に向け、2年後の子ども・子育て支援新制度の施行を待たずに、地方自治体に対し、できる限りの支援策を講じる。
- ◆足下2年間の「緊急集中取組期間」と、新制度で弾みをつける「取組加速期間」で、待機児童の解消を図る。

- ▶「緊急集中取組期間」(平成25・26年度)で約20万人分の保育を集中的に整備できるよう、国として万全な支援を用意。
- ▶「取組加速期間」(平成27～29年度)で更に整備を進め、上記と合わせて、潜在的なニーズを含め、約40万人分の保育の受け皿を確保。
- ▶保育ニーズのピークを迎える平成29年度末までに待機児童解消を目指す。

※地方自治体が更にペースアップする場合にも対応。



市町村子ども・子育て支援事業計画の期間(2015～2019年度)

緊急プロジェクト

支援パッケージ ～5本の柱～

- ① 賃貸方式や国有地も活用した保育所整備（「ハコ」）
- ② 保育を支える保育士の確保（「ヒト」）
- ③ 小規模保育事業など新制度の先取り
- ④ 認可を目指す認可外保育施設への支援
- ⑤ 事業所内保育施設への支援

取組自治体

※保育緊急確保事業その他の消費税財源を用いた施策として行うほか、所要の財源を検討。

保育分野における人材不足の現状①

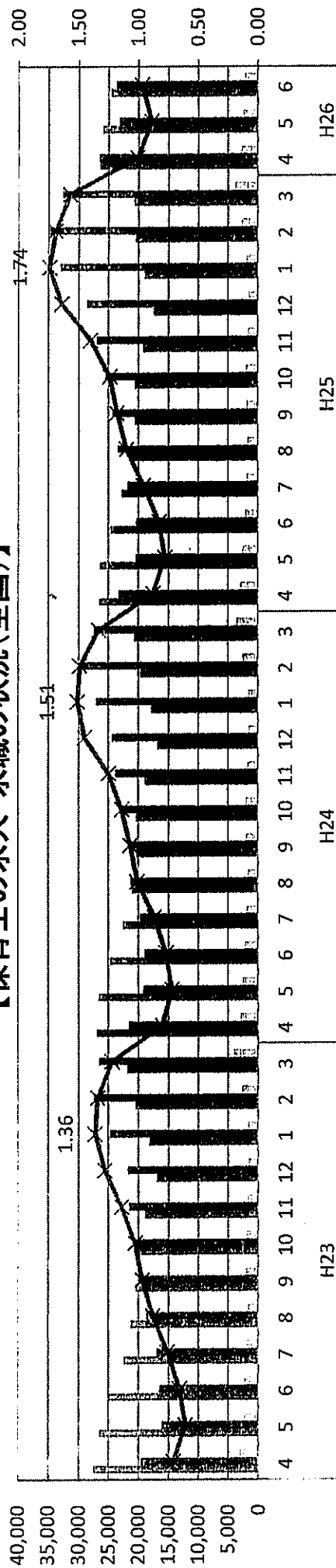
(資料50)

保育分野 (1. 現状と課題)

- 保育士の有効求人倍率は、1月頃にピークを迎え、平成26年1月では全国平均で1.74倍となっています。
- 平成25年度の新規求人倍率を見ると、9割超の都道府県において1倍を超えており、人手不足感が広がっています。

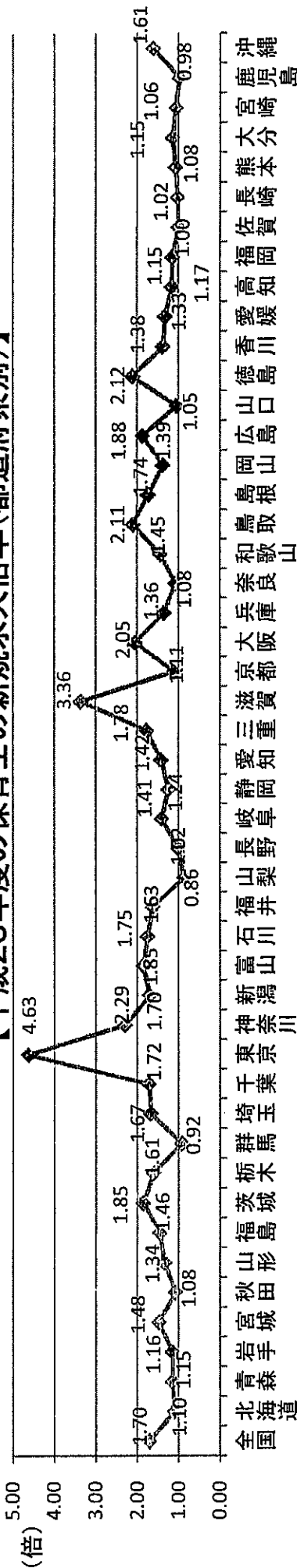
全国の状況

【保育士の求人・求職の状況(全国)】



都道府県別県の状況

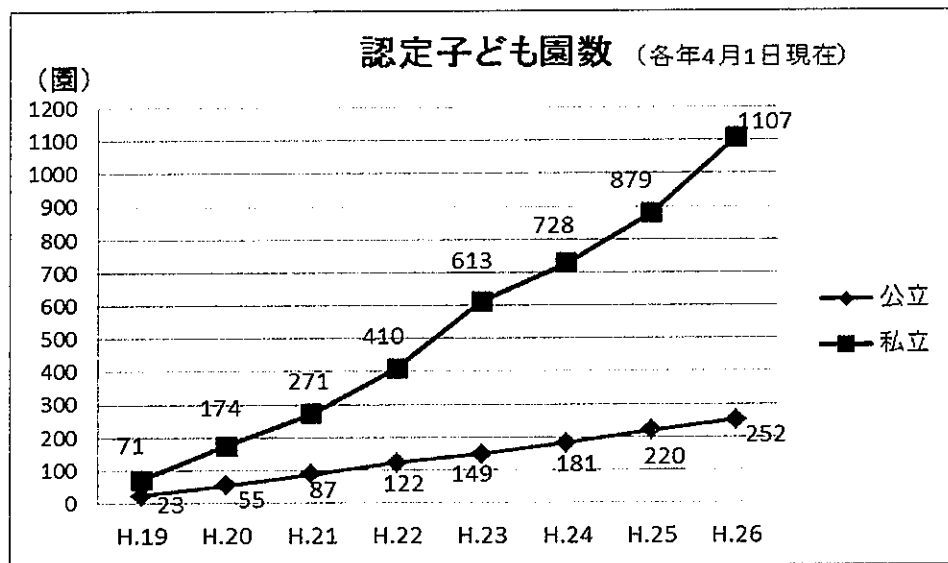
【平成25年度の保育士の新規求人倍率(都道府県別)】



【出典】厚生労働省「職業安定業務統計」

※新規求人倍率＝新規求人数／新規求職申込件数

(資料51) 認定子ども園数の推移



厚生労働省幼保連携推進室「認定子ども園の平成26年4月1日現在の認定件数について」
(各平成21年～25年度同発表資料)より作成

(資料52) 本務教員の平均勤続年数

(単位:年)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成16年度	10.5	20.2	18.5	18.7
平成19年度	10.5	20.2	19.1	19.4
平成22年度	10.3	19.6	19.0	19.3
平成25年度	10.3	19.0	18.4	19.0

文部科学省「学校教員統計調査」平成16年度、19年度、22年度調査及び平成25年度(中間報告)より

(資料53) 離職の理由別離職教員数

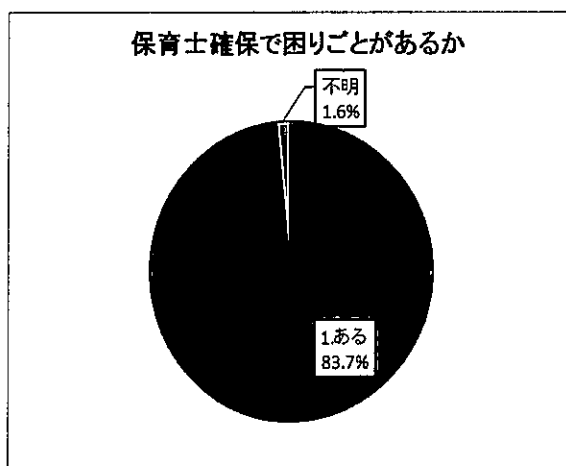
(単位:人、%)

区分	幼稚園				小学校			中学校			高等学校		
	計	構成比	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
計	11,710	100.0%	549	11,161	18,353	6,810	11,543	9,568	5,701	3,867	10,529	7,560	2,969
定年(勤奨を含む)のため	738	6.3%	65	673	12,040	4,611	7,429	5,119	3,324	1,795	5,493	4,464	1,029
病気のため	499	4.3%	38	461	600	218	382	396	207	189	277	182	95
病気のうち精神疾患のため	(218)	-	(13)	(205)	(356)	(124)	(232)	(227)	(117)	(110)	(124)	(76)	(48)
死亡	51	0.4%	18	33	194	113	81	152	118	34	158	127	31
転職のため	2,404	20.5%	168	2,236	1,380	900	480	1,194	901	293	1,354	911	443
大学等入学のため	75	0.6%	5	70	25	8	17	38	19	19	59	31	28
家庭の事情のため	3,715	31.7%	64	3,651	1,897	220	1,677	880	198	682	653	236	417
職務上の問題のため	178	1.5%	13	165	100	57	43	79	61	18	101	81	20
その他	4,050	34.6%	178	3,872	2,117	683	1,434	1,710	873	837	2,434	1,528	906

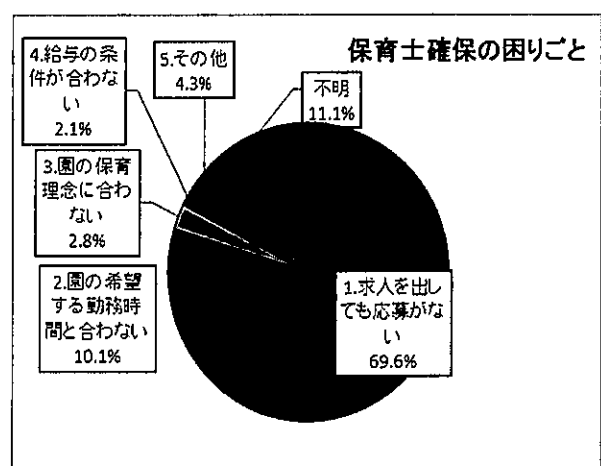
文部科学省「学校教員統計調査」平成25年度(中間報告)より

上記「病気のうち精神疾患のため」は、「病気のため」のうち数のため()で表記した

(資料54-1) 保育士確保での困りごとの有無



(資料54-2) 保育士確保での困りごとの内訳



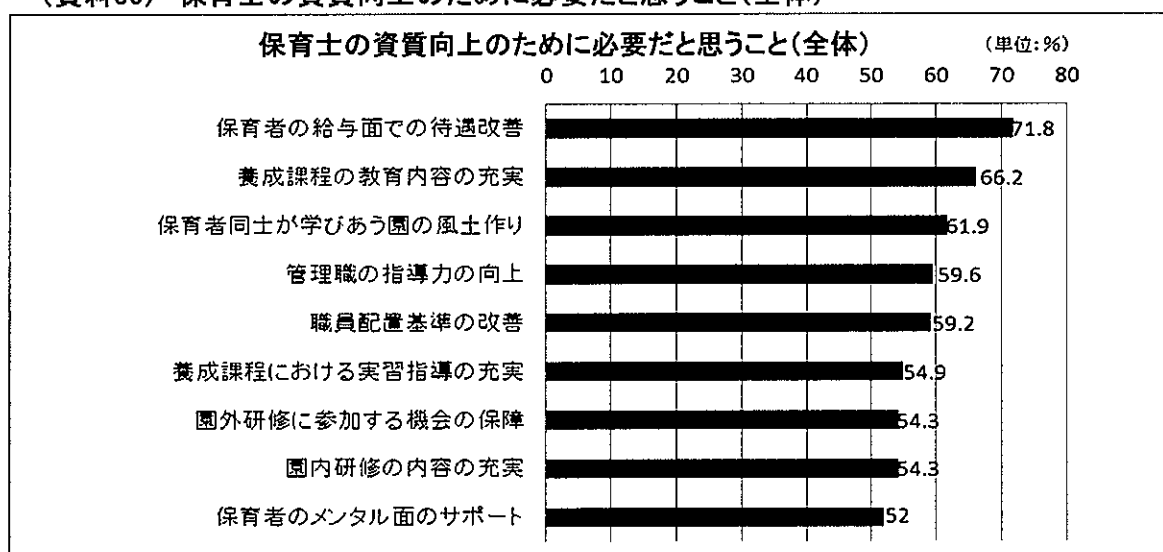
日本保育協会研究部「保育士不足が保育現場に与える影響についての報告書」より

(資料55) 園の保育実践上、運営上の課題のうち、もっとも重要な課題 (単位: %)

	1位		2位		3位		4位		5位	
全体	保育者の資質の維持、向上	21.8	保育者の確保	13.4	施設・設備の充実	7.5	予算(補助金、保育料など)の確保	7.3	新たな園児の獲得	7.1
国公立幼稚園	保育者の資質の維持、向上	23.0	施設・設備の充実	7.7	新たな園児の獲得	7.5	保育者の確保	6.8	障害のある子ども、特別に支援を要する子どもの対応	5.5
							安全、防犯の取組	6.8	園の統廃合	5.5
私立幼稚園	新たな園児の獲得	19.8	保育者の資質の維持、向上	18.1	予算(補助金、保育料など)の確保	11.3	施設・設備の充実	8.3	保育者の確保	6.8
公営保育所	保育者の資質の維持、向上	23.1	保育者の確保	15.2	園の統廃合	7.5	施設・設備の充実	6.5	障害のある子ども、特別に支援を要する子どもの対応	3.9
私営保育所	保育者の資質の維持、向上	22.1	保育者の確保	16.6	予算(補助金、保育料など)の確保	9.3	施設・設備の充実	7.8	新たな園児の獲得	4.8
認定子ども園	保育者の資質の維持、向上	23.0	予算(補助金、保育料など)の確保	12.2	保育者の確保	7.9	施設・設備の充実	5.8	新たな園児の獲得	4.3
									障害のある子ども、特別に支援を要する子どもの対応	4.3
									安全、防犯の取組	4.3

ベネッセ教育総合研究所「第2回 幼児教育・保育についての基本調査 報告書[2012年]」96頁より作成

(資料56) 保育士の資質向上のために必要だと思うこと(全体)



ベネッセ教育総合研究所「第2回 幼児教育・保育についての基本調査 報告書[2012年]」98頁より作成

(資料57) 保育士の資質向上のために必要だと思うこと(園の区分別) (単位: %)

	1位		2位		3位		4位		5位	
国公立幼稚園	養成課程の教育内容の充実	66.9	非正規雇用保育者の正規化	64.7	保育者同士が学び合う園の風土作り	64.0	園内研修の内容の充実	60.5	管理職の指導力の向上	60.1
私立幼稚園	保育者の給与面での待遇改善	77.2	養成課程の教育内容の充実	68.6	保育者同士が学び合う園の風土作り	60.6	管理職の指導力の向上	56.0	園内研修の内容の充実	55.3
公営保育所	職員配置基準の改善	72.6	非正規雇用保育者の正規化	67.7	養成課程の教育内容の充実	62.1	管理職の指導力の向上	61.2	保育者同士が学び合う園の風土作り	59.5
私営保育所	保育者の給与面での待遇改善	83.4	養成課程の教育内容の充実	67.2	職員配置基準の改善	65.3	保育者同士が学び合う園の風土作り	63.3	管理職の指導力の向上	60.1
認定子ども園	保育者の給与面での待遇改善	77.7	養成課程の教育内容の充実	69.1	保育者同士が学び合う園の風土作り	65.5	園外研修に参加する機会の保障	59.7	管理職の指導力の向上	59.0

ベネッセ教育総合研究所「第2回 幼児教育・保育についての基本調査 報告書[2012年]」98頁より作成

(資料58-1)

教育委員会等からの幼稚園教諭養成課程の入学定員増員及び

指定保育士養成施設の入学定員増員(拡充)についての要望について

大阪市教育委員会

吹田市教育委員会

豊中市長

池田市教育委員会

摂津市教育委員会

茨木市教育委員会

高槻市教育委員会

島本町教育委員会

豊能町教育委員会

能勢町教育委員会

箕面市教育委員会

東大阪教育委員会

川西市教育委員会

大市教委第 2584 号
平成 27 年 1 月 16 日

文部科学大臣 下村 博文 様

大阪市教育委員会
教育長 山本 晋次

大阪成蹊短期大学 幼児教育学科の入学定員増員について（副申）

学校法人大阪成蹊学園は、当該学校法人が設置する大阪成蹊短期大学において、平成 28 年度からの幼児教育学科の入学定員を増員するために認可申請されるとのことです。

大阪成蹊短期大学は、幼稚園教員、保育士等の養成機関として長年の伝統と歴史があり、卒業生は本市のみならず近畿地区の幼稚園、保育所等で教員、保育士及び指導者として活躍されております。

このように、長年にわたる実績に裏付けされた教育の強みや特色を活かし、新しい時代の高度な教育、保育知識を身に付けた教員、保育士を数多く養成するために、入学定員を増員することは、大阪市民の教育的要請に対しても大きな役割を果たすことが期待されます。

つきましては、当該学校法人の設置する大阪成蹊短期大学幼児教育学科の入学定員増員の認可申請に関しまして、特段のご高配を賜りますよう副申いたします。



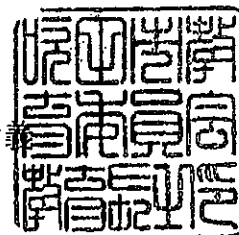
平成 27 年（2015 年）1 月 7 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

吹田市教育委員会

教育長 梶谷 尚義



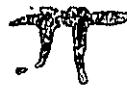
幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



平成 27 年（2015 年）1 月 7 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

吹田市教育委員会
教育長 梶谷 尚義



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

豊 こ 保 第 2167-2号

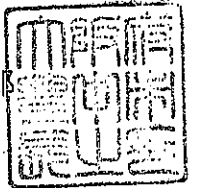
平成 27 年 (2015 年) 1 月 5 日

大阪成蹊短期大学

学長 岡本 正志 様

豊中市長

浅利 敬一郎



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

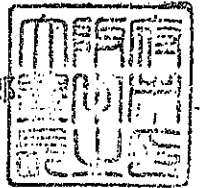
長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学定員の要望をいたします。

豊 こ 保 第 2167 号
平成 27 年 (2015 年) 1 月 5 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊中市長
浅利 敬一郎



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年(2014 年)12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

池田市教育委員会
教育長 村田 陽



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



平成 26 年(2014 年)12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

池田市教育委員会
教育長 村田 陽



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

摂 教 総 第 886 号
平成 27 年 (2015 年) 1 月 19 日

大 阪 成 蹊 短 期 大 学
学 長 岡 本 正 志 様

摂 津 市 教 育 委 員 会
教 育 長 箸 尾 谷 知



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

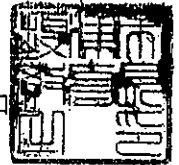
長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

摂 教 総 第 886 号
平成 27 年 (2015 年) 1 月 19 日

大 阪 成 蹊 短 期 大 学
学 長 岡 本 正 志 様

摂 津 市 教 育 委 員
教 育 長 箸 尾 谷 知



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。 ○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力を
いただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保
育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、
指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っ
ているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及ん
でおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めて
いる地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての
貴学の入学定員の増員を要望いたします。 ○

平成 26 年 (2014 年) 12 月 24 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

茨木市教育委員会

教育長 八木 章 治



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年 (2014 年) 12 月 24 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

茨木市教育委員会

教育長 八木 章 治



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

高教総第 1016 号

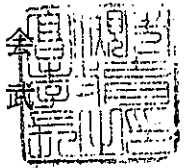
平成26年12月24日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

高槻市教育委員会

教育長 一瀬



幼稚園教諭養成施設の拡充について

日頃は本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、本市をはじめとした地域で活躍する幼稚園教諭の養成に大いなる貢献をいただいているところです。

その様な状況の中、長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容や指導の評判などにより、指定幼稚園教諭養成施設としての貴学への入学希望者が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍する事を願う若者や、質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待や要望に応える為にも、必要な人材の供給できるよう、貴学の入学定員の増員を含んだ、幼稚園教諭養成施設の拡充について要望するものです。

高教総第 1016 号

平成26年12月24日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

高槻市教育委員会

教育長 一瀬



指定保育士養成施設の拡充について

日頃は本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、本市をはじめとした地域で活躍する保育士の養成に大いなる貢献をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

その様な状況の中、長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容や指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍する事を願う若者や、質の高い保育士を求めている地域社会の期待や要望に応える為にも、必要な人材の供給できるよう、貴学の入学定員の増員を含んだ、指定保育士養成施設の拡充について要望するものです。

島教子第1406号

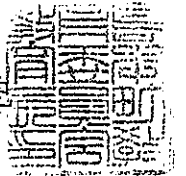
平成26年12月22日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

島本町教育委員会

教育長 岡本 克



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

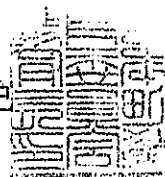
長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

島教子第1406号
平成26年12月22日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

島本町教育委員会
教育長 岡本 克己



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。 ○

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。 ○

平成 26 年 12 月 19 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊能町教育委員会
教育長 石塚 謙 印

幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域社会における幼児教育に資する幼稚園教諭養成に大いなるご活躍をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の高い評価などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあることは誠に残念であります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを切望する若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年 12 月 19 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

豊能町教育委員会
教育長 石塚 謙二

指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域社会における保育の充実に資する保育士養成に大いなるご活躍をいただいているところです。

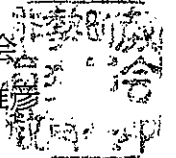
長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の高い評価などにより、保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあることは誠に残念であります。

将来、保育士として活躍することを切望する若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

能学第 1294・2 号
平成 26 年(2014 年) 12 月 18 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

能勢町教育委員会
教育長 森田 雅彦



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

能学第 1294 号
平成 26 年(2014 年)12 月 18 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

能勢町教育委員会
教育長 森田 雅彦



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本町の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

集 子 育 第 352号

平成20年(2015年)1月15日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

敬啓者、貴学より
送付いただきました
「幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について」
の件、拝見いたしました。



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



箕子育第35号
平成27年(2015年)1月15日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

指定保育士養成施設の入学定員増員について



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

東大阪市教委教第 4173 号
平成 26 年 12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学長 岡本 正志 様

東大阪市教育委員会
教育長 西村 保



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について（要望）

日頃より、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
また、地域で活躍する幼稚園教諭養成に多大なご協力、ご貢献をいただき感謝申し上げます。

さて、次年度の入学予定者につきまして、貴学の長年に亘る幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると 聞き及んでいます。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員を増員していただきますよう要望いたします。

平成 26 年（2014 年）12 月 26 日

大阪成蹊短期大学
学 長 岡本 正志 様

川西市教育委員会
教育長 牛 尾 巧



幼稚園教諭養成課程の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する幼稚園教諭養成に大いなるご協力をいただいているところです。

長年に亘る貴学の幼稚園教諭養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、幼稚園教諭養成課程としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

将来、幼稚園教諭として活躍することを願う若者や、また質の高い幼稚園教諭を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも幼稚園教諭養成課程としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。

平成 26 年（2014 年）12 月 26 日

大阪成蹊短期大学

学 長 岡本 正志 様

川西市教育委員会

教育長 牛 尾 巧



指定保育士養成施設の入学定員増員について

日ごろは、本市の教育行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、貴学におかれましては、地域で活躍する保育士養成に大いなるご協力をいただいているところです。昨今、保育士の確保は喫緊の課題であり、良質な保育士の育成に力を注いでおられる貴学への期待は一層高まるばかりです。

長年に亘る貴学の保育士養成の実績、また教育内容、指導の評判などにより、指定保育士養成施設としての貴学への入学希望者数が入学定員を大きく上回っているため、多くの受験者が入学を断念せざるを得ない状況にあると聞き及んでおります。

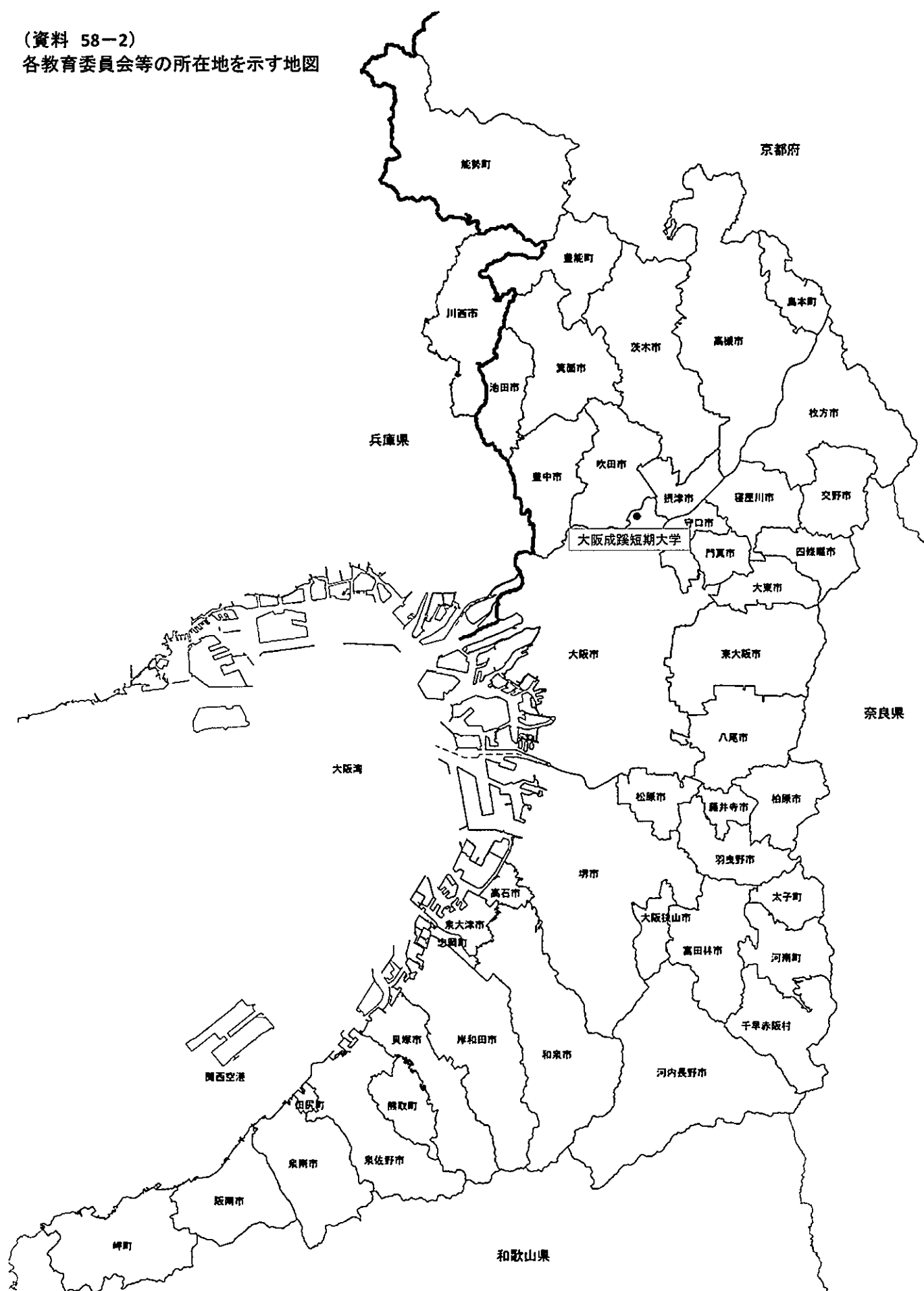
将来、保育士として活躍することを願う若者や、また質の高い保育士を求めている地域社会の期待に応えるためにも、ぜひとも指定保育士養成施設としての貴学の入学定員の増員を要望いたします。



1
2
3
4

(資料 58-2)

各教育委員会等の所在地を示す地図

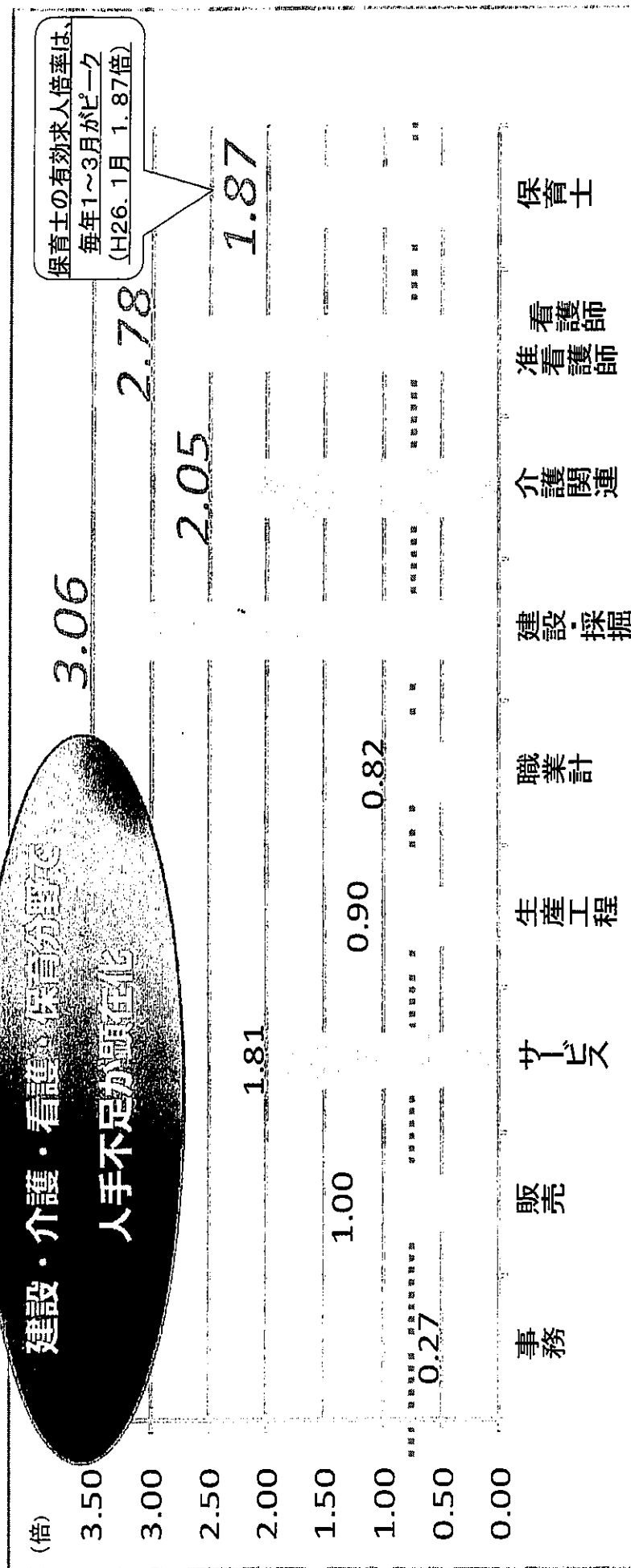


※  は各教育委員会等の所在地を示す。

(近畿ブロック) 主な職種別有効求人倍率等の状況

(平成26年5月)

(資料 59)



	事務	販売	サービス	生産工程	職業計	建設・採掘	介護関連	看護師 准看護師	保育士 (H26.1)
有効求人倍率	0.27	1.00	1.81	0.90	0.82	3.06	2.05	2.78	1.87
月間有効求人数	31,300	41,826	80,718	27,989	326,859	13,945	36,581	16,003	5,795
月間有効求職者数	117,301	42,024	44,508	31,253	396,429	4,563	17,819	5,748	3,095

(注) 1. パートタイムを含む常用。 2. 「介護関連」は専門技術およびサービスのうち、介護関連の職業を合計したものである。

(資料60) 大阪市における保育所数及び保育士数の推移(平成23年～25年)

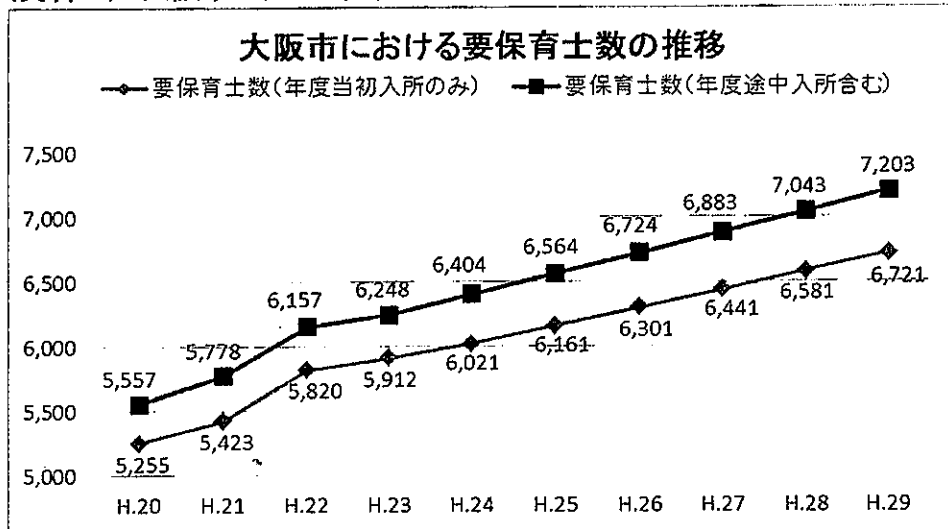
(単位:件、人)

	平成23年	平成24年	平成25年
保育所数	388	394	395
保育士数	6,216	6,165	6,140

大阪市こども青少年局調、平成25年度「大阪市における保育所の概況」より作成

(資料61) 大阪市における要保育士数の推移

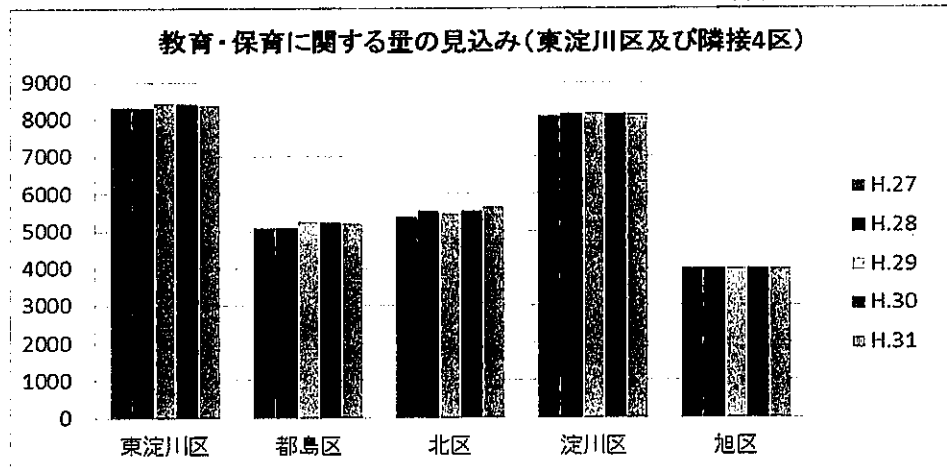
(単位:人)



大阪市の平成26年度国の施策・予算に関する提案(平成25年6月)「3.待機児童解消に向けた施策の充実」の資料「大阪市における要保育士数の推移」より作成

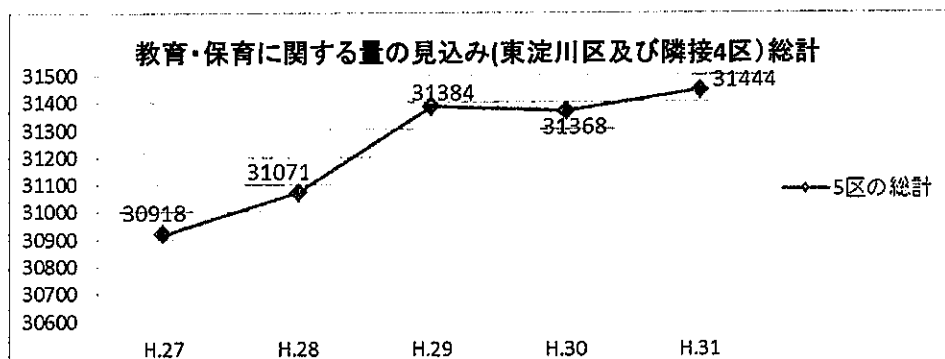
(資料62-1) 教育・保育に関する量の見込み(東淀川区及び隣接4区)

(単位:人)



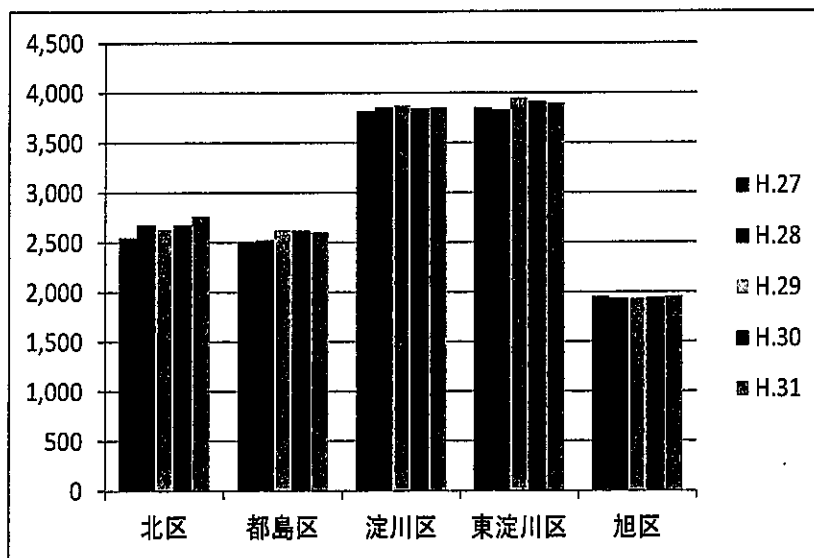
(資料62-2) 教育・保育に関する量の見込み(東淀川区及び隣接4区)総計

(単位:人)

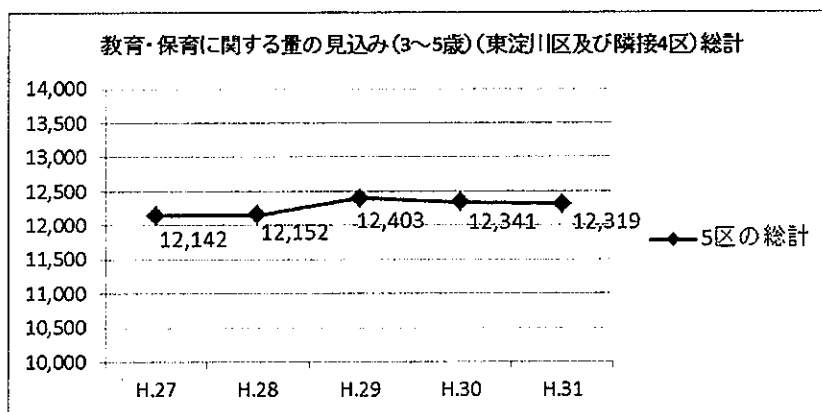


資料62-1,62-2は、大阪市の「こども・子育て支援会議」第1回会議にて配布の資料より作成

(資料63-1) 教育・保育に関する量の見込み(3～5歳)(東淀川区及び隣接4区)
(単位:人)

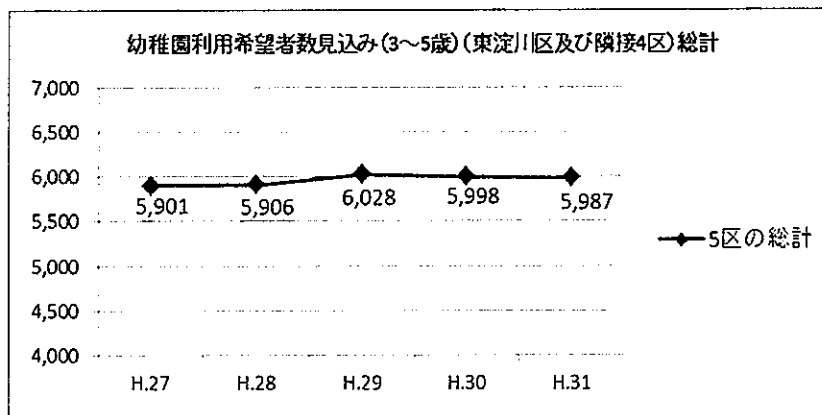


(資料63-2) 教育・保育に関する量の見込み(3～5歳)(東淀川区及び隣接4区)総計
(単位:人)



資料63-1,63-2は、大阪市の「こども・子育て支援会議」第1回会議にて配布の資料より作成

(資料63-3) 幼稚園利用希望者数見込み(3～5歳)(東淀川区及び隣接4区)総計
(単位:人)



(資料64-1) 過去3カ年の本学幼児教育学科就職状況
(平成25年度以前は児童教育学科幼児教育学専攻)

	平成23年度卒業生		平成24年度卒業生		平成25年度卒業生		平成26年度卒業生 (見込み)	
卒業者数(A)	154		164		190		239	
就職希望者数(B)	135		145		175		230	
就職希望率(B)/(A)	87.7%		88.4%		92.1%		96.2%	
就職者数(C)	135		145		175		230	
就職率(C)/(B)	100%		100%		100%		100%	
内訳	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
	幼稚園教諭	48 35.6	46 31.7	46 26.3	68 29.6			
	保育士	78 57.8	86 59.3	111 63.4	136 59.1			
	施設職員	0 0	0 0	7 4.0	12 5.2			
	幼稚園教諭・保育士合計	126 93.4	132 91.0	164 93.7	216 93.9			
	一般企業	9 6.7	13 9.0	11 6.3	14 6.1			

(資料64-2) 直近3カ年の本学への求人状況

(当該年度卒業生に対する求人には3月以前受理分も含まれるため各表は「～12月」分から表記している)

■平成24年度

(単位:件)

	～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	0	0	0	0	3	12	21	38	68	69	35	21	14	6	0	287
保育士	1	0	1	0	2	11	19	29	60	68	74	76	54	33	13	2	443
小計	1	0	1	0	2	14	31	50	98	136	143	111	75	47	19	2	730
累計	(1)	(1)	(2)	(2)	(4)	(18)	(49)	(99)	(197)	(333)	(476)	(587)	(662)	(709)	(728)	(730)	

■平成25年度

	～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	0	0	0	0	18	53	70	32	71	50	23	9	4	1	0	331
保育士	1	1	2	1	9	34	94	80	71	119	80	43	18	15	8	0	576
小計	1	1	2	1	9	52	147	150	103	190	130	66	27	19	9	0	907
累計	(1)	(2)	(4)	(5)	(14)	(66)	(213)	(363)	(466)	(656)	(786)	(852)	(879)	(898)	(907)	(907)	

■平成26年度

	～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園教員	0	0	1	1	4	22	56	82	31	85	49	18	3	4	1		357
保育士	1	3	1	2	11	53	131	142	103	110	98	30	16	5	2		708
小計	1	3	2	3	15	75	187	224	134	195	147	48	19	9	3		1065
累計	(1)	(4)	(6)	(9)	(24)	(99)	(286)	(510)	(644)	(839)	(986)	(1034)	(1053)	(1062)	(1065)		

(資料65) 直近3ヵ年の本学への求人状況 (企業)

(当該年度卒業生に対する求人には3月以前受理分も含まれるため各表は「～12月」分から表記している)

■平成24年度

(単位:件)

		～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
企業	件数	48	51	65	43	81	88	89	97	69	95	101	55	54	79	38	22	1075
	累計	48	99	164	207	288	376	465	562	631	726	827	882	936	1015	1053	1075	

■平成25年度

(単位:件)

		～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
企業	件数	59	106	153	102	128	159	127	108	101	88	86	59	47	52	32	12	1419
	累計	59	165	318	420	548	707	834	942	1043	1131	1217	1276	1323	1375	1407	1419	

■平成26年度

(単位:件)

		～12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
企業	件数	115	122	93	78	228	187	177	92	66	86	77	57	33	33	18		1462
	累計	115	237	330	408	636	823	1000	1092	1158	1244	1321	1378	1411	1444	1462		

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	キムラ カズアキ 木村 一信 ＜平成27年4月＞		博士 (文学)		大阪成蹊短期大学 教授 (平成27.4)